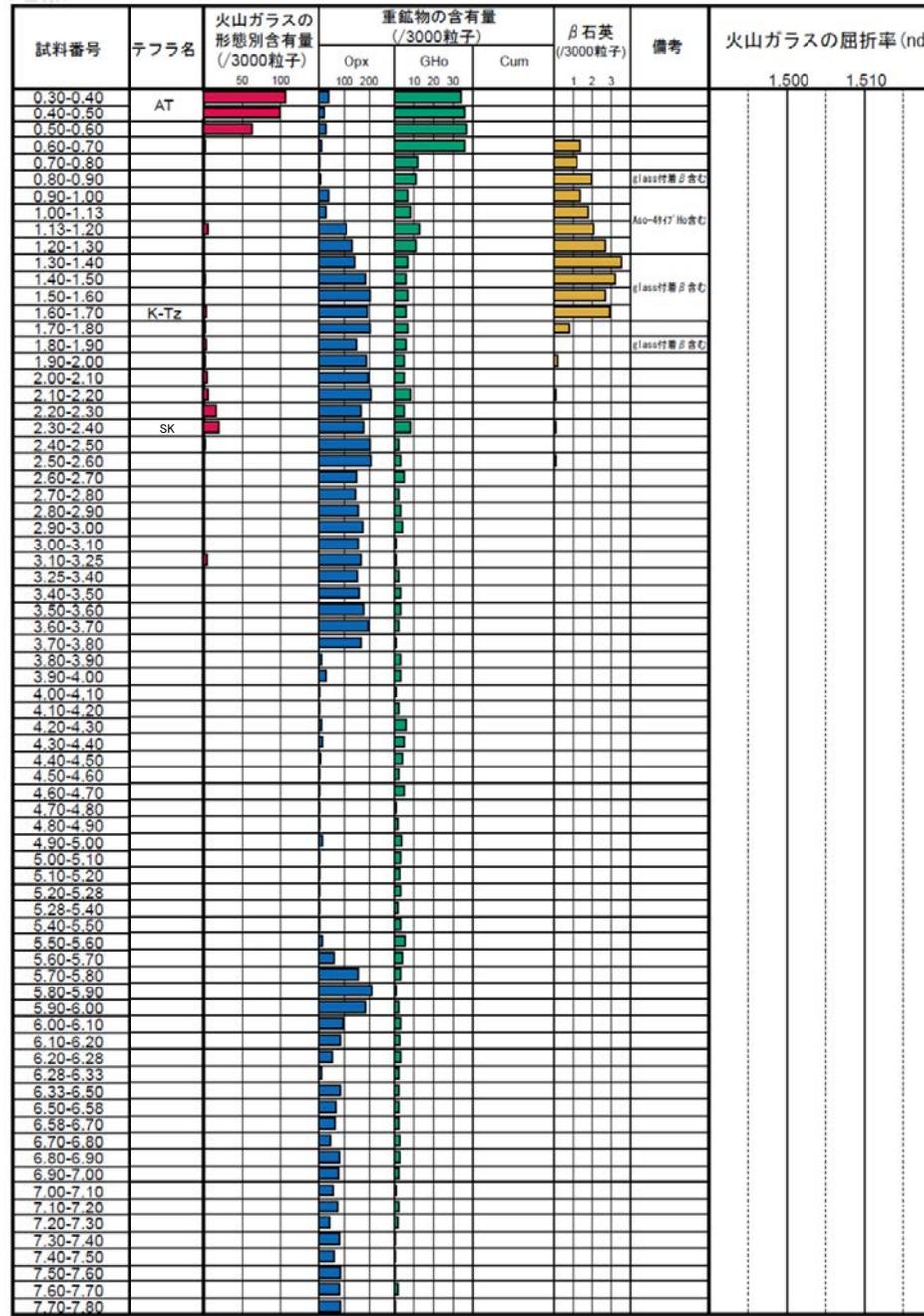


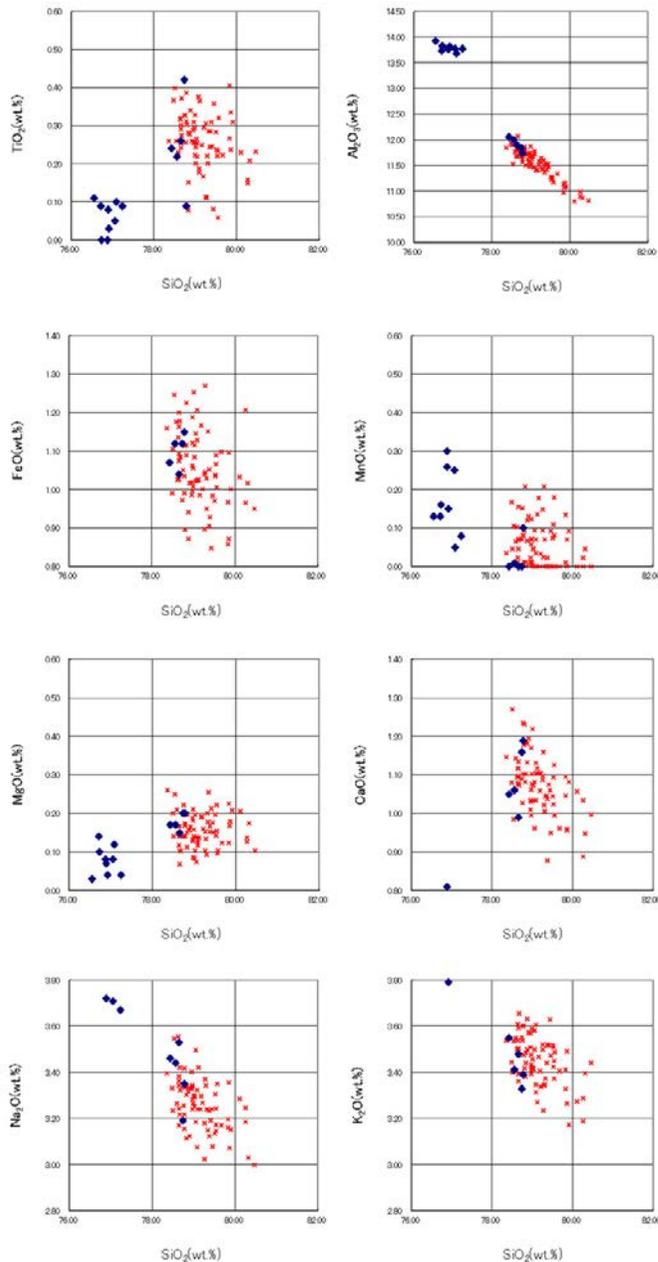
生神中部 UR-M04(火山灰分析結果①)



■ パブルウォール(Ba)タイプ
■ 低臭泡(O)タイプ
■ Opx:斜方輝石
■ GHo:緑色普通角閃石
■ Cum:カミンゲン閃石
 Count: 0 10 20 30

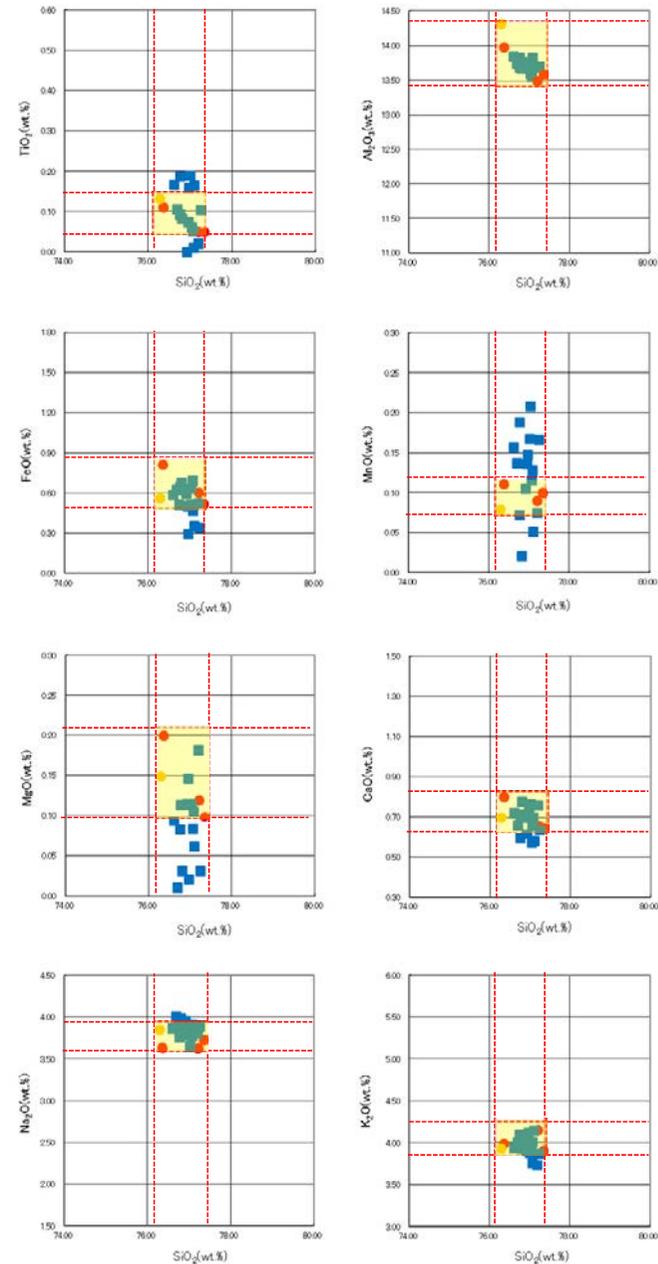
火山灰分析結果

生神中部 UR-M04(火山灰分析結果②)



◆ 試料番号1.60-1.70におけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分
 * 古澤・中村(2009)におけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分

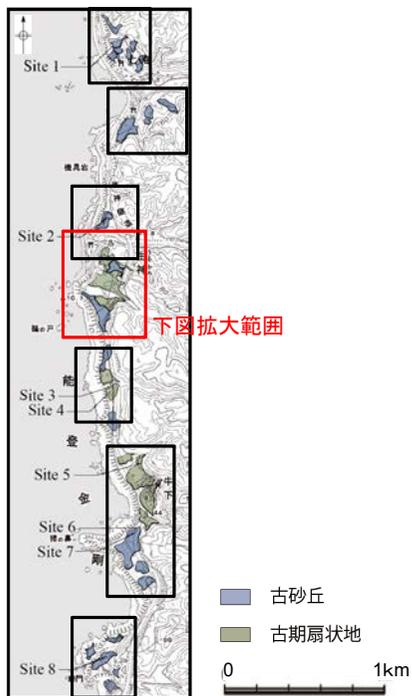
火山ガラスの主成分分析結果: 試料番号1.60-1.70



■ 試料番号2.30-2.40におけるSKの火山ガラス
 ■ 文献によるSKの分布範囲
 ● 青木・町田(2006)におけるSKに含まれる火山ガラス(採取地:鳥取, 島根, 山形)
 ● 長橋ほか(2007)におけるSKに含まれる火山ガラス(採取地:島根)

火山ガラスの主成分分析結果: 試料番号2.30-2.40

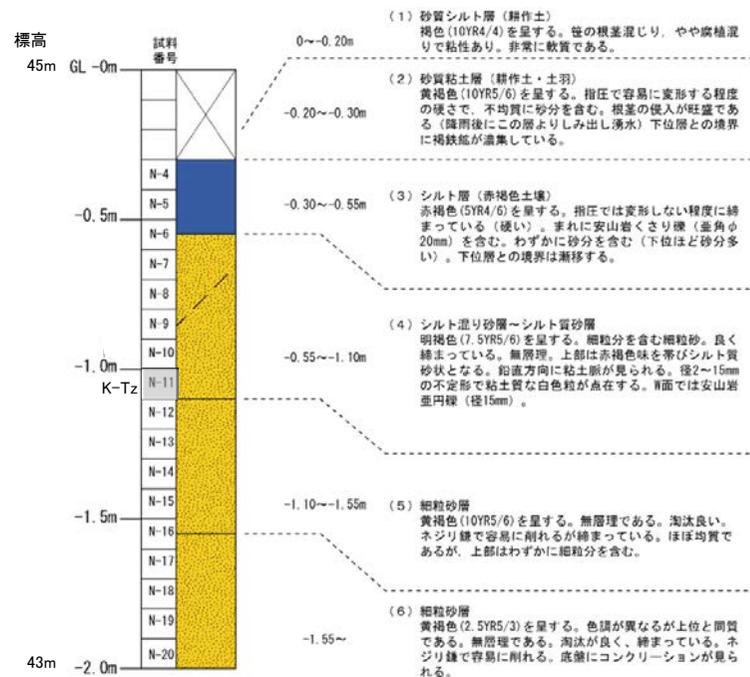
生神中部 UR-M05 (ピット写真・柱状図・火山灰分析結果)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)

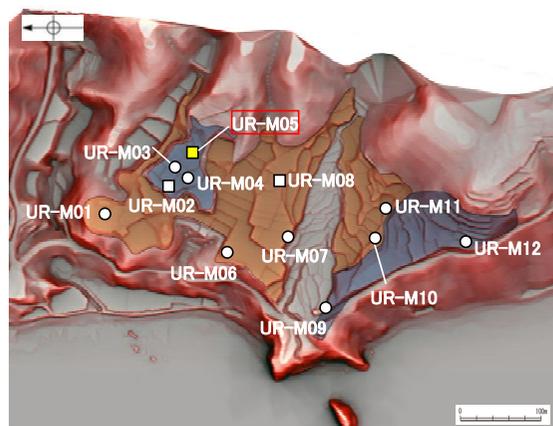
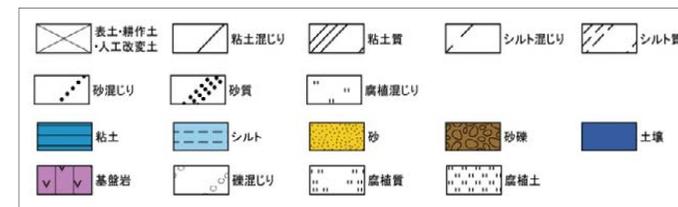


ピット写真(UR-M05)

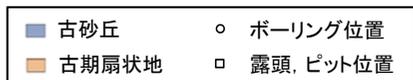


柱状図

凡例



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)

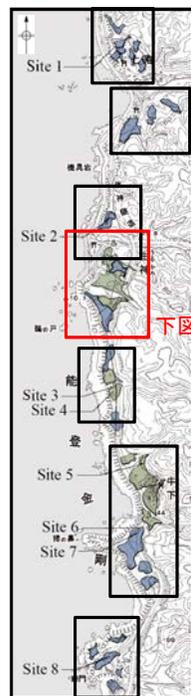


試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510
N-4		2 4	50 100 150	5 10 15	Cum	0.5 1.0 1.5 2.0			
N-5									
N-6									
N-7									
N-8									
N-9									
N-10									
N-11	K-Tz								
N-12									
N-13									
N-14									
N-15									
N-16									
N-17									
N-18									
N-19									
N-20									

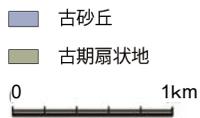
■ パブルウォール(Bw)タイプ
Opx: 斜方輝石
GHo: 緑色普通角閃石
Cum: カミンクン閃石

火山灰分析結果

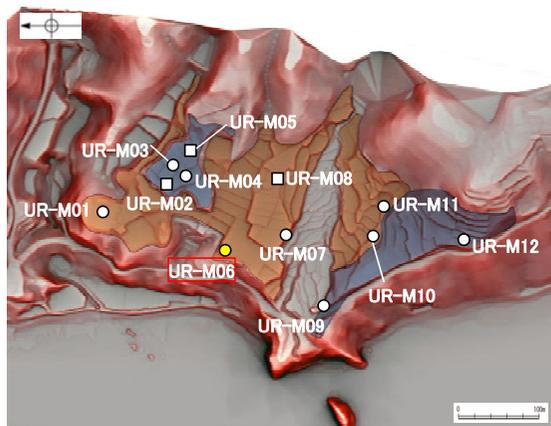
生神中部 UR-M06 (コア写真・柱状図・火山灰分析結果)



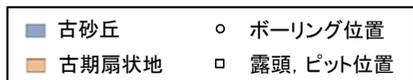
下図拡大範囲



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



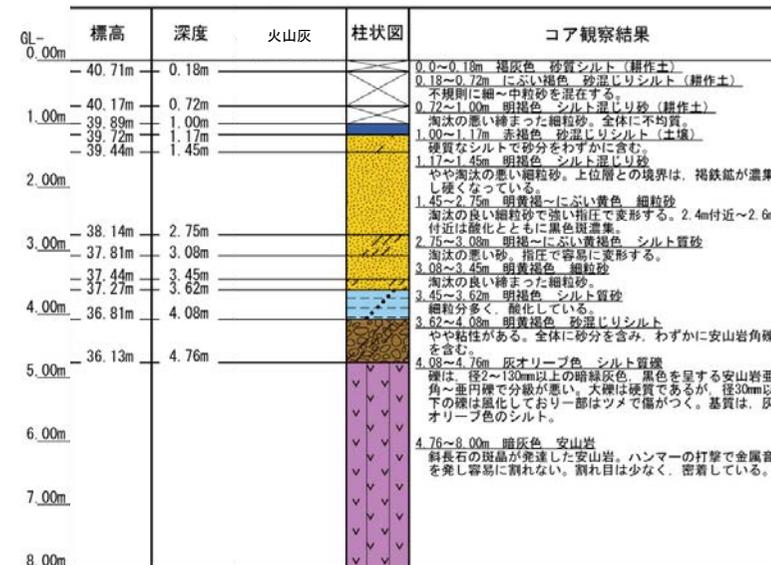
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



深度(m) UR-M06(孔口標高40.89m, 掘進長8m, 鉛直) 深度(m)

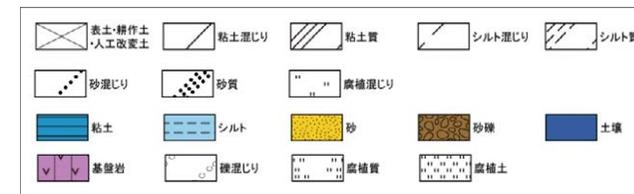


コア写真(深度0~8m)



柱状図

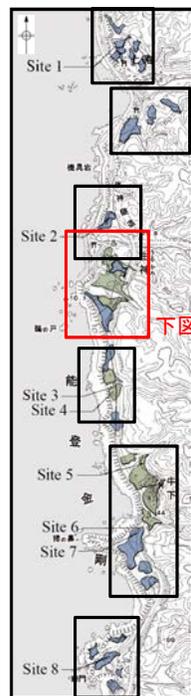
凡例



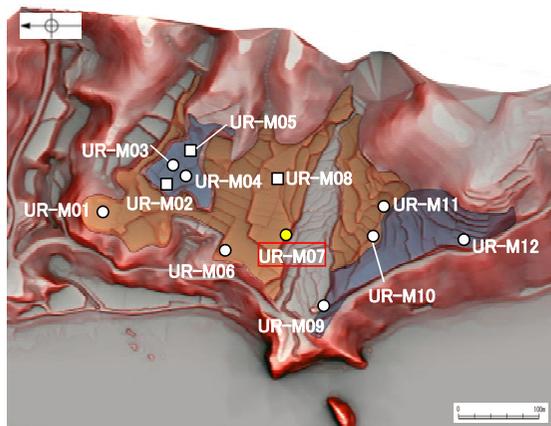
試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)			重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)	
		0.2	0.4	0.6	0.8	Opx	GHo			Cum	1.500
1.00-1.10											
1.10-1.17											
1.17-1.25											
1.25-1.35											
1.35-1.45											
1.45-1.55											
1.55-1.65											
1.65-1.75											
1.75-1.85											
1.85-1.95											
1.95-2.05											
2.05-2.15											
2.15-2.25											
2.25-2.35											
2.35-2.45											
2.45-2.55											
2.55-2.65											
2.65-2.75											
2.75-2.85											
2.85-2.95											
2.95-3.08											
3.08-3.15											
3.15-3.25											
3.25-3.35											
3.35-3.45											
3.45-3.55											
3.55-3.62											
3.62-3.75											
3.75-3.85											
3.85-3.95											
3.95-4.08											
4.08-4.15											
4.15-4.25											

火山灰分析結果

生神中部 UR-M07(コア写真・柱状図・火山灰分析結果)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



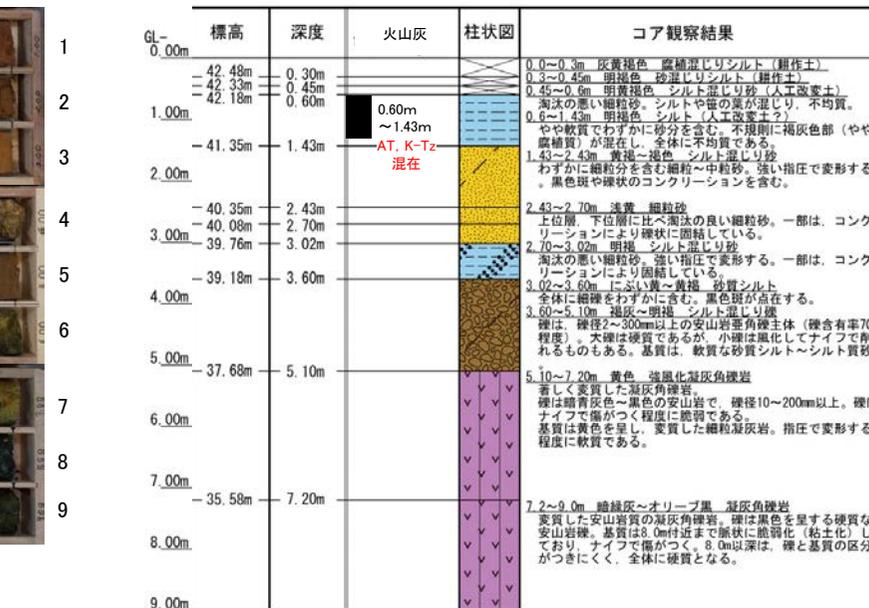
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



UR-M07(孔口標高42.78m, 掘進長9m, 鉛直)

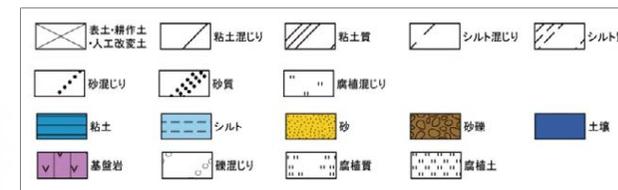


コア写真(深度0~9m)



柱状図

凡例



試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率(nd)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510
0.60-0.70	AT, K-Tz 混在								
0.70-0.80									
0.80-0.90									
0.90-1.00									
1.00-1.10									
1.10-1.20									
1.20-1.30									
1.30-1.43									
1.43-1.50									
1.50-1.60									
1.60-1.70									
1.70-1.80									
1.80-1.90									
1.90-2.00									
2.00-2.10									
2.10-2.20									
2.20-2.30									
2.30-2.43									
2.43-2.50									
2.50-2.60									
2.60-2.70									
2.70-2.80									
2.80-2.90									
2.90-3.02									
3.02-3.10									
3.10-3.20									
3.20-3.30									
3.30-3.40									
3.40-3.50									
3.50-3.60									

■パブルウォール(B)タイプ Opx: 斜方輝石 GHo: 緑色普通角閃石 Cum: カルシウム角閃石

火山灰分析結果

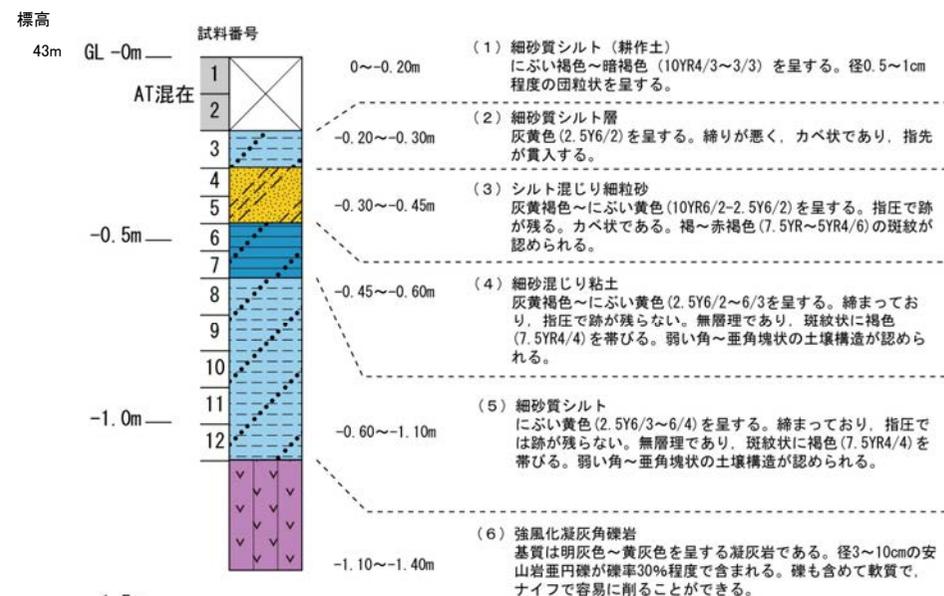
生神中部 UR-M08 (露頭写真・柱状図・火山灰分析結果)



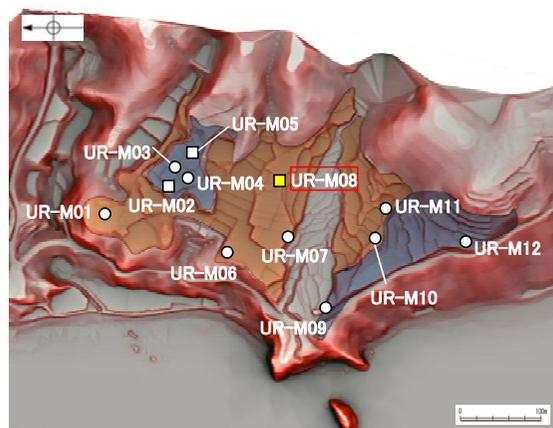
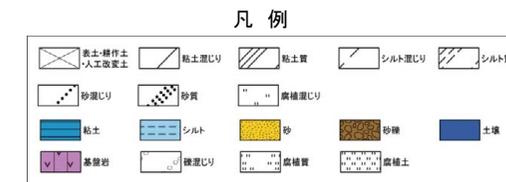
地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



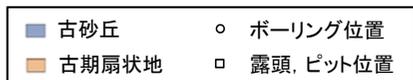
露頭写真(UR-M08)



柱状図



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)

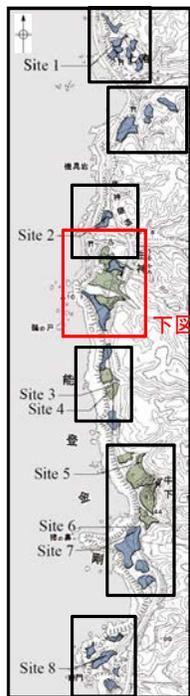


試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510
1	AT混在	5 10 15	10 20 30 40	2 4 6	0.5 1.0 1.5				
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									

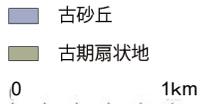


火山灰分析結果

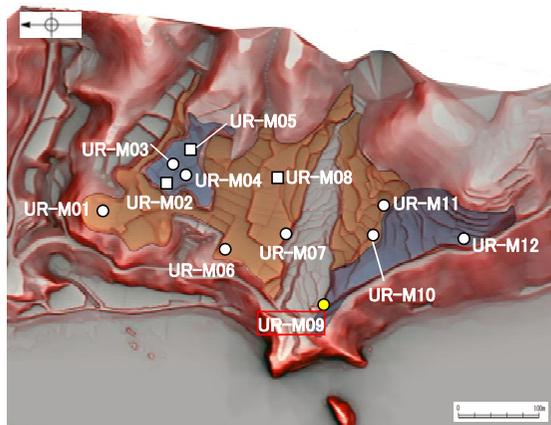
生神中部 UR-M09(コア写真・柱状図)



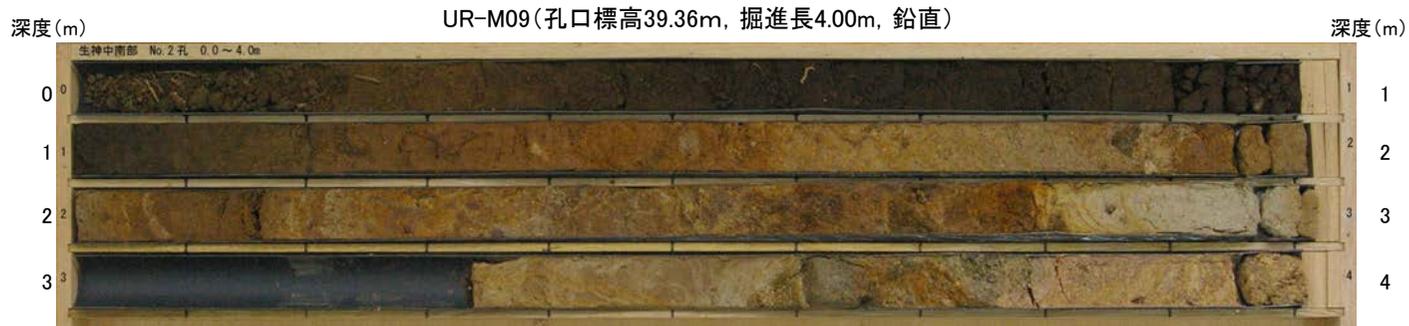
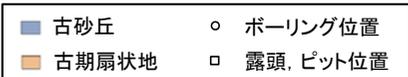
下图拡大範囲



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



コア写真(深度0~4m)

※深度3.0~4.0m間は、コアサンプラーの打撃によりコアが圧縮されている。

GL-	標高	深度	火山灰	柱状図	コア観察結果
0.00m					
	39.16m	0.20m			0.00~0.20m 黒褐色 中粒~細粒砂(表土) 砂粒子は亜角形で、淘汰は中程度である。現世の植物根を多く含む。締まりの程度は、非常にゆるい。
	38.96m	0.40m			0.20~0.40m 黒褐色 中粒~細粒砂 砂粒子は亜角形で、淘汰は中程度である。指圧で跡が残らない程良く締まっている。
1.00m			0.20m ~1.51m AT, K-Tz 混在		0.40~1.10m 黒色 砂混じり腐植質シルト 指圧で跡が残らない程良く締まっている。
	38.26m	1.10m			1.10~1.42m 暗褐~褐色 砂混じりシルト 指圧で跡が残らない程良く締まっている。深度1.4mに径15mm程度の安山岩の亜角礫を含む。やや土壌化を被る。
	37.94m	1.42m			1.42~1.60m 褐色 礫混じりシルト質 細粒~中粒砂 砂粒子は亜角形で、淘汰は悪い。径2cm程度の安山岩のくさり礫を含む。やや土壌化を被る。
2.00m					1.60~2.02m 灰黄色 細粒~中粒砂 砂粒子は亜角形で、淘汰は中程度である。深度1.9m付近に径1~2cmの安山岩のくさり礫を含む。
	37.34m	2.02m			2.02~2.18m 暗褐色 細粒~中粒砂 砂粒子は亜角形で、淘汰は中程度である。深度2.05mと2.07mに厚さ1mm程度のシルト層を挟む。
	37.18m	2.18m			2.18~2.26m 灰黄色 シルト 深度2.2mに厚さ1cmの砂層を挟む。
	37.10m	2.26m			2.26~2.80m 暗灰黄色 礫 礫は安山岩のくさり礫(径1~4cm)からなり、基質は細粒~中粒砂で、全体的に基質支持である。まれに新鮮な安山岩の亜円礫を含む。礫化構造が見られる。
3.00m					2.80~2.96m 明オリブ灰色 砂混じり粘土 下位層との境界付近に粗粒砂を多く含む。新鮮な植物根を含む。
	36.56m	2.80m			2.96~3.26m 灰オリブ~灰色 極細粒砂 乱された構造(生物擾乱?)が見られる。金雲母?を含む。
	36.40m	2.96m			3.26~4.00m 安山岩 全体的に強風化している。
	36.10m	3.26m			
4.00m					

柱状図

生神中部 UR-M09(火山灰分析結果)

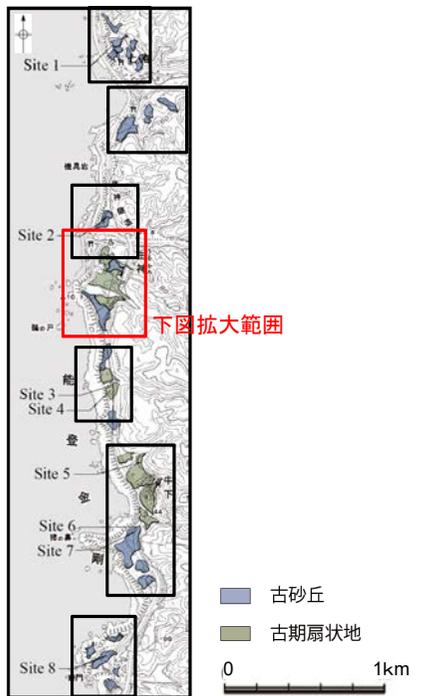
試料番号	テフラ名	火山ガラスの 形態別含有量 (/3000粒子) 20 40	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β 石英 (/3000粒子) 0.3 0.6	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)		角閃石の屈折率 (n2)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510	1.680	1.690
A-02	AT, K-Tz 混在										
A-03											
A-04											
A-05											
A-06											
A-07											
A-08											
A-09											
A-10											
A-11											
A-12											
A-13											
A-14											
A-15											
A-16											
A-17											
A-18											
A-19											
A-20											
A-21											
A-22											
A-23											
A-24											
A-25											
A-26											
A-27											
A-28											
A-29											
A-30											
A-31											
A-32											

■ バブルウォール (Bw) タイプ Opx: 斜方輝石
■ パミス (Pm) タイプ GHo: 緑色普通角閃石
■ 低発泡 (O) タイプ Cum: カミングトン閃石

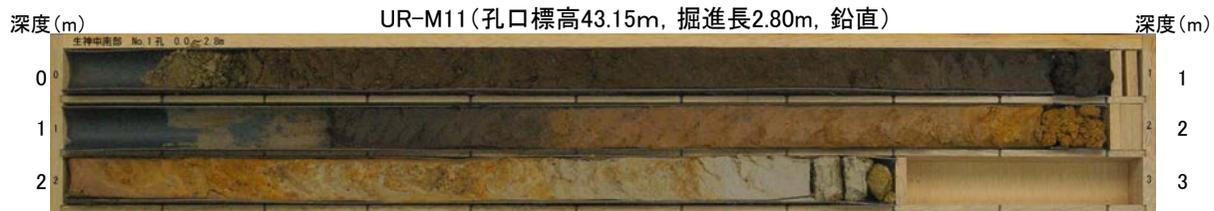


火山灰分析結果

生神中部 UR-M11(コア写真・柱状図)

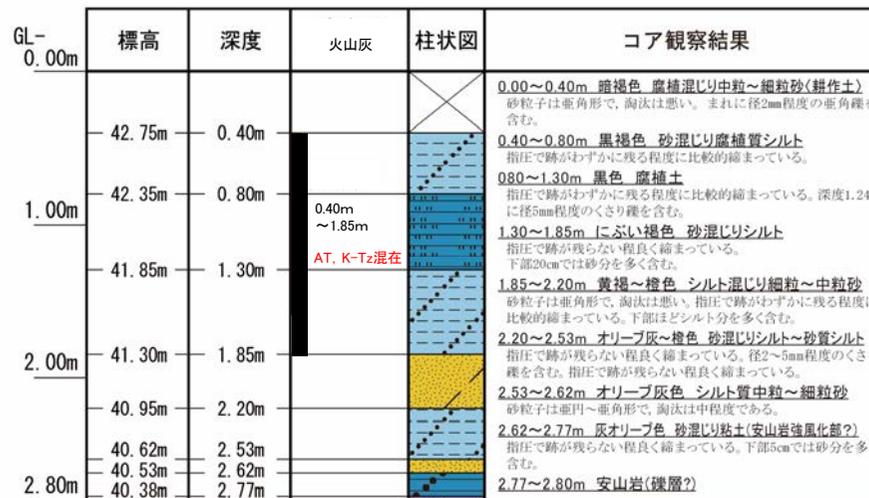


地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)

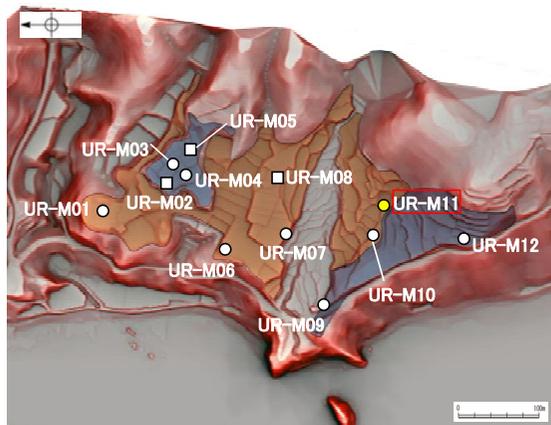


コア写真(深度0~2.8m)

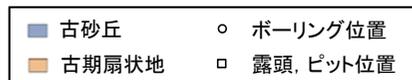
※深度0.0~0.1m間と1.0~1.23m間は、コアサンプラーの打撃によりコアが圧縮されている。



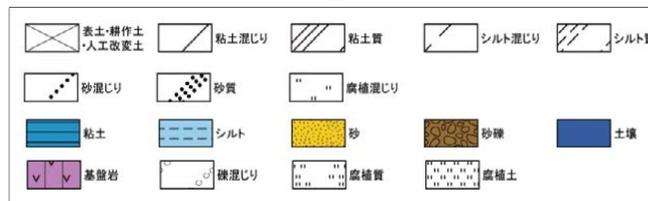
柱状図



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



凡例



生神中部 UR-M11(火山灰分析結果)

試料番号	テフラ名	火山ガラスの 形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β 石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)		角閃石の屈折率 (n2)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510	1.680	1.690
A-04	At. K-Tz混在										
A-05											
A-06											
A-07											
A-08											
A-09											
A-10											
A-11											
A-12											
A-13											
A-14											
A-15											
A-16											
A-17											
A-19											
A-20											
A-21											
A-22											
A-23											
A-24											
A-25											
A-26											
A-27											

■ バブルウォール (Bw) タイプ Opx: 斜方輝石
■ バミス (Pm) タイプ GHo: 緑色普通角閃石
■ 低発泡 (O) タイプ Cum: カミングトン閃石



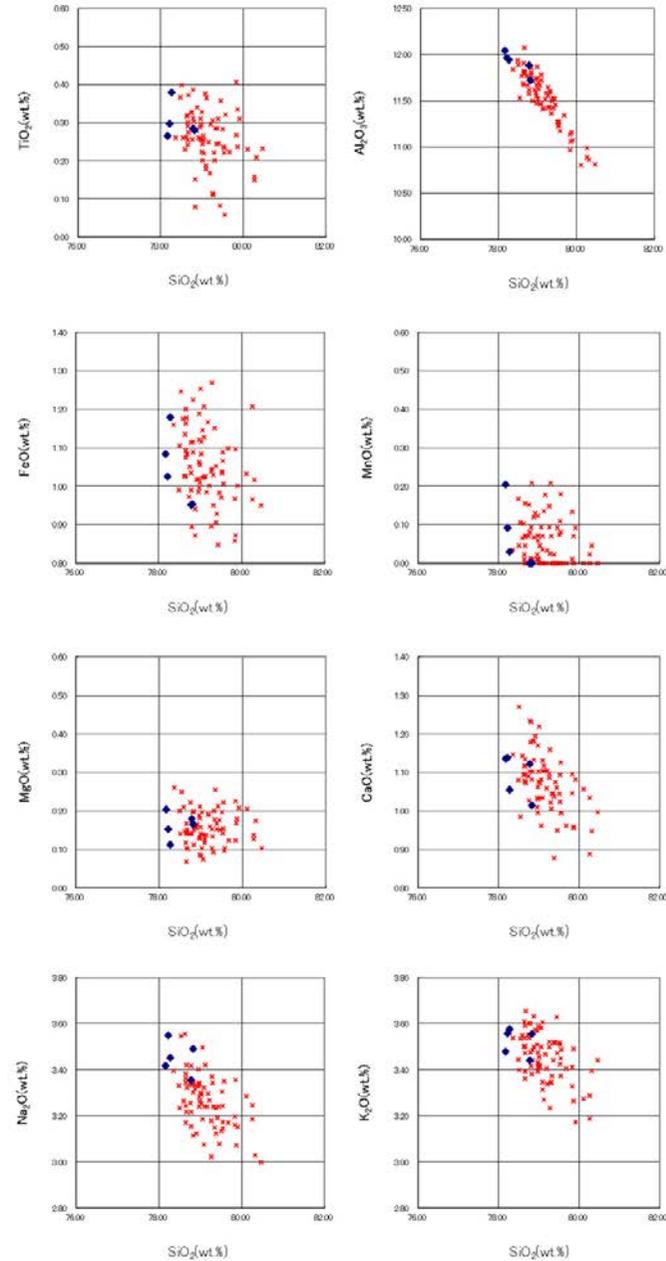
火山灰分析結果

生神中部 UR-M12(火山灰分析結果)

試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510
0.00-0.10									
0.10-0.20									
0.20-0.30									
0.30-0.40									
0.40-0.50									
0.50-0.65									
0.65-0.80									
0.80-0.90									
0.90-1.00									
1.00-1.10									
1.10-1.20									
1.20-1.35									
1.35-1.45									
1.45-1.55	AT								
1.55-1.65									
1.65-1.75									
1.75-1.85									
1.85-2.00									
2.00-2.10									
2.10-2.20									
2.20-2.30									
2.30-2.40	K-Tz								
2.40-2.50									
2.50-2.63									
2.63-2.70									
2.70-2.80									
2.80-2.90									
2.90-3.00									
3.00-3.10									
3.10-3.20									
3.20-3.30									
3.30-3.40									
3.40-3.50									
3.50-3.60									
3.60-3.70									
3.70-3.85									
3.85-3.95									
3.95-4.05									
4.05-4.15									
4.15-4.25									
4.25-4.35									
4.35-4.45									
4.45-4.55									
4.55-4.65									
4.65-4.75									
4.75-4.85									
4.85-4.95									
4.95-5.05									
5.05-5.15									
5.15-5.25									
5.25-5.35									
5.35-5.45									
5.45-5.55									
5.55-5.65									
5.65-5.75									
5.75-5.85									
5.85-6.00									
6.00-6.10									
6.10-6.20									
6.20-6.30									
6.30-6.40									
6.40-6.53									
6.53-6.60									
6.60-6.70									
6.70-6.80									
6.80-6.90									
6.90-7.00									
7.00-7.10									
7.10-7.20									
7.20-7.30									
7.30-7.40									
7.40-7.50									
7.50-7.60									
7.60-7.70									
7.70-7.80									
7.80-7.90									
7.90-8.00									
8.00-8.10									
8.10-8.20									
8.20-8.30									
8.30-8.40									
8.40-8.50									
8.50-8.60									
8.60-8.70									
8.70-8.80									
8.80-8.93									
8.93-9.00									
9.00-9.10									
9.10-9.20									
9.20-9.30									
9.30-9.40									
9.40-9.50									
9.50-9.60									
9.60-9.70									
9.70-9.80									
9.80-9.90									
9.90-10.00									

■ バブルウォール (B) タイプ Opx: 斜方輝石
■ ハミス (H) タイプ GHo: 緑色普通角閃石
■ 低角泡 (L) タイプ Cum: カシテンブロン輝石

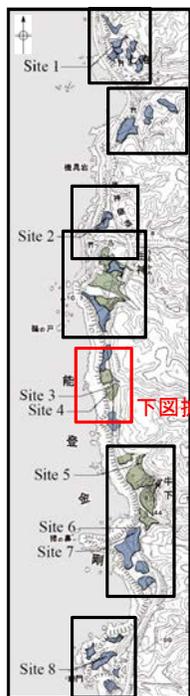
火山灰分析結果



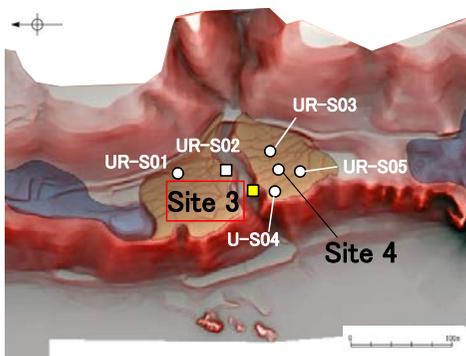
火山ガラスの主成分分析結果: 試料番号2.30-2.40

◆ 試料番号2.30-2.40におけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分
★ 古澤・中村(2009)におけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分

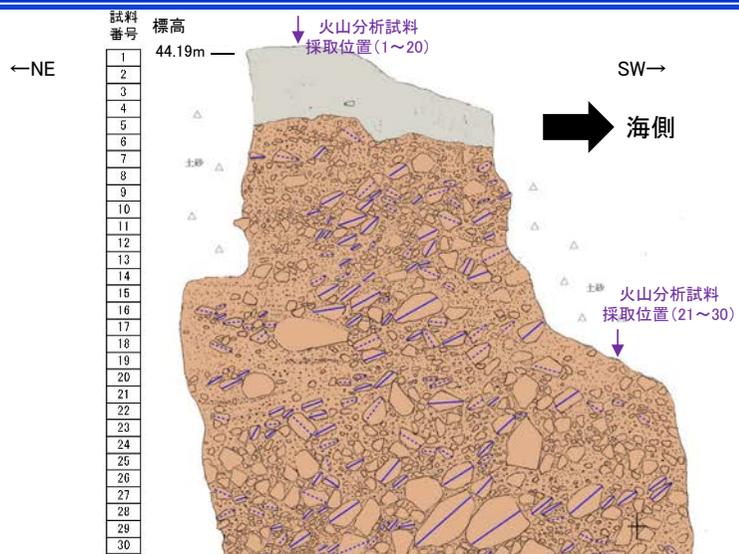
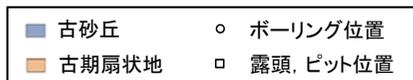
生神南部 Site 3(露頭写真・スケッチ・古流向)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



青線: 礫の長軸方向

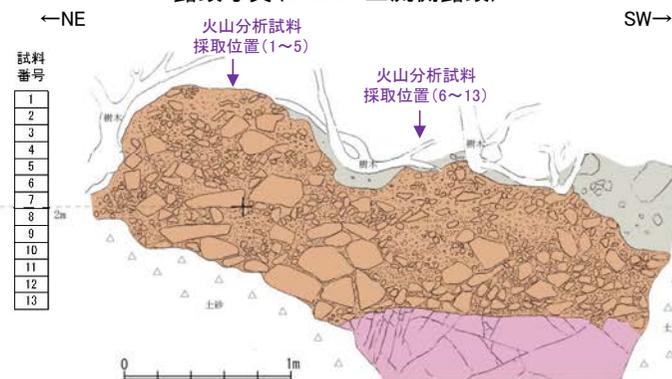
スケッチ(Site 3 上流側露頭)



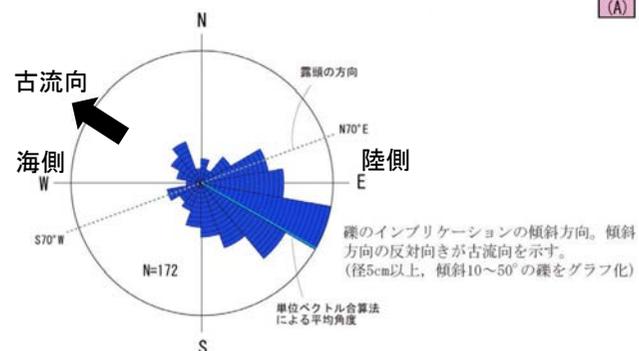
露頭写真(Site 3 下流側露頭)



露頭写真(Site 3 上流側露頭)



スケッチ(Site 3 下流側露頭)



Site3(上流側)の礫層から推定される古流向

砂質シルト層(表土)

- ・細~中砂分の混じるシルト層からなる。
- ・無層理で、径10~30cmの角~亜角礫を含む。

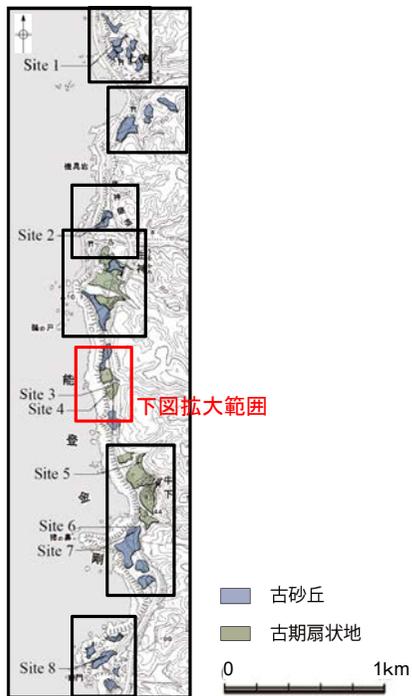
礫層(河川堆積物)

- ・基質はシルト質な細~中粒砂からなり、粗粒砂が混じる。
- ・径5~50cmの安山岩角~垂円礫を30~60%含み、一部に円礫も混じる。
- ・礫同士が接した礫支持構造や扁平な礫の平坦面が東南東へ傾斜するインプリケーションが認められる。
- ・ほとんどの礫は硬質であり、ナイフで傷がつく程度である。

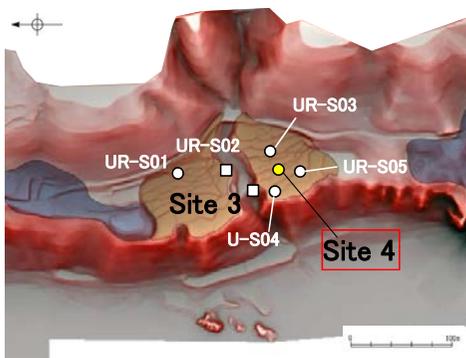
安山岩(穴水累層)

- ・灰~暗灰色の安山岩からなり、5~50cm間隔で節理が認められる。
- ・硬質で、ハンマーの軽打で金属音を発する。

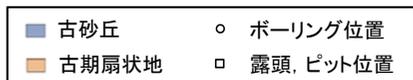
生神南部 Site 4(コア写真・柱状図)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



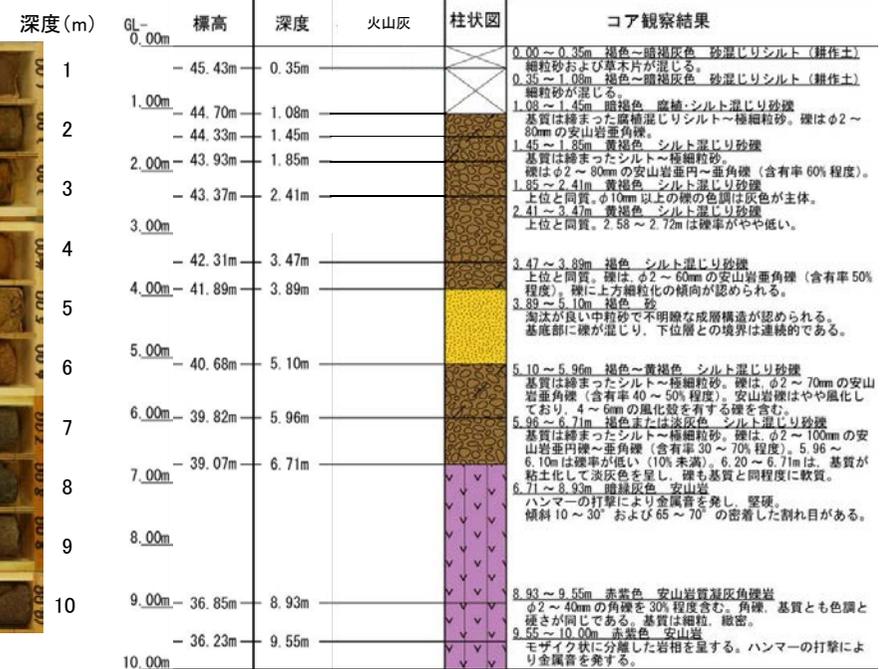
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



Site 4(孔口標高45.78m, 掘進長10m, 鉛直)

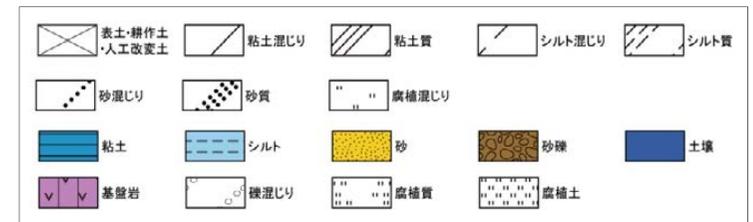


コア写真(深度0~10m)



柱状図

凡例



生神南部 Site 4(火山灰分析結果)

試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)			重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)		備考	火山ガラスの屈折率 (nd)	
		5	10	15	Opx	GHo	Cum	0.1	0.2		1.500	1.510
					100	200	2	4	6		8	
0.50-0.70		10			100	2						
0.70-0.90		15			100	4						
0.90-1.08		10			100	2						
1.08-1.30		5			100	4						
1.30-1.45		5			100	2						
1.45-1.60		2			100	2						
1.60-1.80		5			100	2						
1.80-2.00		5			100	2						
2.00-2.20		2			100	2						
2.20-2.40		2			100	2						
2.40-2.60					100	4						
2.60-2.80					100	2						
2.80-3.00					100	2						
3.00-3.20					100	2						
3.20-3.40					100	2						
3.40-3.60					100	2						
3.60-3.89					100	2						
3.89-4.00					100	2						
4.00-4.20					100	2						
4.20-4.40					100	2						
4.40-4.60					100	2						
4.60-4.80					100	2						
4.80-5.00		2			100	2						
5.00-5.20		2			100	2						
5.20-5.40					100	2						
5.40-5.60					100	2						
5.60-5.80					100	2						
5.80-6.00					100	2						
6.00-6.20					100	2						
6.20-6.40					100	4						
6.40-6.60					100	2						
6.60-6.80					100	2						
6.80-7.00					100	2						

■ バブルウォール (Bw) タイプ
 ■ 低発泡 (0) タイプ

Opx: 斜方輝石
 GHo: 緑色普通角閃石
 Cum: カミングトン閃石

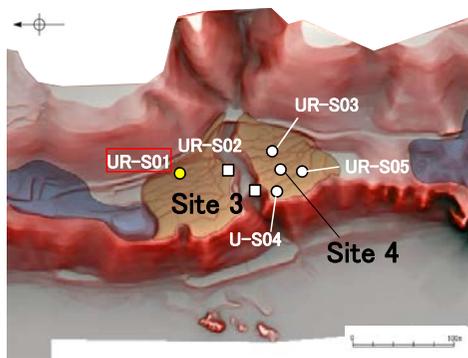
Count 個数
 20
 0

火山灰分析結果

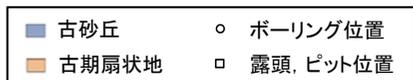
生神南部 UR-S01 (コア写真・柱状図)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



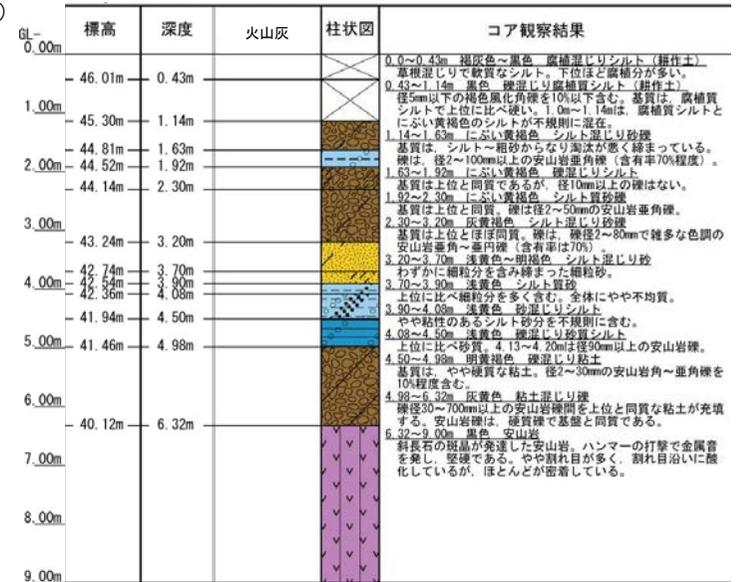
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



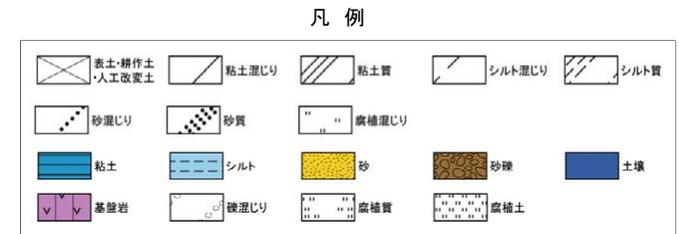
UR-S01(孔口標高46.44m, 掘進長9m, 鉛直)



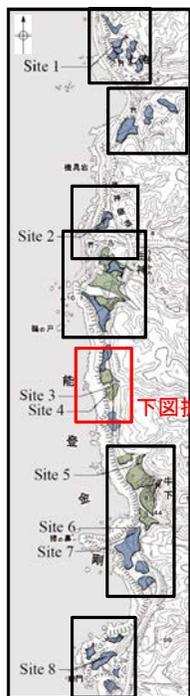
コア写真(深度0~9m)



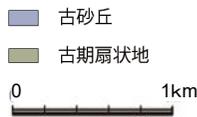
柱状図



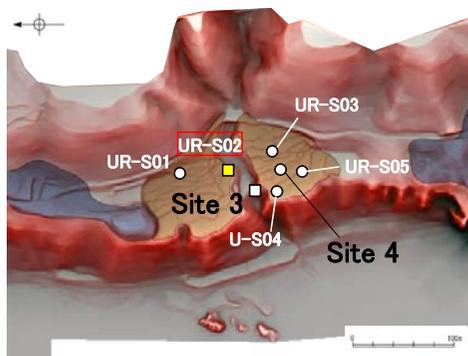
生神南部 UR-S02(露頭写真・スケッチ・古流向)



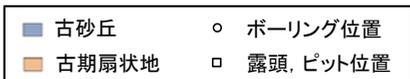
下図拡大範囲



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)

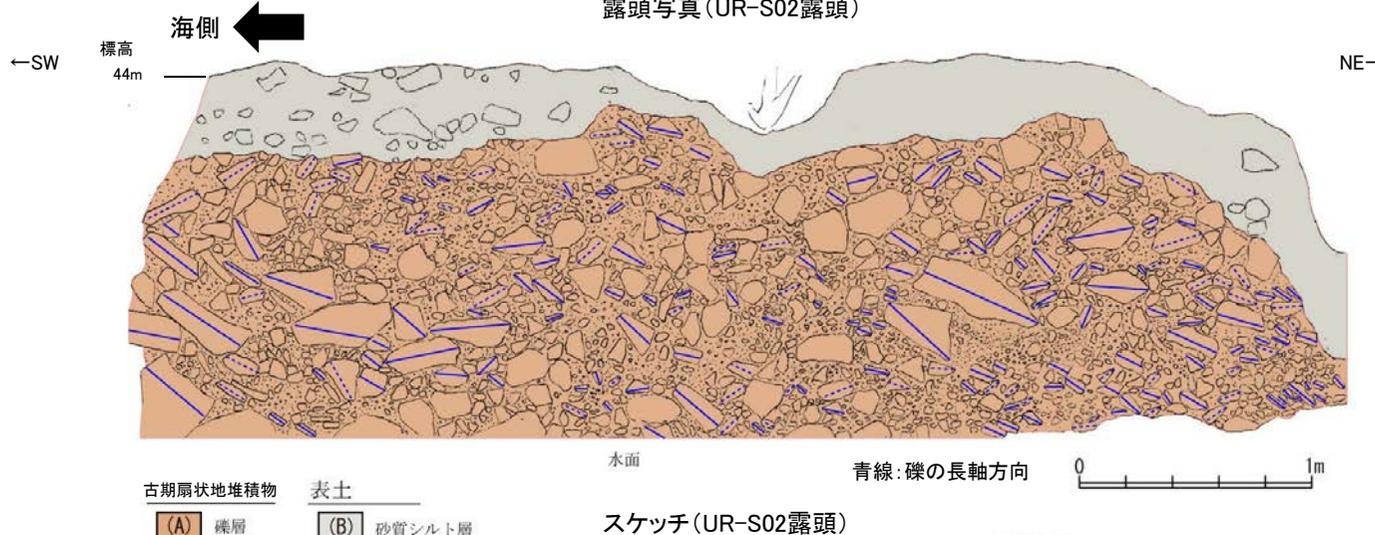


←SW

NE→



露頭写真(UR-S02露頭)



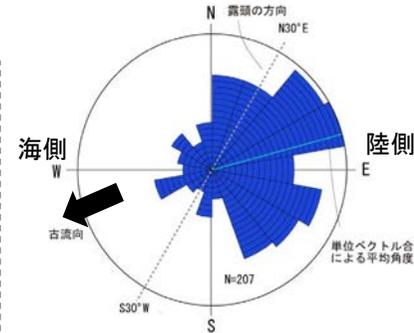
スケッチ(UR-S02露頭)

砂質シルト層(表土)

- ・細～中砂分の混じるシルト層からなる。
- ・無層理で、径10～30cmの角～垂角礫を含む。

礫層(古期扇状地堆積物)

- ・基質はシルト質な細～中粒砂からなり、粗粒砂が混じる。
- ・径5～60cmの安山岩角～亜円礫を40～60%含み、一部に円礫も混じる。
- ・礫は全体に円磨されており、硬質である。
- ・礫同士が接した礫支持構造や扁平な礫の平坦面が北北東～南東へ傾斜するインプリケーションが認められる
- ・ほとんどの礫は硬質であり、ナイフで傷がつく程度である。



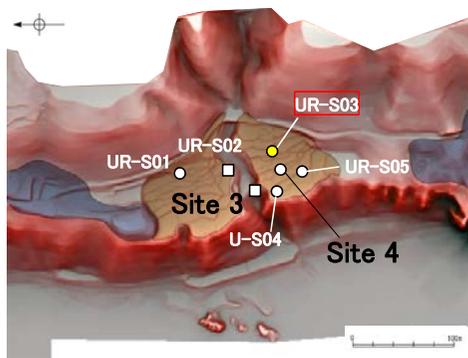
UR-S02の礫層から推定される古流向

礫のインプリケーションの傾斜方向。傾斜方向の反対向きが古流向を示す。(径5cm以上、傾斜10～50°の礫をグラフ化)

生神南部 UR-S03(コア写真・柱状図)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



UR-S03(孔口標高47.51m, 掘進長10m, 鉛直)

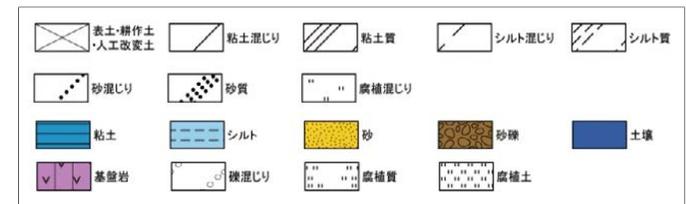


コア写真(深度0~10m)

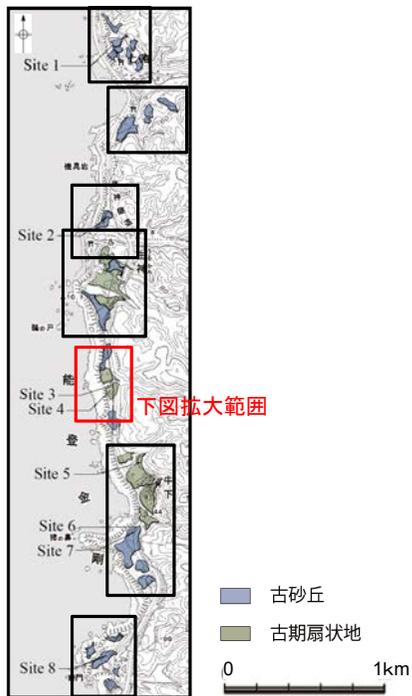
標高	深度	火山灰	柱状図	コア観察結果
3L-0.00m				0.00~1.27m 褐色~褐色 塊凝じりシルト(人工改変土) 全体に不均質な塊砂。シルトの底層で木片やガラス片を含む。
1.00m	46.24m 46.08m	1.27m 1.43m		1.27~1.43m 黒褐色 腐植質砂礫 基質は腐植質な砂質シルト~シルト質砂。礫は、径2~40mmの安山岩角礫でやや風化している。礫含有率は70%。 1.43~3.43m にふい黄褐色 シルト混じり砂礫 基質は、溜汰の悪い層~中粒砂で締まっている。礫は、径2~80mm以上の多様な色調の安山岩角~亜角礫で風化皮膜は薄い(礫含有率は80%)。小粒の礫は、一部ナイフで解れる程度のものが見られる。 1.91~2.05mにシルト質細粒砂。2.92~3.03mに砂質シルトを挟む。 3.3~3.38mは大粒の礫。
2.00m				
3.00m	44.08m	3.43m		3.43~4.54m 黄褐色~にふい黄褐色 シルト混じり砂 やや溜汰の悪い締まった細粒砂。無層理。 まれに径3~10mmの安山岩亜円礫。角礫を含む。
4.00m				
5.00m	42.97m 42.51m	4.54m 5.00m		4.54~5.00m にふい黄褐色 シルト質砂 溜汰の悪い細粒砂。コンクリーションにより固結。 4.6~4.7m 4.7m以上に黒色泥が取除する。 5.00~5.70m にふい黄褐色 塊凝じりシルト 基質は、硬質なやや砂質のシルト。礫は、径2~40mmの多様な色調の硬質な安山岩角礫で大粒の礫は含まない。礫の含有率は、ほぼつきがある。
6.00m	41.81m	5.70m		5.70~6.85m にふい黄褐色 シルト混じり砂礫 基質は、溜汰の悪い砂で締まっている。礫は、径2~100mm以上の多様な色調の安山岩角~亜角礫で礫含有率は80%。礫の風化度合は低く砂質土体。
7.00m	40.66m 40.36m	6.85m 7.15m		6.85~7.15m 灰白~淡黄色 塊凝じりシルト 基質は、やや軟質な砂混じりのシルト。礫は、暗灰色。褐色色等の安山岩角礫で風化している(礫含有率は30%)。
8.00m	39.95m	7.56m		7.15~7.56m 淡黄色 シルト質砂 基質は上位と同質のシルトで細礫を含む。風化度合の低い硬質な安山岩角礫(礫径は100mm以上のもの主体)間をシルトと細礫が充満する。
9.00m	39.41m	8.10m		7.56~8.10m 赤褐色 安山岩 斜長石の斑晶が発達し、非常に硬質。割れ目は少なく、密着している。
9.00m				8.10~10.00m 赤褐色 安山岩割れ角礫岩 径2~300mm以上の安山岩角礫と同質の砕屑物からなる。ハンマーの打撃で弱い金属音を発し、容易には割れない。全層に径30mm以下の礫が主体であるが、深度9.0m以下は、やや礫径が大きい。割れ目は少なく棒状コアとなる。
10.00m				

柱状図

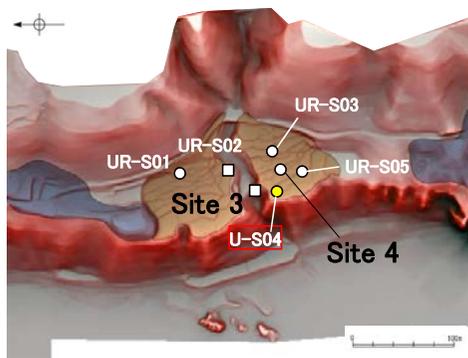
凡例



生神南部 UR-S04(コア写真・柱状図)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



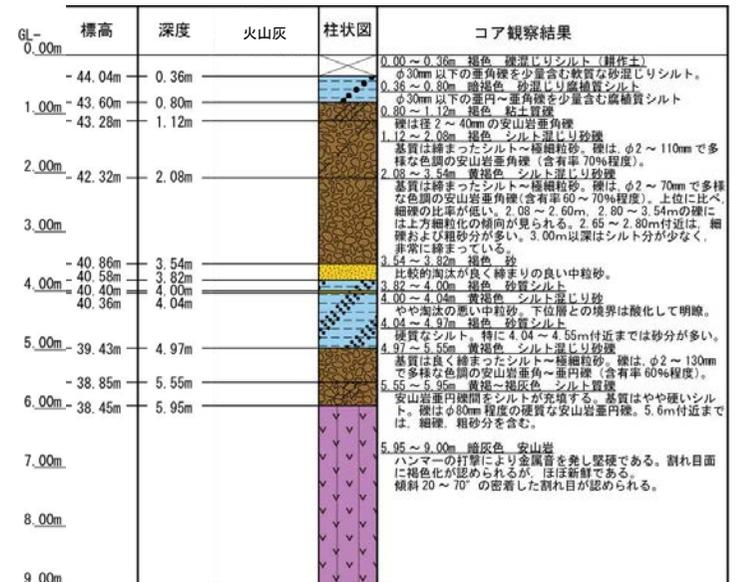
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



UR-S04(孔口標高44.40m, 掘進長9m, 鉛直)

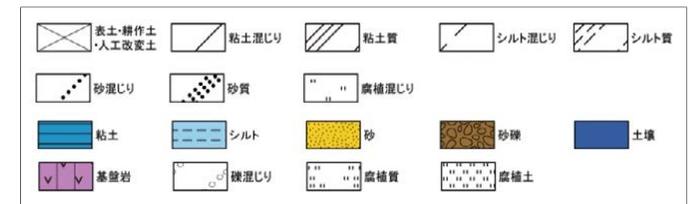


コア写真(深度0~9m)

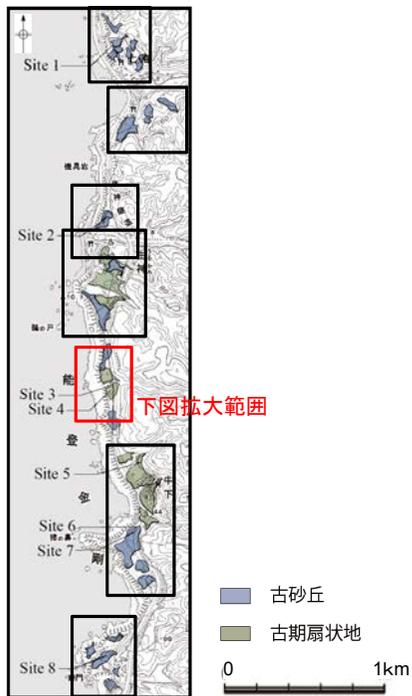


柱状図

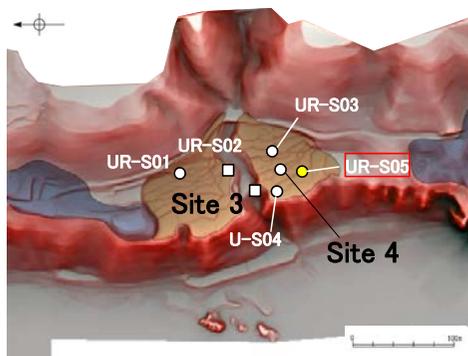
凡例



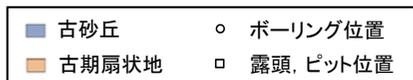
生神南部 UR-S05(コア写真・柱状図)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



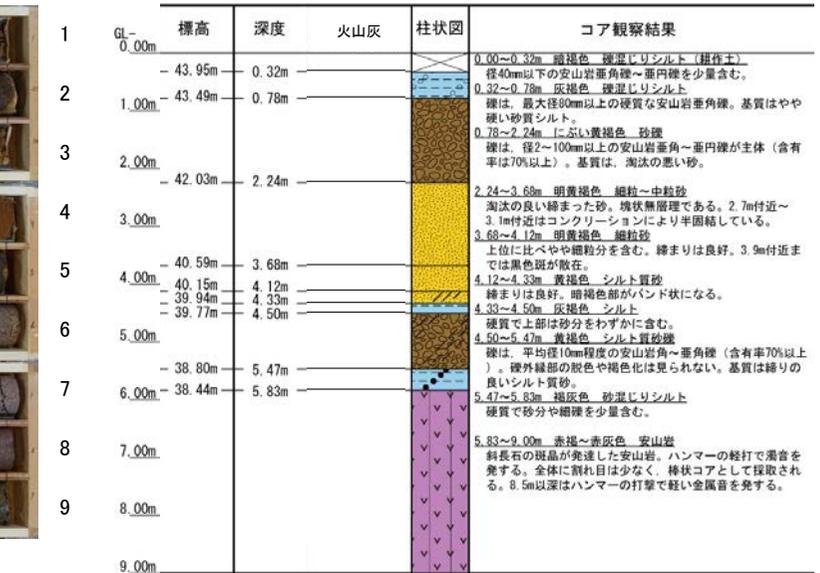
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



UR-S05(孔口標高44.27m, 掘進長9m, 鉛直)

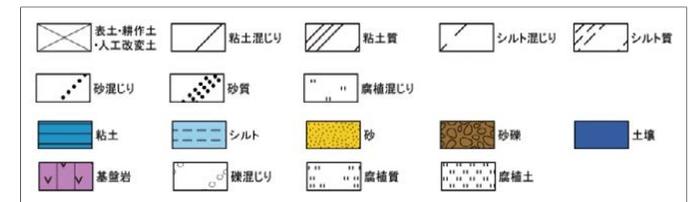


コア写真(深度0~9m)



柱状図

凡例



生神南部 UR-S05(火山灰分析結果)

試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)				重鉱物の含有量 (/3000粒子)					β石英 (/3000粒子)			備考	火山ガラスの屈折率 (nd)		
		10	20	30	40	Opx		GHo			Cum	0.5	1.0		1.5	1.500	1.510
						100	200	1	2	3							
0.32-0.40																	
0.40-0.50																	
0.50-0.60																	
0.60-0.70																	
0.70-0.78																	
0.78-0.90																	
0.90-1.00																	
1.00-1.10																	
1.10-1.20																	
1.20-1.30																	
1.30-1.40																	
1.40-1.50																	
1.50-1.60																	
1.60-1.70																	
1.70-1.80																	
1.80-1.90																	
1.90-2.00																	
2.00-2.10																	
2.10-2.24																	
2.24-2.30																	
2.30-2.40																	
2.40-2.50																	
2.50-2.60																	
2.60-2.70																	
2.70-2.80																	
2.80-2.90																	
2.90-3.00																	
3.00-3.10																	
3.10-3.20																	
3.20-3.30																	
3.30-3.40																	
3.40-3.50																	
3.50-3.60																	
3.60-3.68																	
3.68-3.80																	
3.80-3.90																	
3.90-4.00																	
4.00-4.10																	
4.10-4.20																	
4.20-4.30																	
4.30-4.40																	
4.40-4.50																	
4.50-4.60																	
4.60-4.70																	
4.70-4.80																	
4.80-4.90																	
4.90-5.00																	
5.00-5.10																	
5.10-5.20																	
5.20-5.30																	
5.30-5.40																	
5.40-5.50																	
5.50-5.60																	
5.60-5.70																	
5.70-5.80																	
5.80-5.90																	
5.90-6.00																	

■ バブルウォール (Bw) タイプ
 ■ 低発泡 (0) タイプ

Opx: 斜方輝石
 GHo: 緑色普通角閃石
 Cum: カミングトン閃石

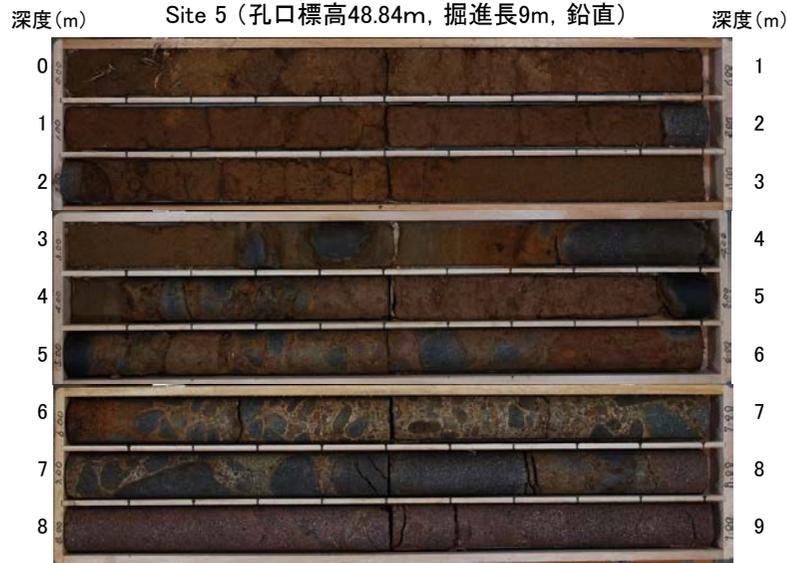


火山灰分析結果

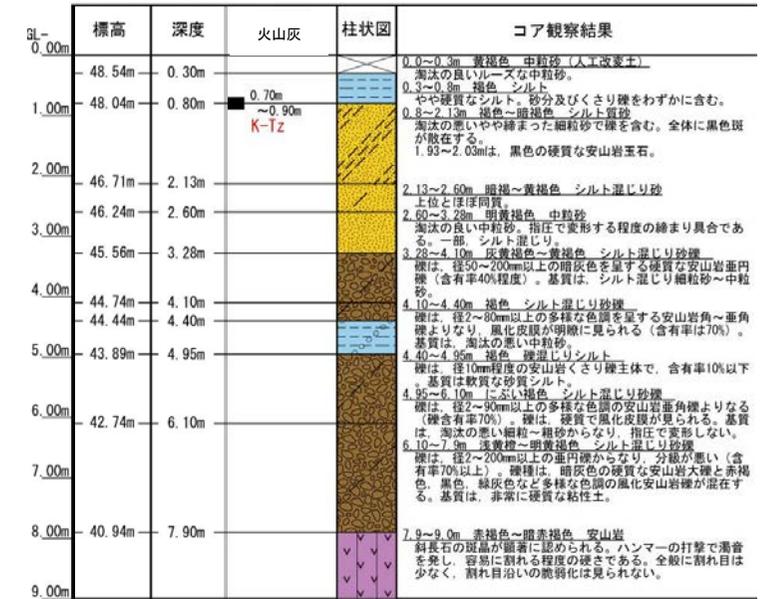
牛下北部 Site 5(コア写真・柱状図)



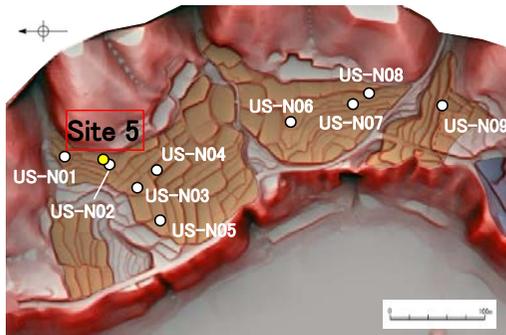
地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



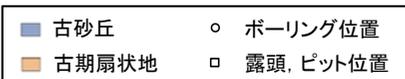
コア写真(深度0~9m)



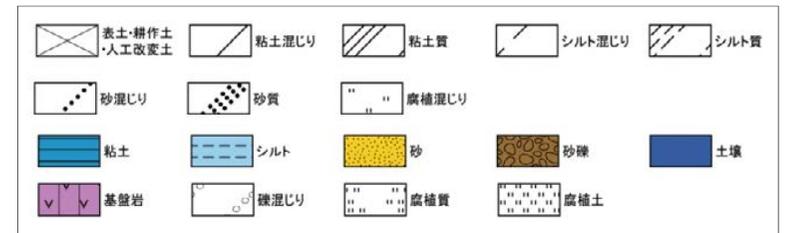
柱状図



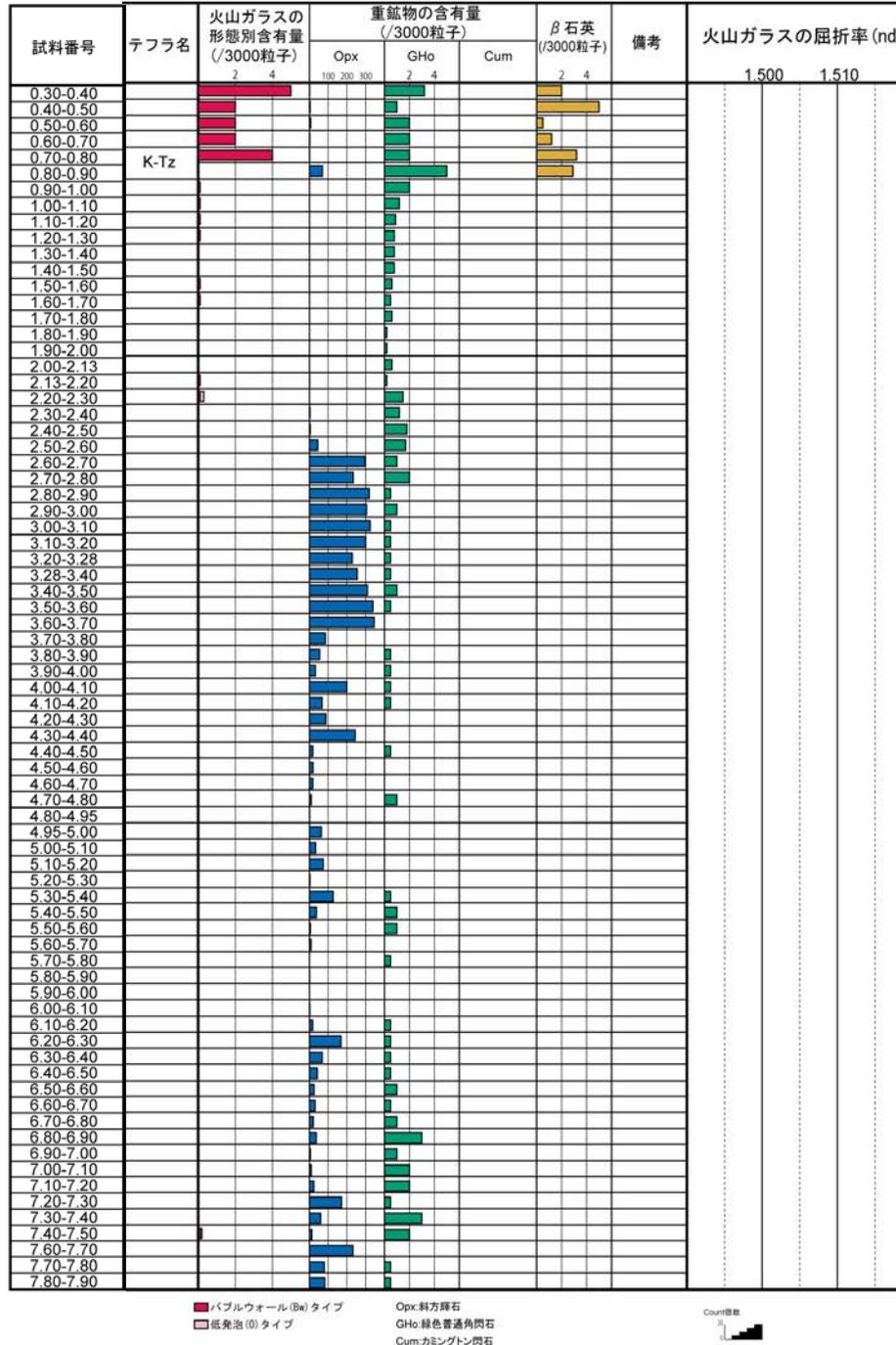
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



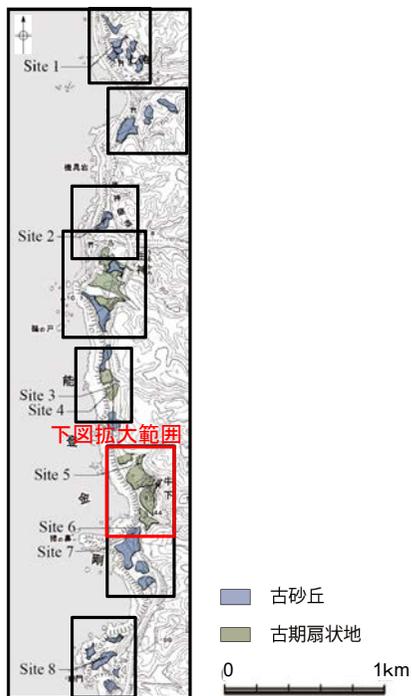
凡例



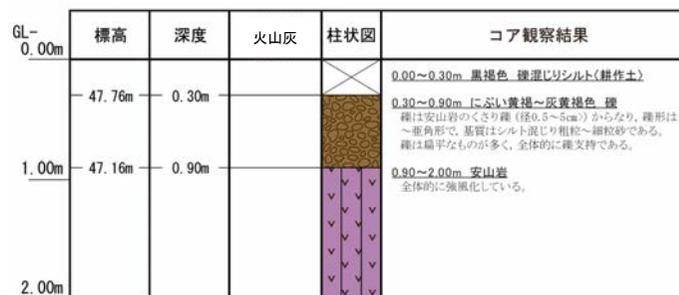
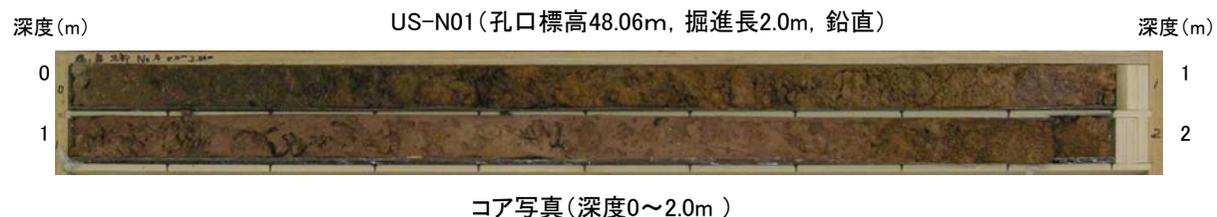
牛下北部 Site 5(火山灰分析結果)



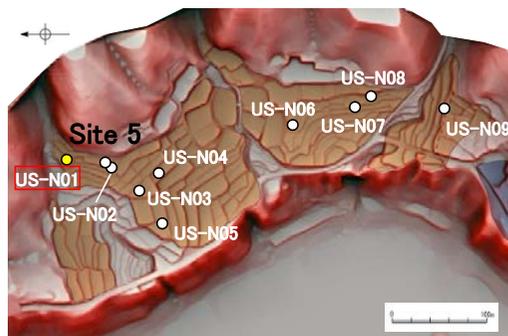
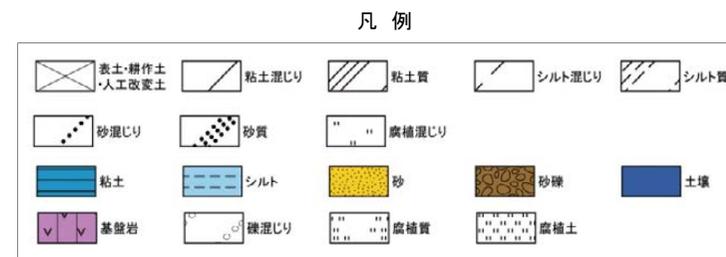
牛下北部 US-N01 (コア写真・柱状図・火山灰分析結果)



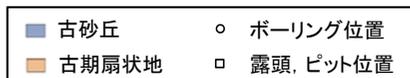
地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



柱状図



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)

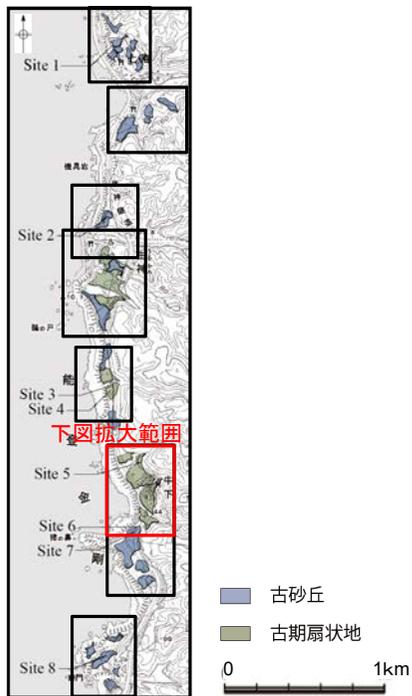


試料番号	テフラ名	火山ガラスの 形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率(nd)		角閃石の屈折率(n2)	
			OpX	GHo	Cum			1.500	1.510	1.680	1.690
A-03			00-02	00-02							
A-04											
A-05											
A-06											
A-07											
A-08											

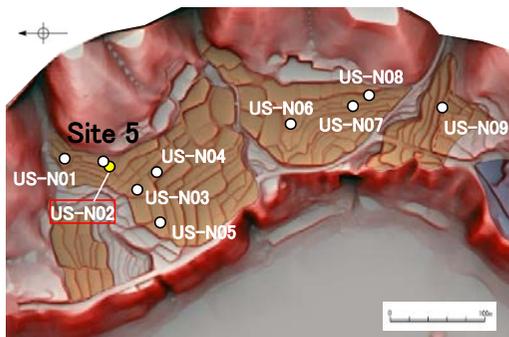
OpX 斜方輝石
GHo 緑色普通角閃石
Cum カルシウム閃石

火山灰分析結果

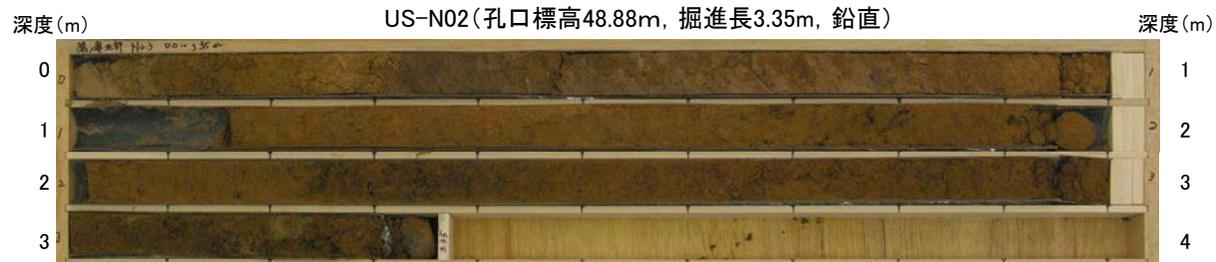
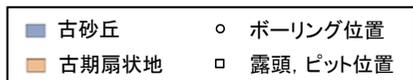
牛下北部 US-N02(コア写真・柱状図)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)

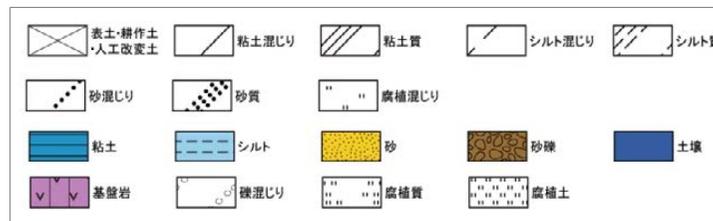


コア写真(深度0~3.35m) ※深度1.0~1.15m間は、コアサンプラーの打撃によりコアが圧縮されて隙間が空いた区間。

GL-	標高	深度	火山灰 ¹⁴ C年代(yBP)	柱状図	コア観察結果
0.00m					0.00~0.30m 明黄褐色 中粒砂<耕作土>
	48.58m	0.30m	AT, K-Tz混在 (0.3~0.8m)		0.30~0.90m 暗褐~にぶい黄褐色 礫混じりシルト 径1cm程度の安山岩のくさり礫を含む。指圧で跡がわずかに残る程度に比較的縮まっている。下位との境界は漸移的である。
1.00m	47.98m	0.90m			0.90~1.70m にぶい黄褐色 シルト混じり細粒~極細粒砂 砂粒子は亜角~亜円形で、淘汰は中程度である。指圧で跡が残らない程縮まっている。上部ほどシルト分を多く含む。下位との境界は漸移的である。
	47.18m	1.70m	SK(1.3~1.5m)		1.70~2.40m 褐色 細粒~中粒砂 砂粒子は亜角~亜円形で、淘汰は良い。指圧で跡が残らない程縮まっている。マンガン濃集部が散在する。深度2.3~2.4mに径0.5~1cmの安山岩の亜円礫を含む。下位との境界は漸移的である。
2.00m	46.48m	2.40m			2.40~2.80m 褐色 細粒~極細粒砂 砂粒子は亜角~亜円形で、淘汰は中程度である。指圧で跡が残らない程縮まっている。まれに径2mm程度の亜角礫を含む。マンガン濃集部が散在する。下位との境界は漸移的である。
3.00m	46.08m	2.80m			2.80~3.35m 褐色 礫混じり細粒~中粒砂 砂粒子は亜角~亜円形で、淘汰は悪い。指圧で跡が残らない程縮まっている。マンガン濃集部が散在する。円~亜角形の安山岩
		3.35m			

柱状図

凡例



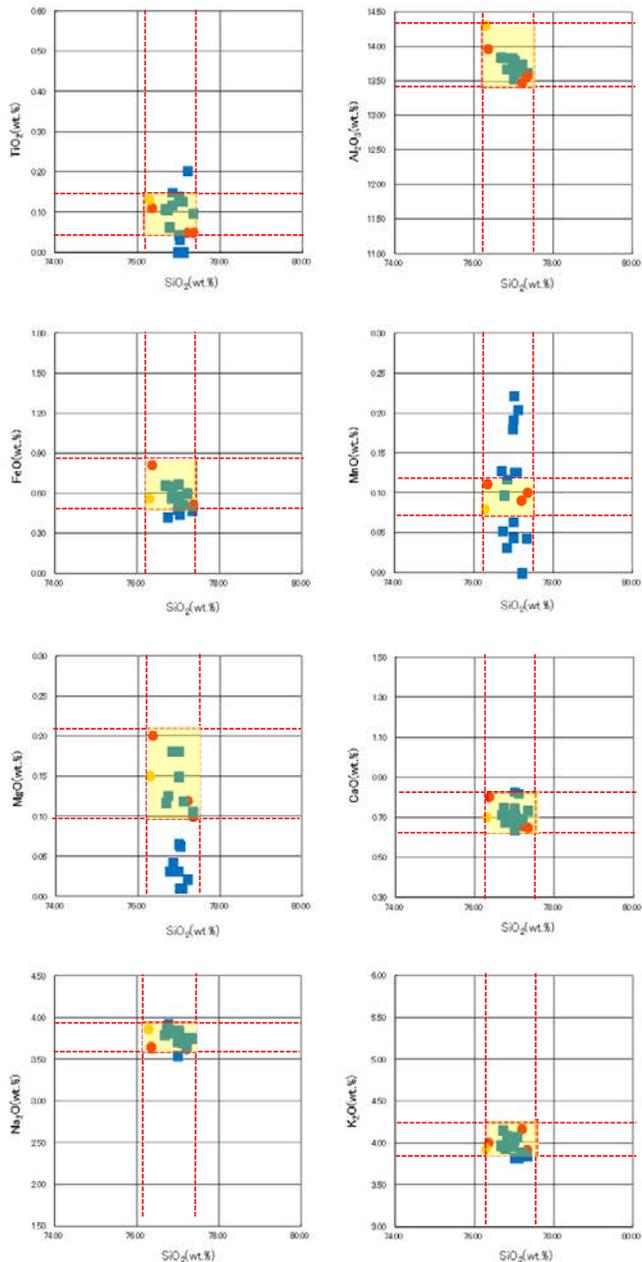
牛下北部 US-N02(火山灰分析結果)

試料番号	テフラ名	火山ガラスの 形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β 石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)		角閃石の屈折率 (n2)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510	1.680	1.690
A-03	AT, K-Tz混在										
A-04											
A-05											
A-06											
A-07											
A-08											
A-09											
A-10											
A-11											
A-12											
A-13	SK										
A-14											
A-15											
A-16											
A-17											
A-18											
A-19											
A-20											
A-21											
A-22											
A-23											
A-24											
A-25											
A-26											
A-27											
A-28											
A-29											
A-30											
A-31											
A-32											

■ パブルウォール(Ba)タイプ
■ パミス(Ha)タイプ
■ 低発泡(H)タイプ
■ Opx斜方輝石
■ GHo 緑色普通角閃石
■ Cum カシラントン閃石

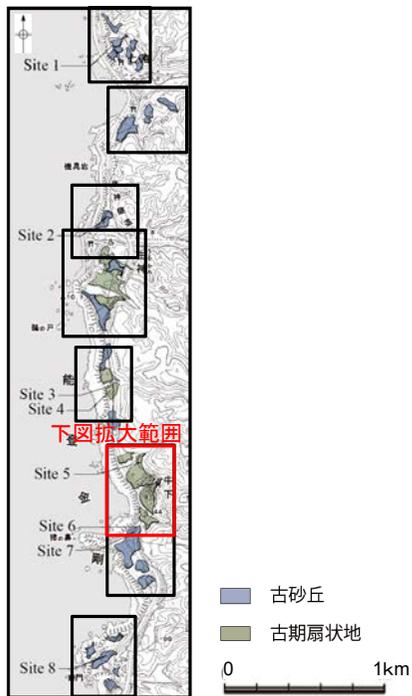


火山灰分析結果

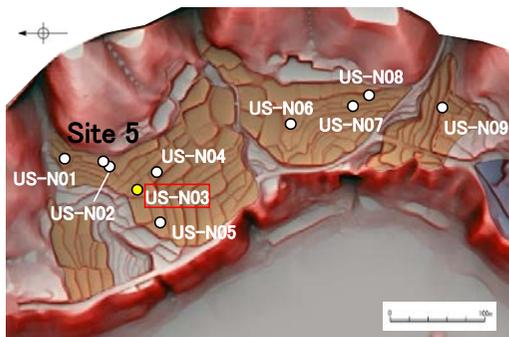


火山ガラスの主成分分析結果: 試料番号A14

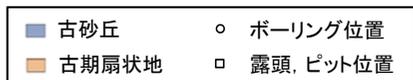
牛下北部 US-N03(コア写真・柱状図)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



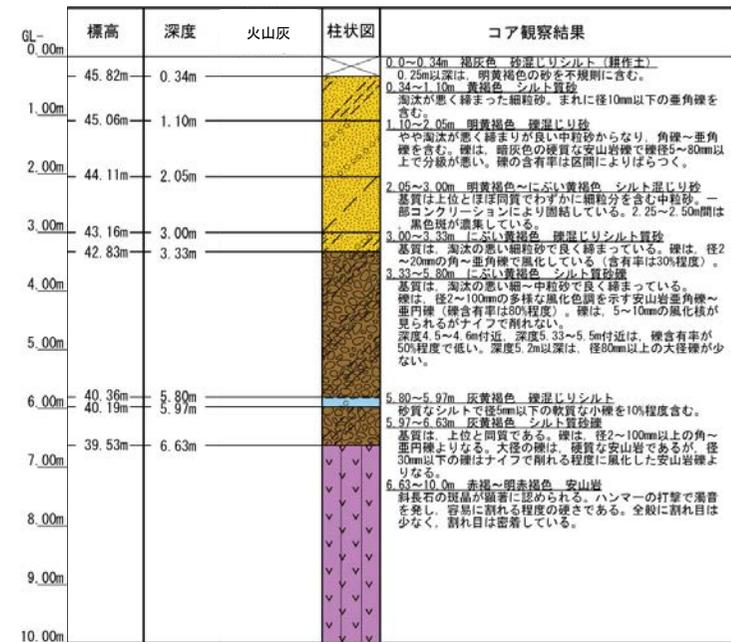
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



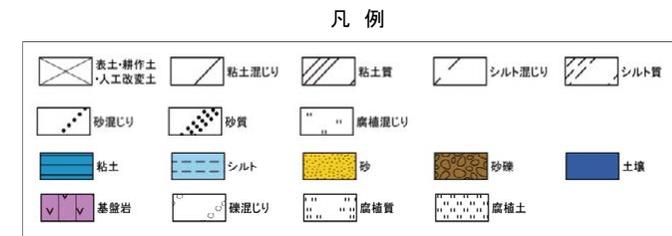
US-N03(孔口標高46.16m, 掘進長10m, 鉛直)



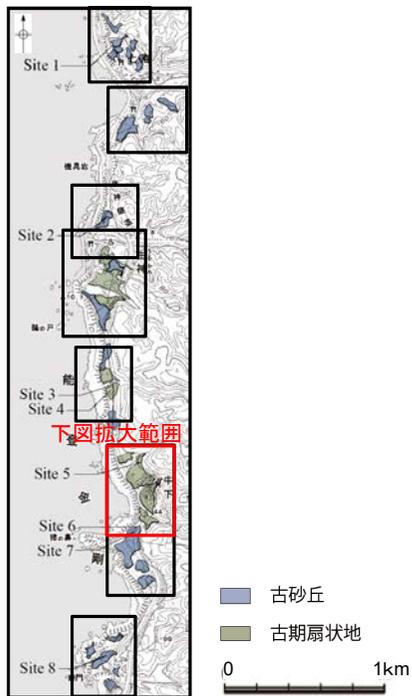
コア写真(深度0~10m)



柱状図



牛下北部 US-N04(コア写真・柱状図)

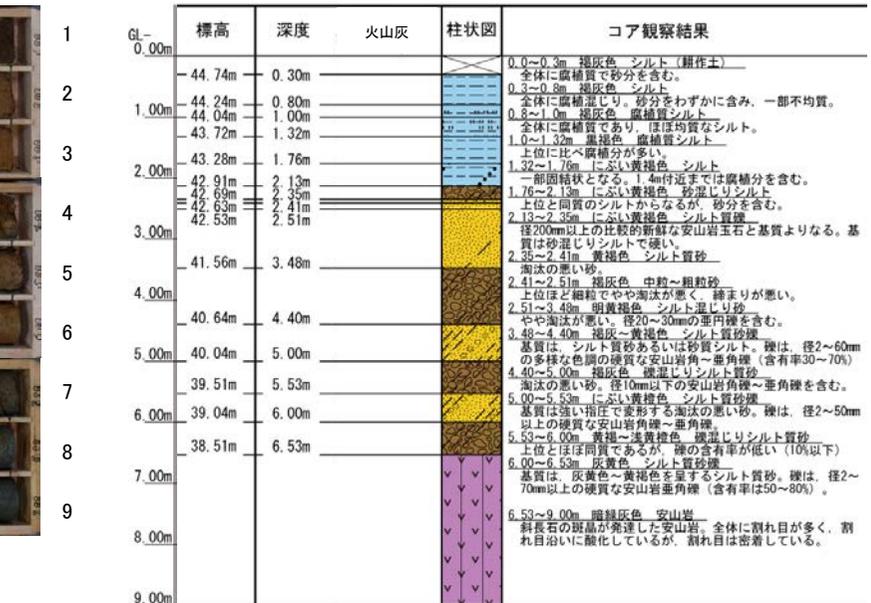


地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)

US-N04(孔口標高45.04m, 掘進長9m, 鉛直)

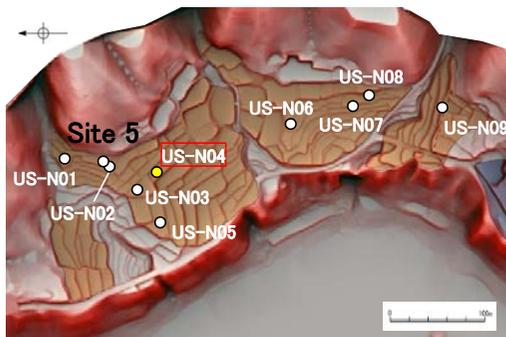
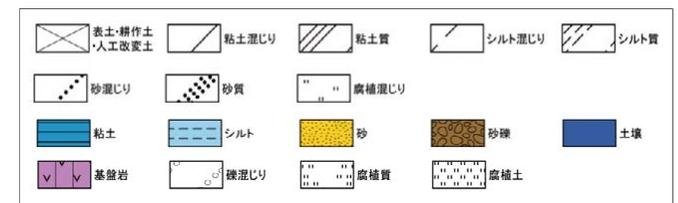


コア写真(深度0~9m)

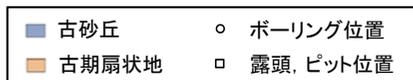


柱状図

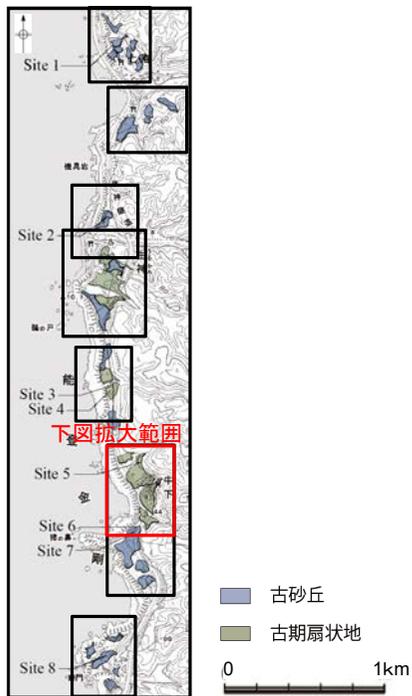
凡例



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



牛下北部 US-N05(コア写真・柱状図)

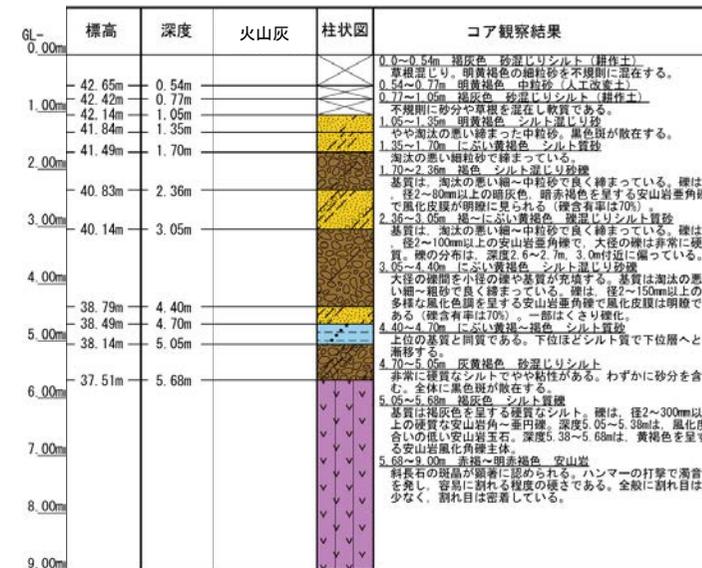


地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)

US-N05(孔口標高43.19m, 掘進長9m, 鉛直)

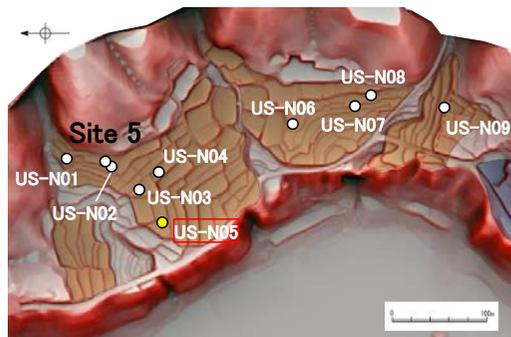
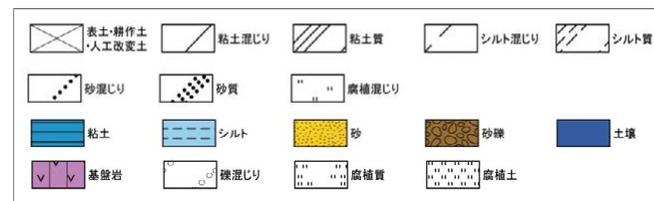


コア写真(深度0~9m)

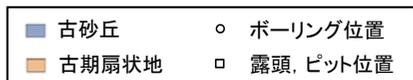


柱状図

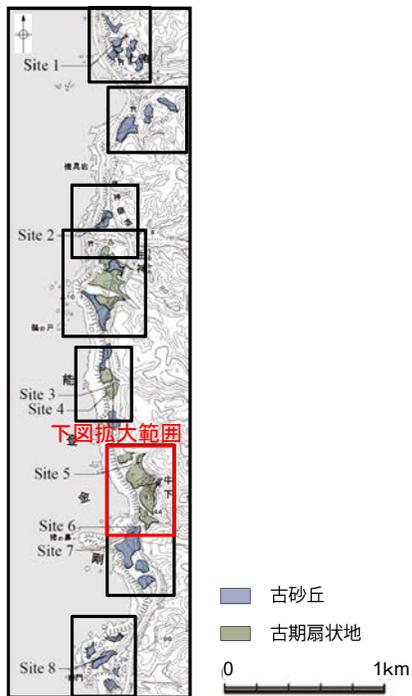
凡例



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



牛下北部 US-N07(コア写真・柱状図)

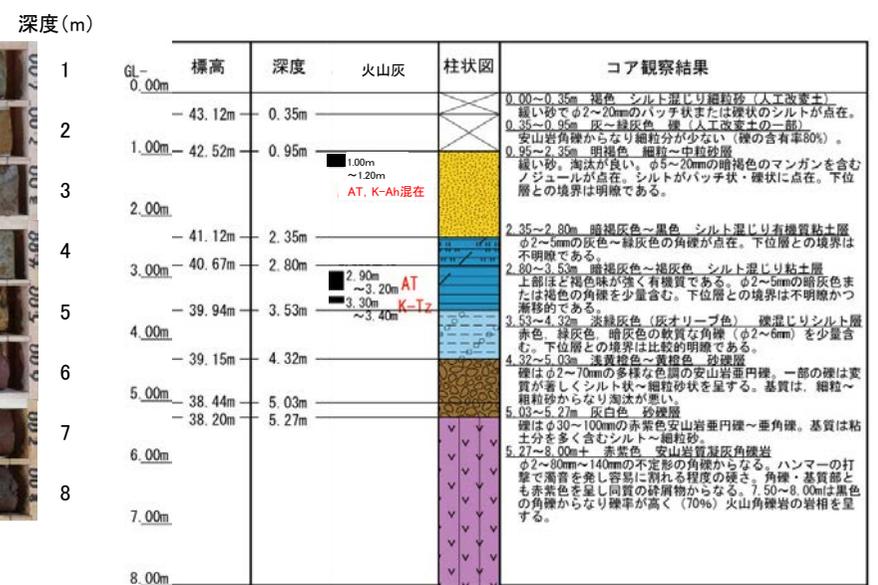


地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)

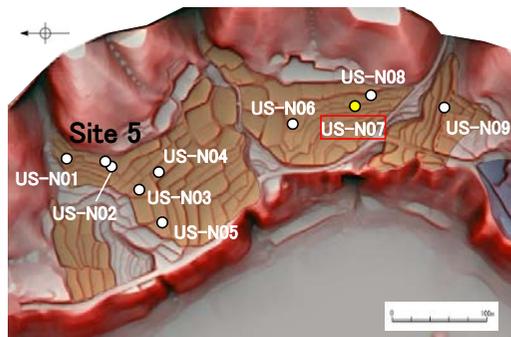
US-N07(孔口標高43.47m, 掘進長8m, 鉛直)



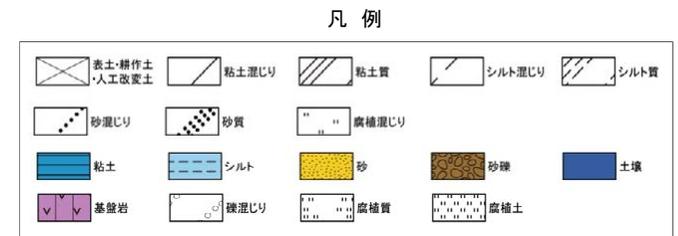
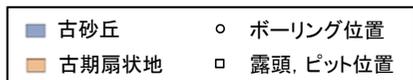
コア写真(深度0~8m)



柱状図



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



牛下北部 US-N07(火山灰分析結果)

試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)		重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)			備考	火山ガラスの屈折率 (nd)			
		100	200	Opx		GHo		Cum	0.5		1.0	1.5	1.500	1.510
				100	200	300	10							
1.00-1.10	AT, K-Ah混在													
1.10-1.20														
1.20-1.30														
1.30-1.40														
1.40-1.50														
1.50-1.60														
1.60-1.70														
1.70-1.80														
1.80-1.90														
1.90-2.00														
2.00-2.10														
2.10-2.20														
2.20-2.30														
2.30-2.39														
2.39-2.50														
2.50-2.60														
2.60-2.70														
2.70-2.80														
2.80-2.90														
2.90-3.00	AT													
3.00-3.10														
3.10-3.20														
3.20-3.30	K-Tz													
3.30-3.40														
3.40-3.50														
3.50-3.60														
3.60-3.70														
3.70-3.80														
3.80-3.90														
3.90-4.00														
4.00-4.10														
4.10-4.20														
4.20-4.30														
4.30-4.40														
4.40-4.50														
4.50-4.60														
4.60-4.70														
4.70-4.80														
4.80-4.90														
4.90-5.00														
5.00-5.13														

■ バブルウォール (Bw) タイプ
 ■ 低発泡 (l) タイプ

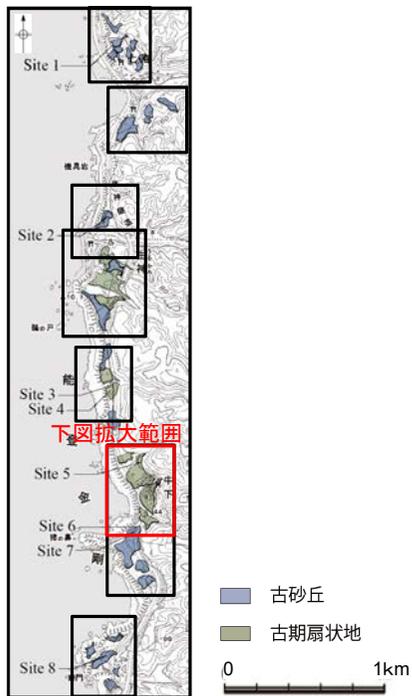
Opx:斜方輝石
 GHo:緑色普通角閃石
 Cum:カミングトン閃石

Count倍率

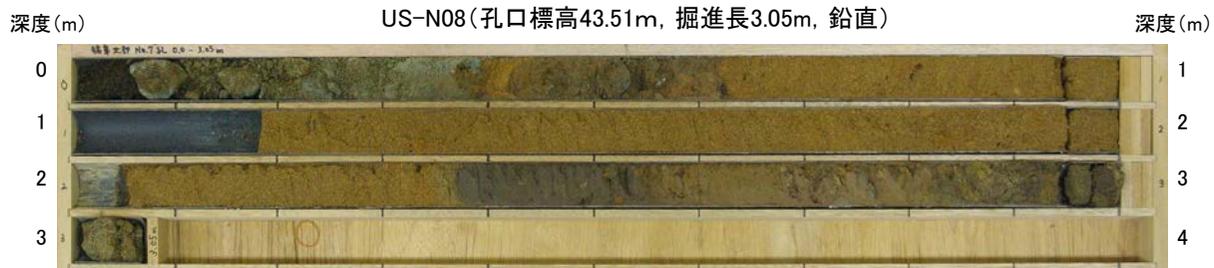


火山灰分析結果

牛下北部 US-N08(コア写真・柱状図・火山灰分析結果)

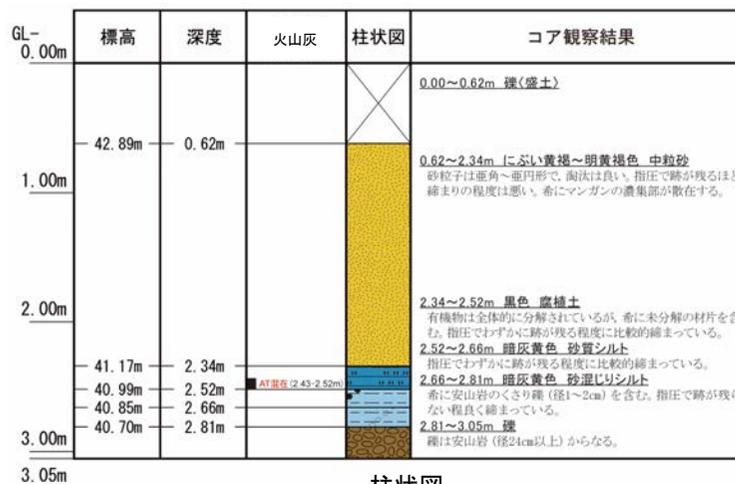


地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)

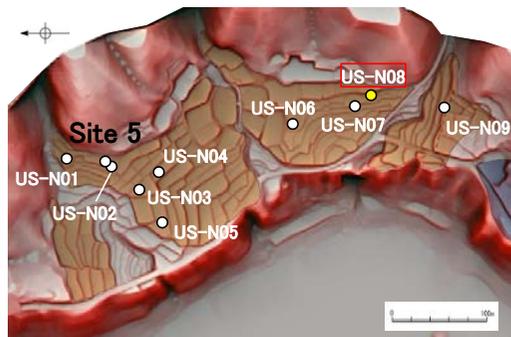


コア写真(深度0~3.05m)

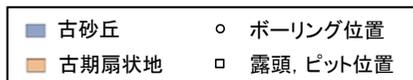
※深度1.0~1.18m, 2.0~2.05m間は、コアサンプラーの打撃によりコアが圧縮されて隙間が空いた区間。



柱状図



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)

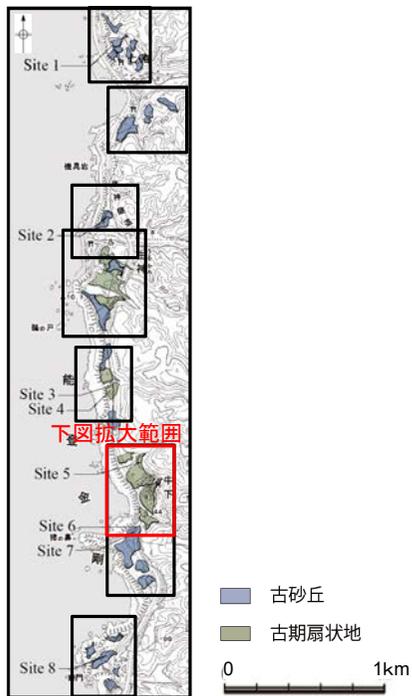


試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)		角閃石の屈折率 (n2)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510	1.680	1.690
A-06											
A-07											
A-08											
A-09											
A-10											
A-11											
A-12											
A-13											
A-14											
A-15											
A-16											
A-17											
A-18											
A-19											
A-20											
A-21											
A-22											
A-23											
A-24	AT混在										
A-25											
A-26											



火山灰分析結果

牛下北部 US-N09(コア写真・柱状図)

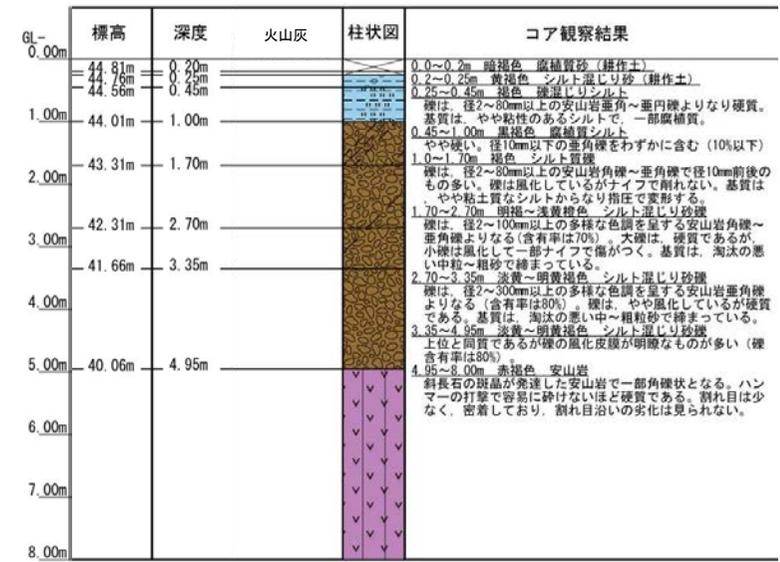


地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)

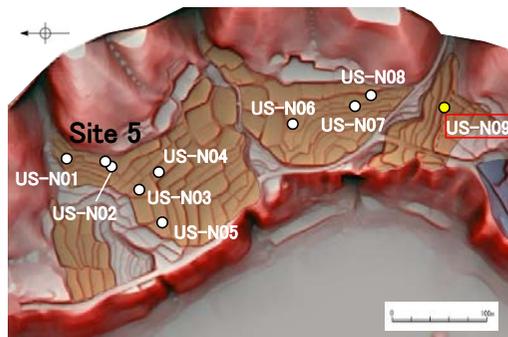
US-N09(孔口標高45.01m, 掘進長8m, 鉛直)



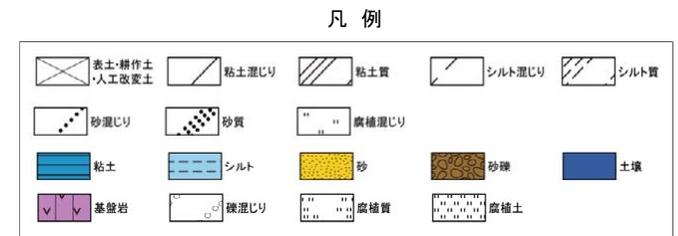
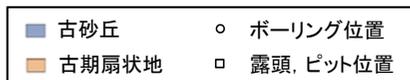
コア写真(深度0~8m)



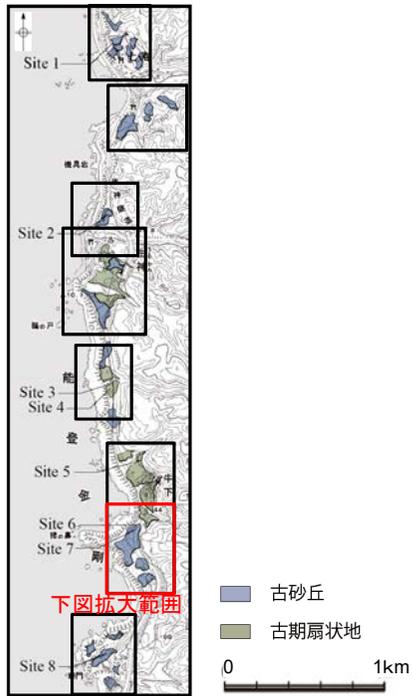
柱状図



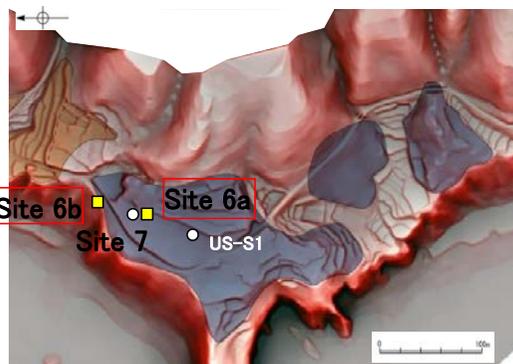
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



牛下南部 Site 6a,b(露頭写真)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



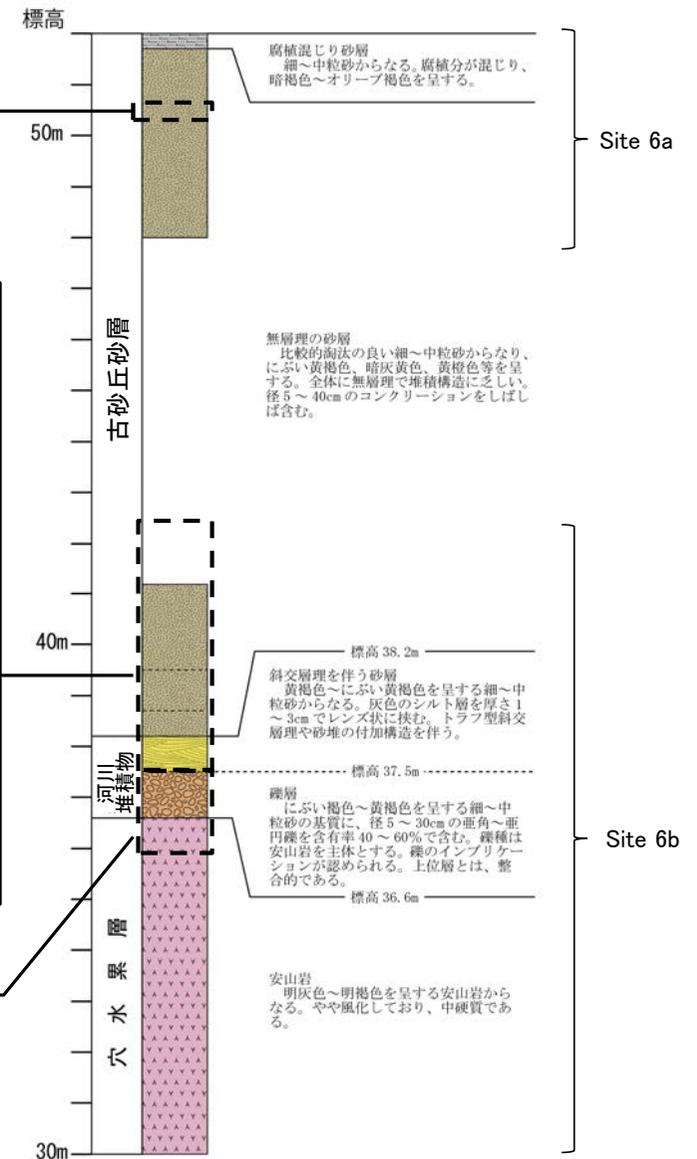
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



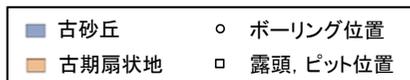
露頭写真(Site 6a 露頭)



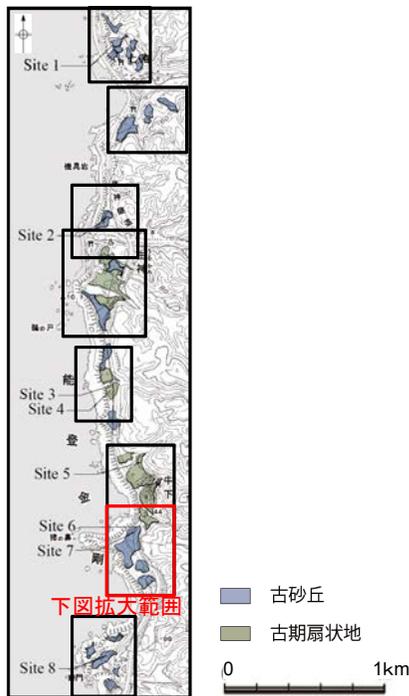
露頭写真(Site 6b 露頭)
詳細は次頁



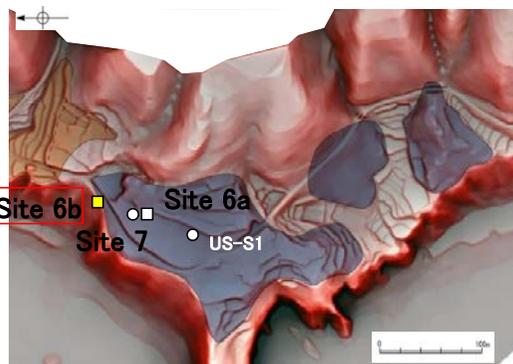
柱状図



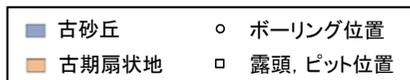
牛下南部 Site 6b (露頭写真・スケッチ)



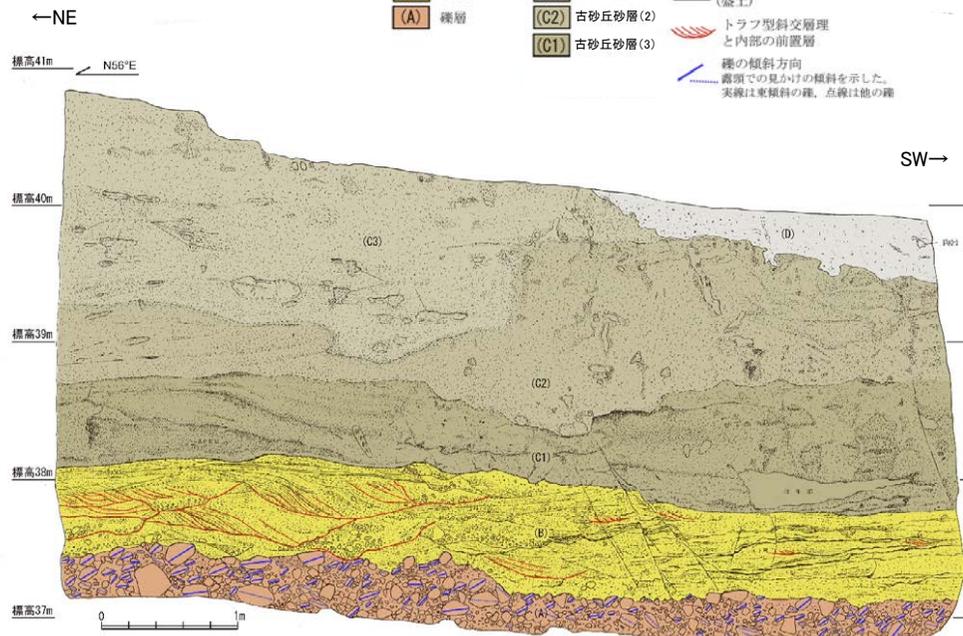
地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



露頭写真(Site 6a 露頭)



スケッチ(Site 6a 露頭)

A.礫層(河川堆積物)

- ・基質は細～中粒砂からなり、粗粒砂が混じる。
- ・径5～30cmの主体とする亜角～亜円礫を40～60%含み、一部に円礫も混じる。
- ・安山岩礫を主体とし、凝灰岩礫がわずかに混じる。
- ・扁平な礫の平坦面が東に傾斜するインプリケーションが認められる。

B.砂層(河川堆積物)

- ・細～中粒砂からなり粗粒砂が混じる。
- ・北東部ではトラフ型斜交層理が発達し、個々のトラフの凹部に径2～10cmの亜角～亜円礫をレンズ状に含む。斜交層理内の前置層は、西～西南西に傾斜する。
- ・南西部では厚さ1～3cmの灰色を呈するシルトを挟み、互層状となる。シルト層からなる層理は東～東南東に緩く傾斜し、砂堆の付加構造が認められる。

C1.細～中粒砂層(古砂丘砂層)

- ・細～中粒砂からなり、比較的淘汰が良い。色調は黄橙～暗灰黄色を呈する。
- ・全体に無層理で堆積構造に乏しい。
- ・よく締まっており、強い指圧でも跡が残らない。
- ・北東部では、黒色の斑紋(マンガン斑)が南西に緩く傾斜する層状に認められる。
- ・南西部では、薄い黒色の斑紋が不規則な形状で認められ、ややシルト混じりとなる。

C2.細～中粒砂層(古砂丘砂層)

- ・細～中粒砂からなり、比較的淘汰が良い。色調はにぶい黄橙～暗灰黄色を呈する。
- ・全体に無層理で堆積構造に乏しい。
- ・径5～20 cmのコンクリーションがしばしば含まれており、その形状は楕円状、平板状、不規則と変化に富む。
- ・下位層より締りが悪く、強い指圧で跡が残る。
- ・南西部では、薄い黒色の斑紋が不規則な形状で認められ、ややシルト混じりとなる。

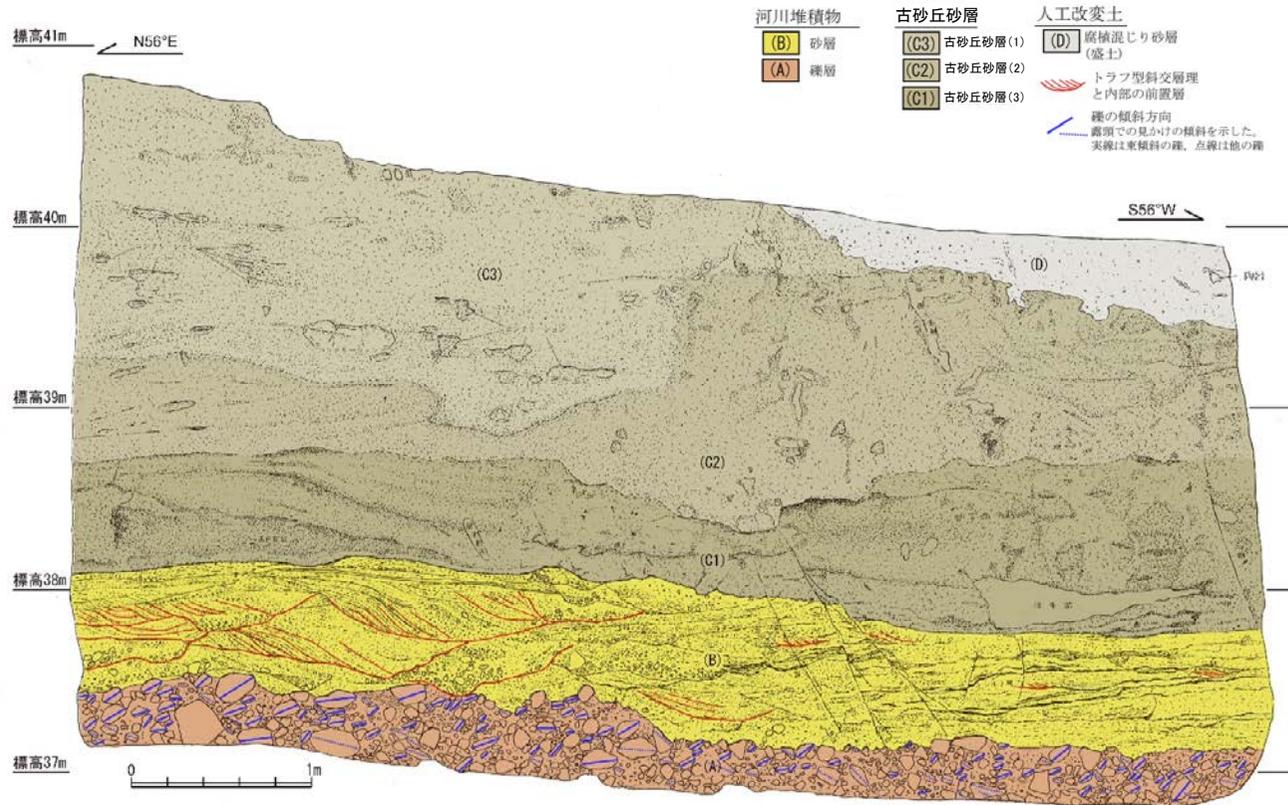
C3.細～中粒砂層(古砂丘砂層)

- ・細～中粒砂層からなり淘汰が良い。色調はにぶい黄褐色を呈する。
- ・全体に無層理であり、堆積構造に乏しい。
- ・径5～40 cmのコンクリーションが散在し、その形状は楕円形、平板状、不規則と変化に富む。
- ・下位層よりさらに締りが悪く、指圧で跡が残る。

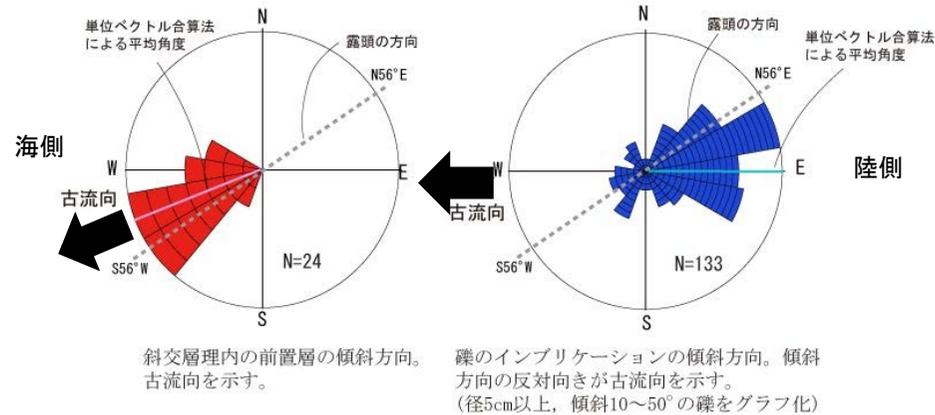
D.腐植混じり砂層(人工改変土)

- ・腐食分の混じる細粒砂層からなり、シルト質である。色調は暗褐色～暗オリーブ褐色である。
- ・無層理であり、細礫がわずかに混じるほかに、陶器片が含まれる。
- ・やや締まっており、強い指圧で跡が残る程度である。

牛下南部 Site 6b(古流向)

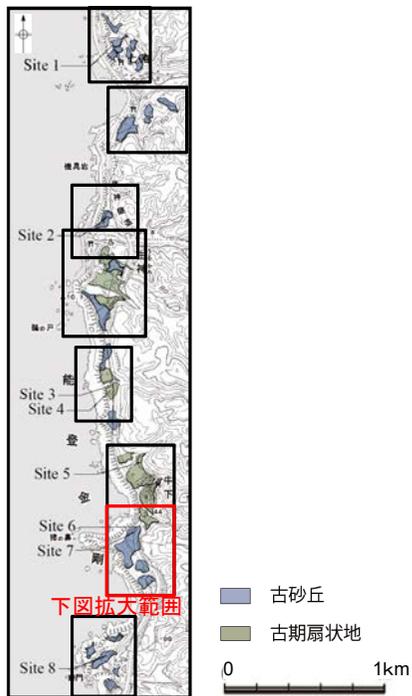


牛下南部(Site6b) スケッチ

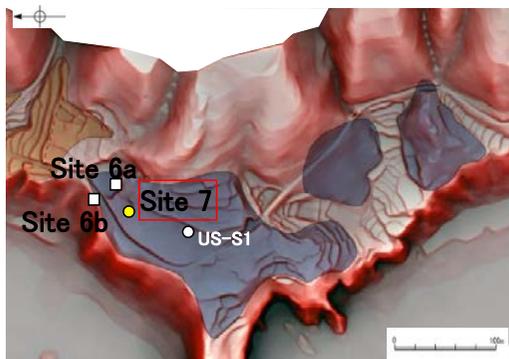


牛下南部(Site6b)の古流向

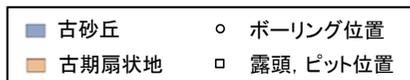
牛下南部 Site 7(コア写真・柱状図)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



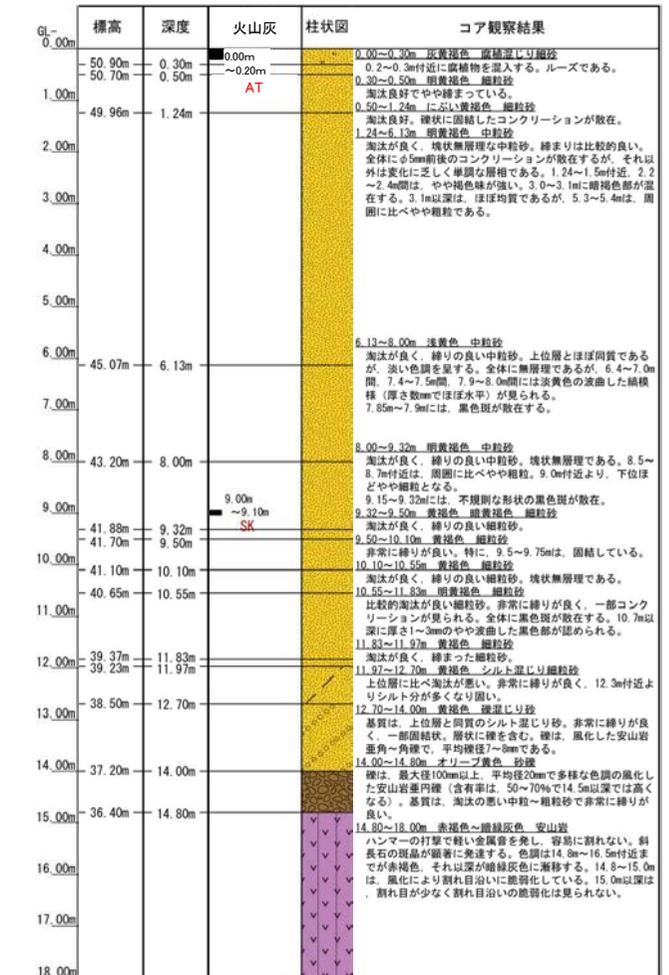
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



Site 7(孔口標高51.20m, 掘進長18m, 鉛直)

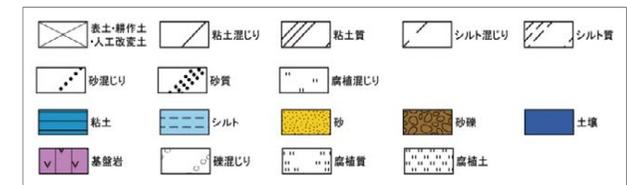


コア写真(深度0~18m)

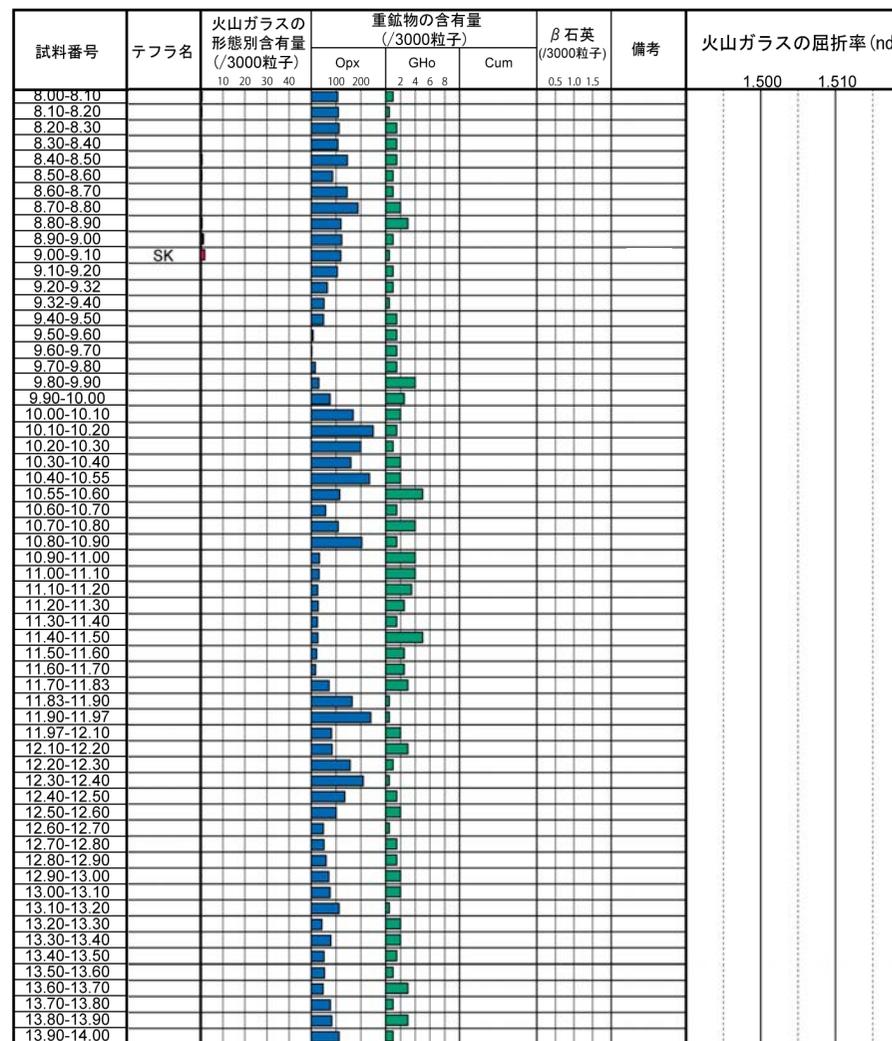
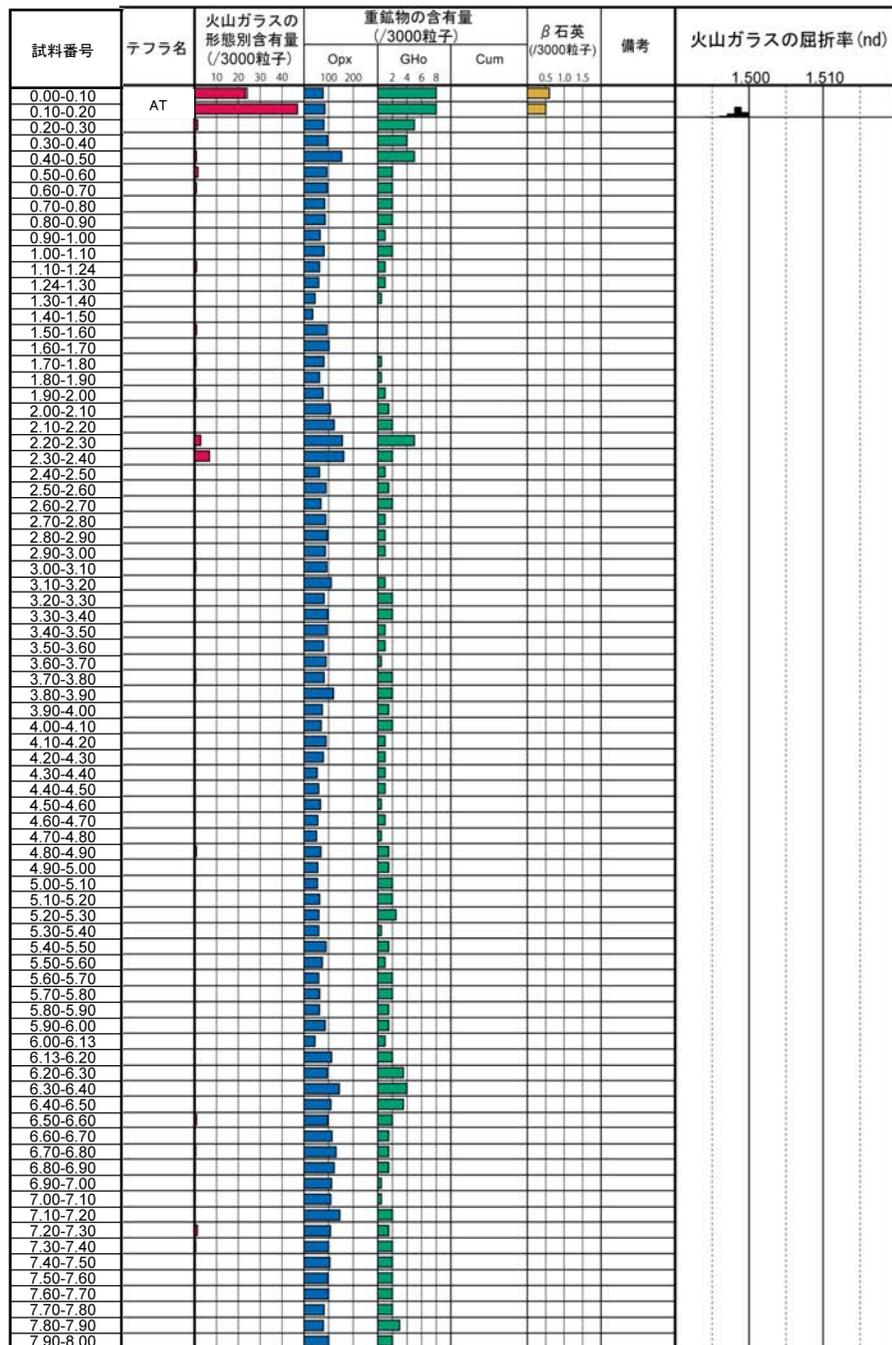


柱状図

凡例



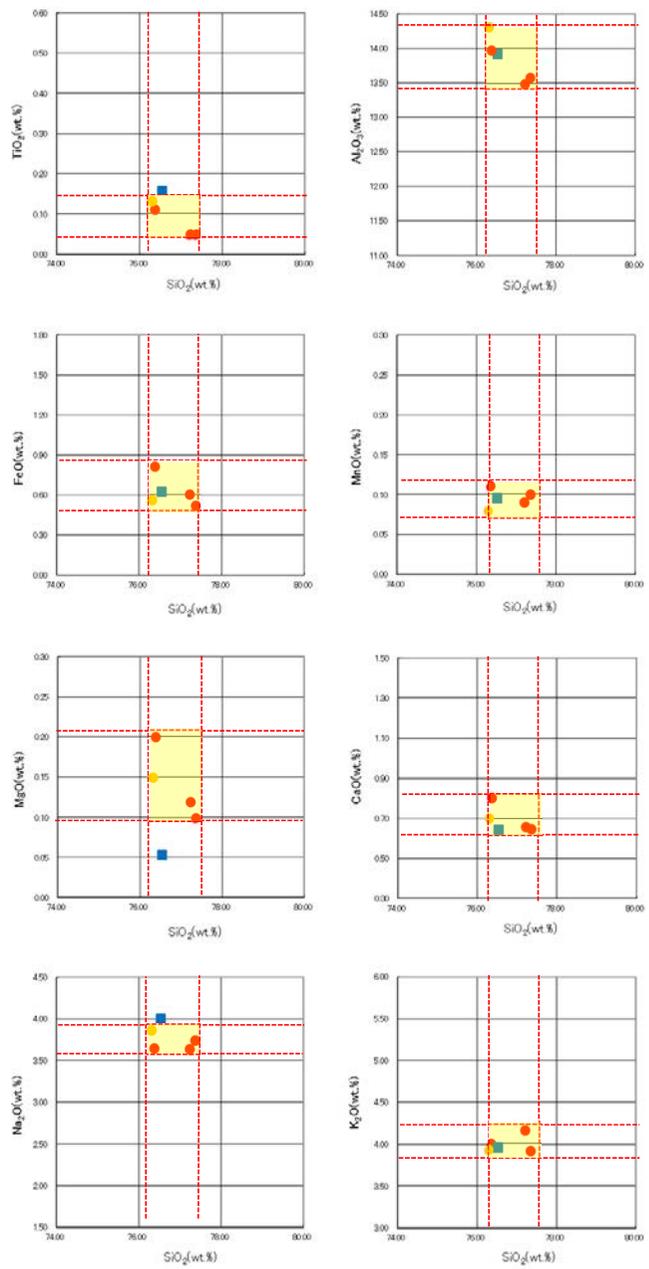
牛下南部 Site 7(火山灰分析結果①)



■ バブルウォール (Ba) タイプ Opx: 斜方輝石
■ ハミス (Pm) タイプ GHo: 緑色普通角閃石
■ 低発泡 (O) タイプ Cum: カミントン閃石

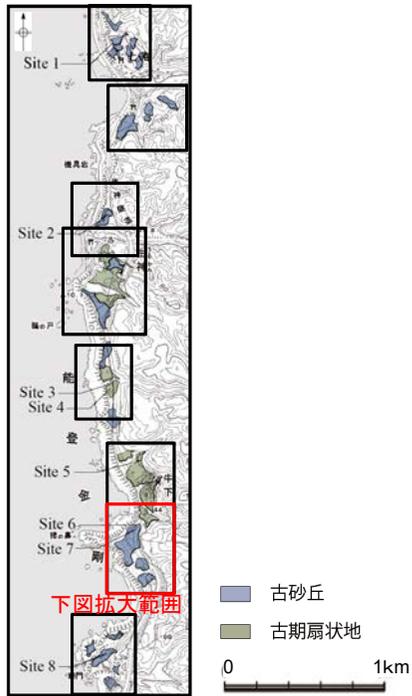


牛下南部 Site 7(火山灰分析結果②)

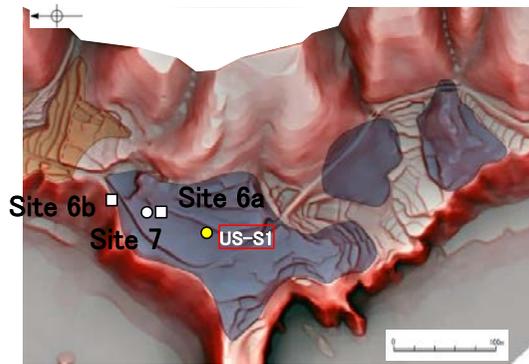


火山ガラスの主成分分析結果: 試料番号9.00-9.10

牛下南部 US-S1 (コア写真・柱状図)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



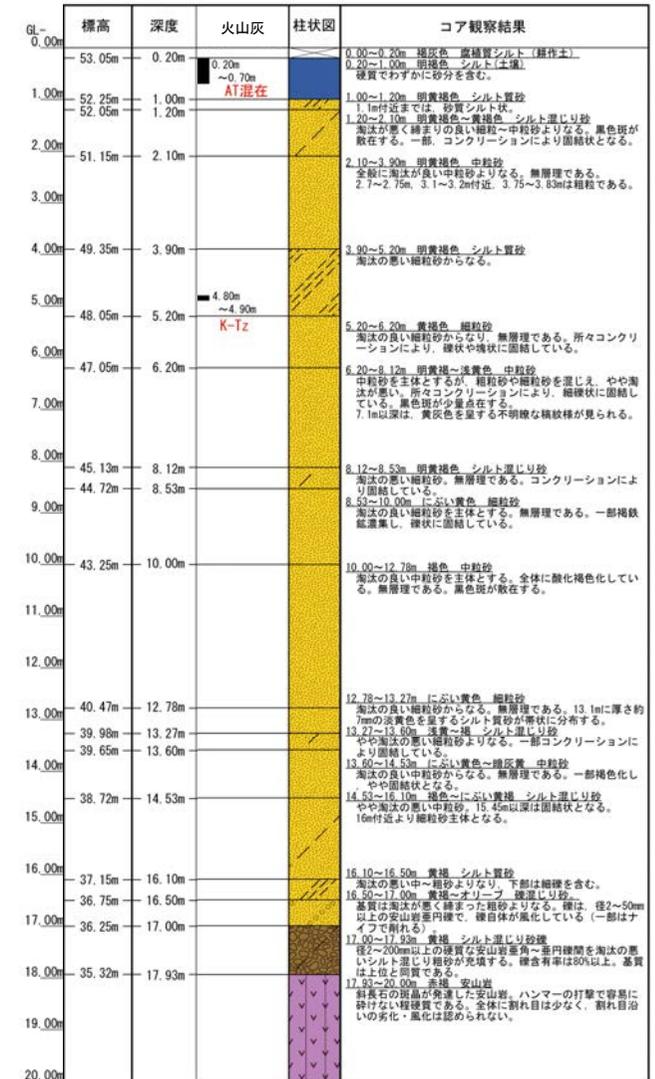
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



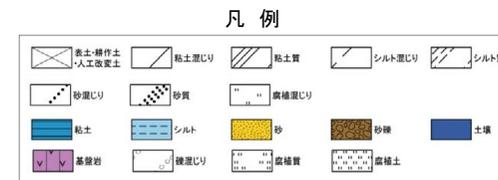
深度(m) US-S1(孔口標高53.25m, 掘進長20m, 鉛直) 深度(m)



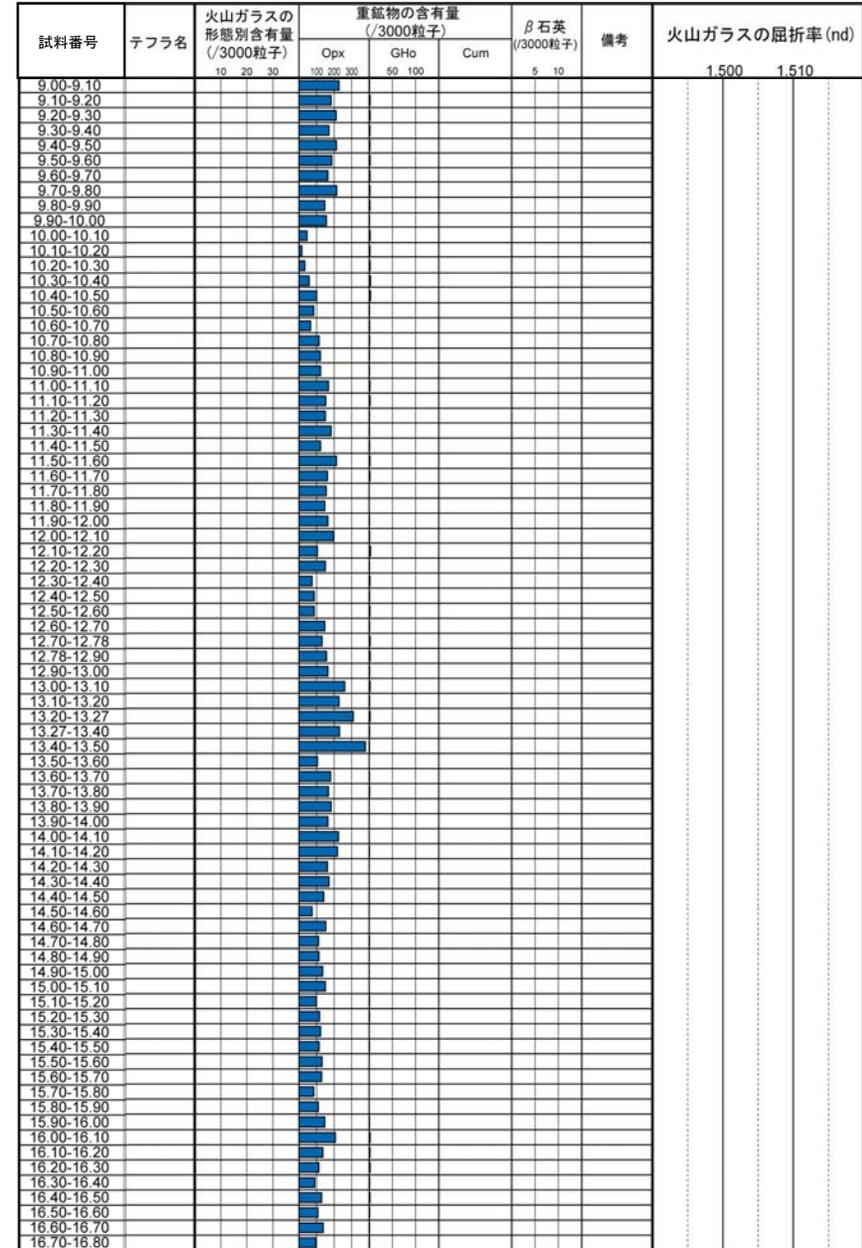
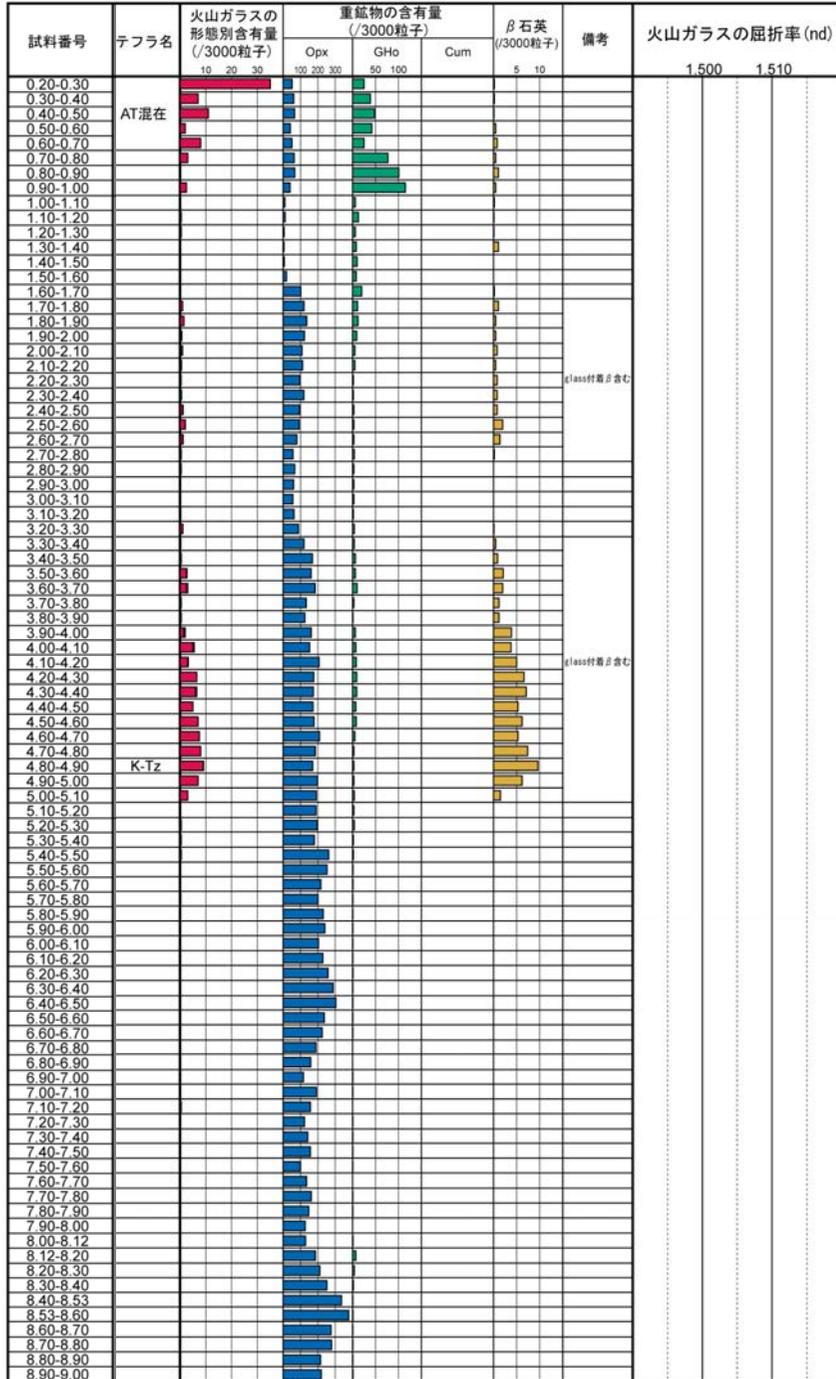
コア写真(深度0~20m)



柱状図



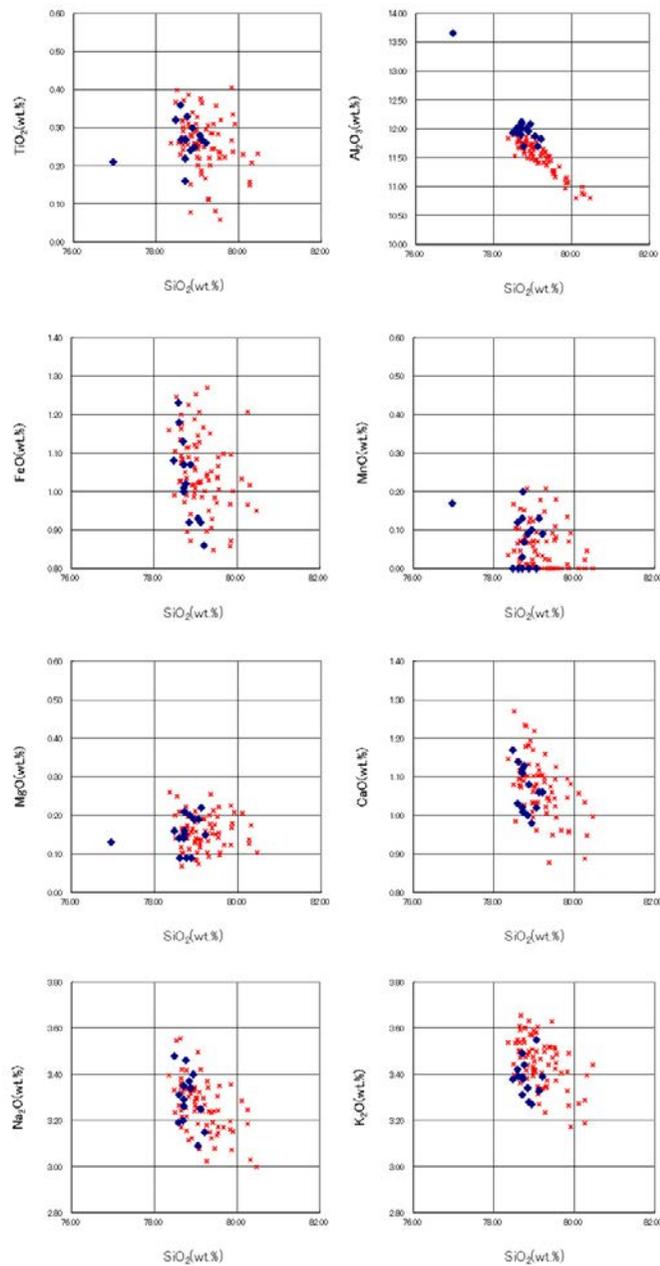
牛下南部 US-S1 (火山灰分析結果①)



■ バブルウォール (Bw) タイプ Opx:斜方輝石
■ パミス (Pm) タイプ GHo:緑色普通角閃石
■ 紙発泡 (O) タイプ Cum:カモンブロン閃石



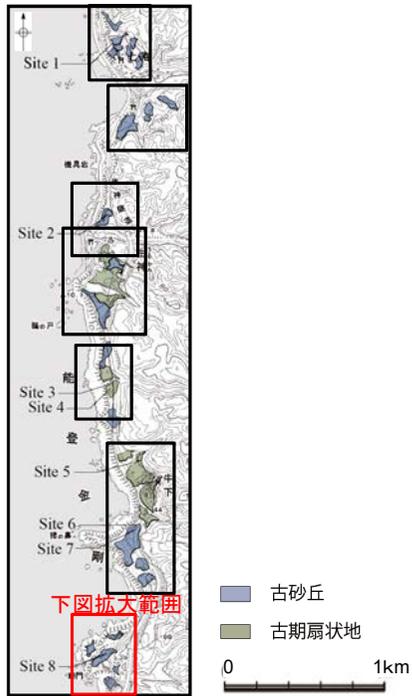
牛下南部 US-S1 (火山灰分析結果②)



- ◆ 試料番号4.80-4.90におけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分
- * 古澤・中村 (2009) におけるK-Tzに含まれるβ石英中のガラス包有物の主成分

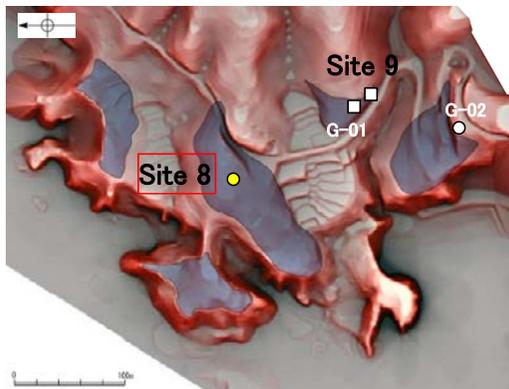
火山ガラスの主成分分析結果: 試料番号4.80-4.90

巖門 Site 8(コア写真・柱状図)

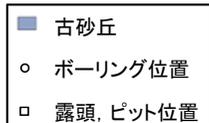


下図拡大範囲

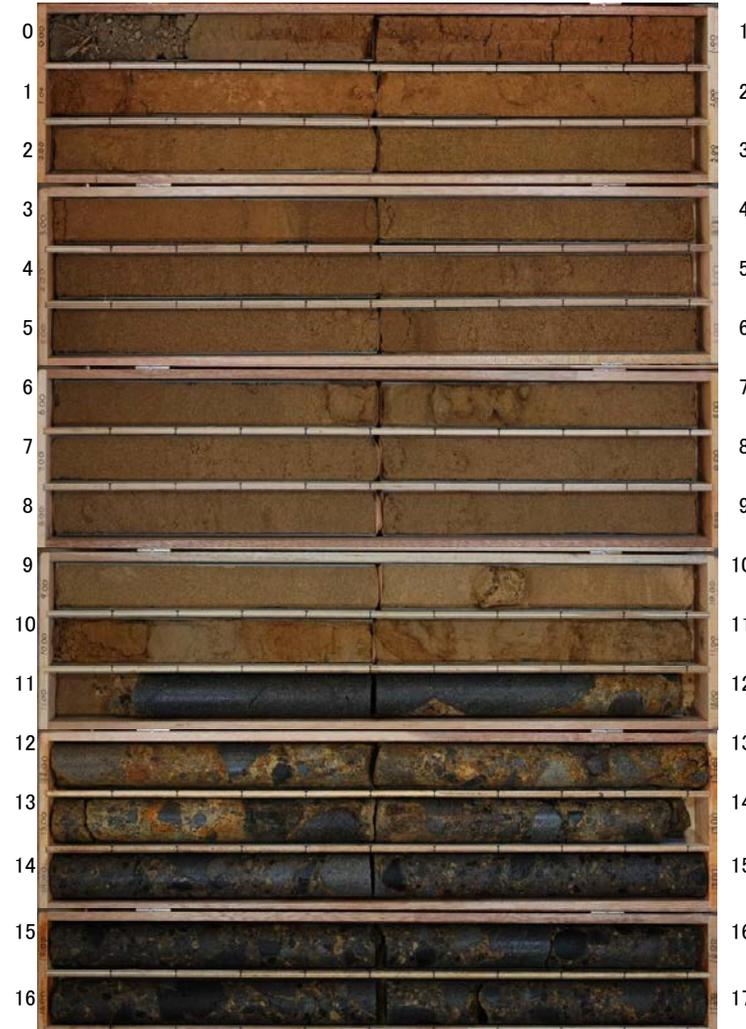
地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



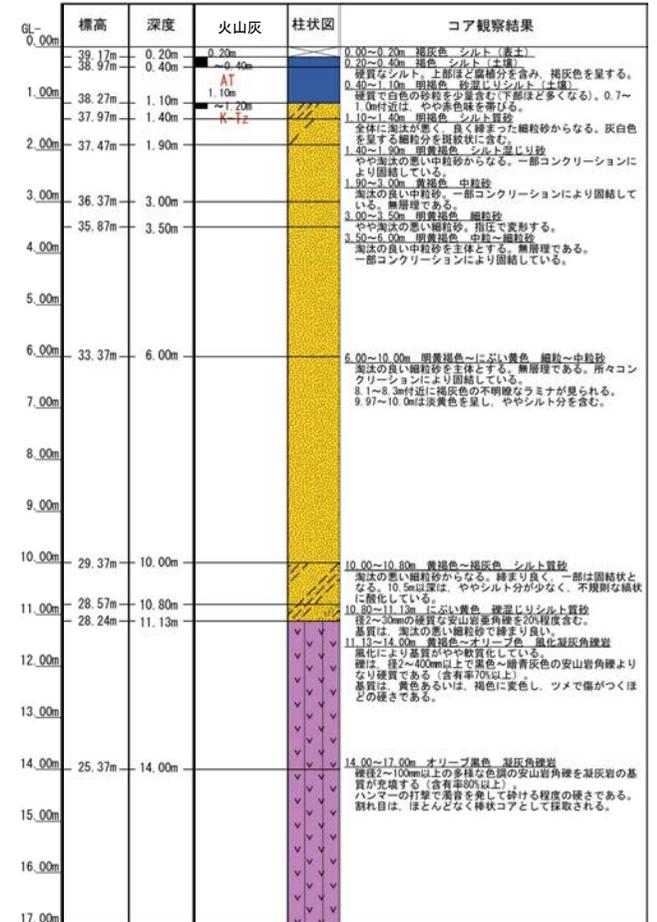
地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



深度(m) Site 8(孔口標高39.37m, 掘進長17m, 鉛直) 深度(m)

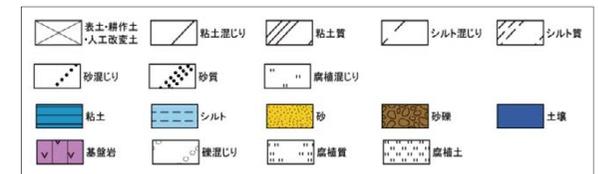


コア写真(深度0~17m)

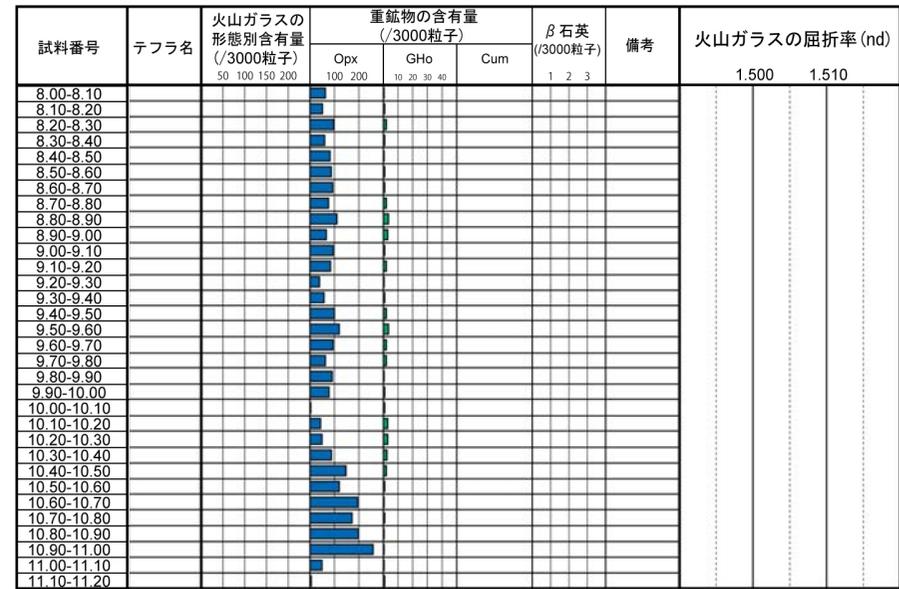
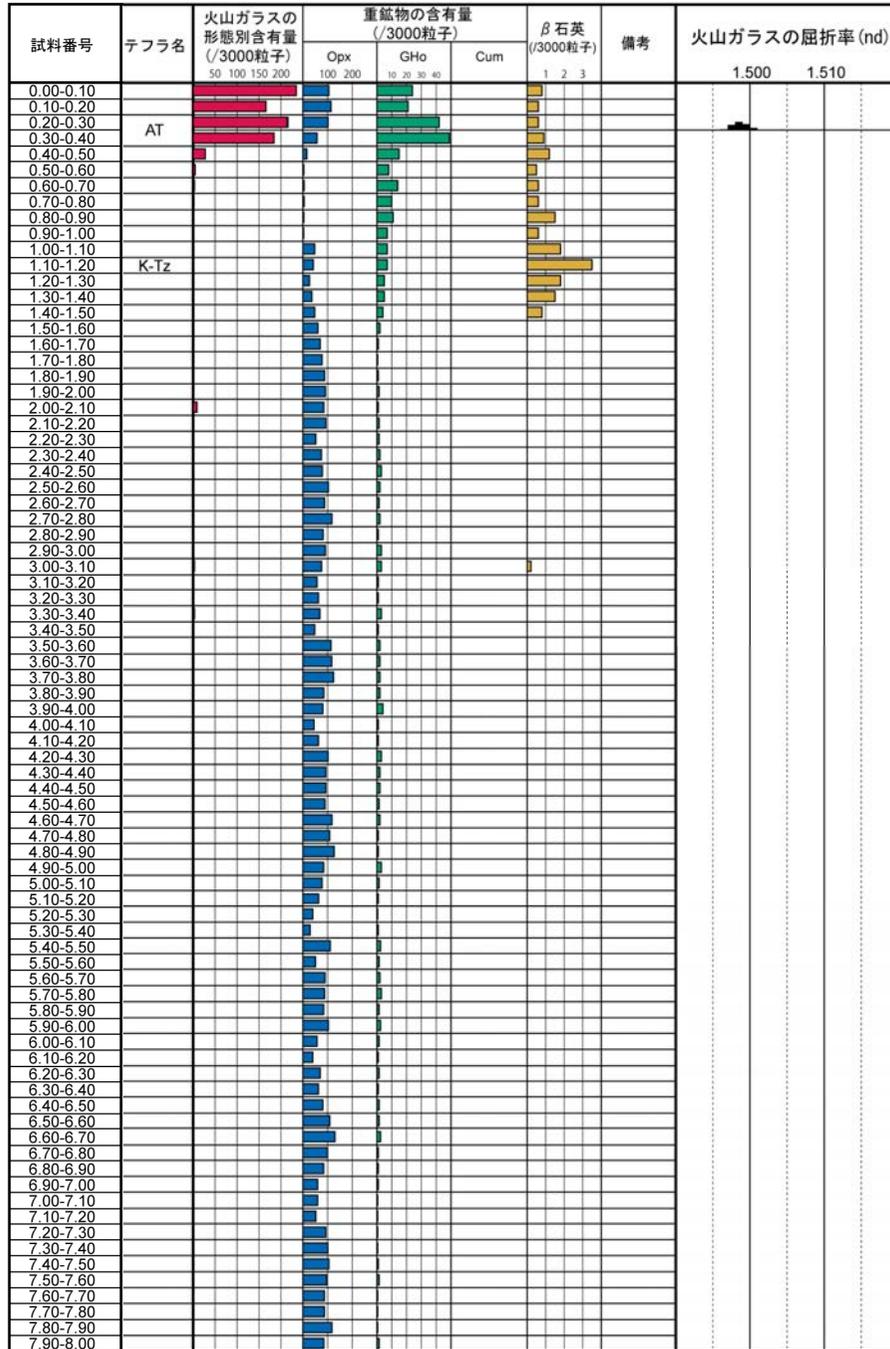


柱状図

凡例

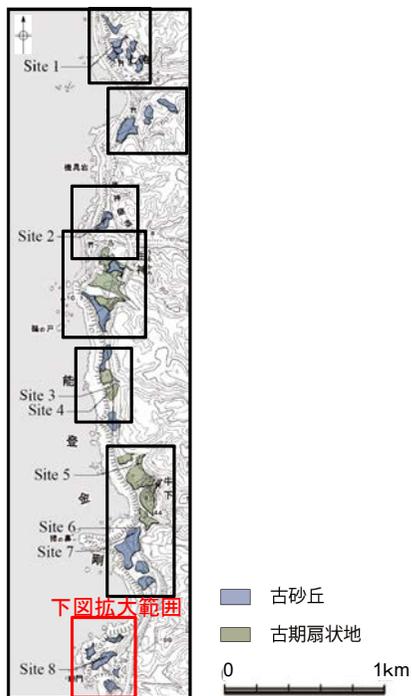


巖門 Site 8(火山灰分析結果)



■ バブルウォール(Bw)タイプ
■ 低発泡(B)タイプ
■ Opx:斜方輝石
■ GHo:緑色普通角閃石
■ Cum:カミングトン閃石
 Count: 0

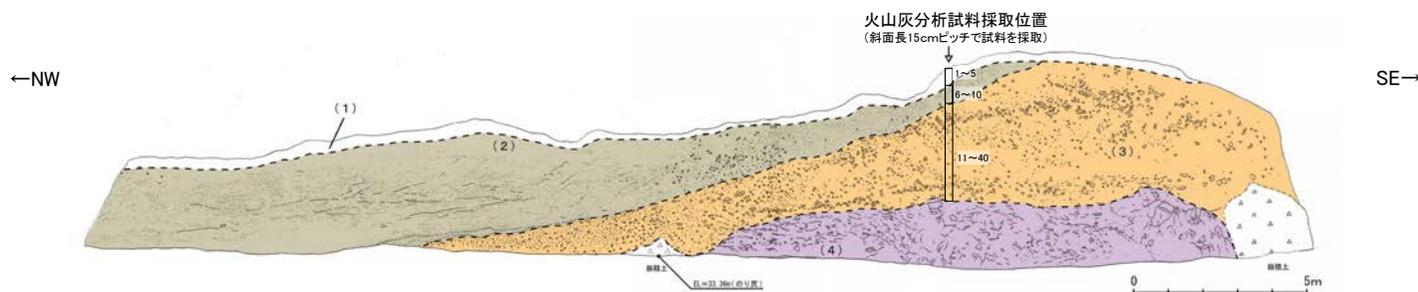
巖門 Site 9(露頭写真・スケッチ)



地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



スケッチ(Site 9 露頭)



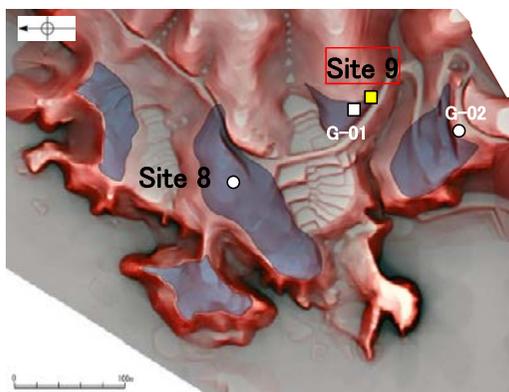
露頭写真(Site 9 露頭)

- (1) 表土
- (2) 砂層

法面の西側では、明黄褐色を呈する淘汰の良い中粒～細粒砂からなり斜交層理が見られる。ねじり鎌で容易に削れる程度の締め具合であるが、部分的にコンクリーションが見られ、固結状を示す。一方、法面の中央部から東側にかけては、最大礫径 20cm の安山岩垂角礫を 10% 程度含む礫混じり砂層へと漸移する。
- (3) 礫層

平均礫径 10cm の安山岩垂角～垂円礫(硬質)を 30～50% 程度含む。基質は、黄褐色を呈するシルト～砂質シルトからなり、ねじり鎌で削ることができる。法面の西側(礫層の最上部)では、平均礫径が 1cm 程度の角礫～垂角礫を 20% 程度含む礫混じり砂層が分布する。この礫混じり砂層の基質は、にぶい黄褐色を呈する締めまったシルト質砂よりなり、構成粒子は上位の砂層と同質である。
- (4) 凝灰角礫岩(穴水累層)

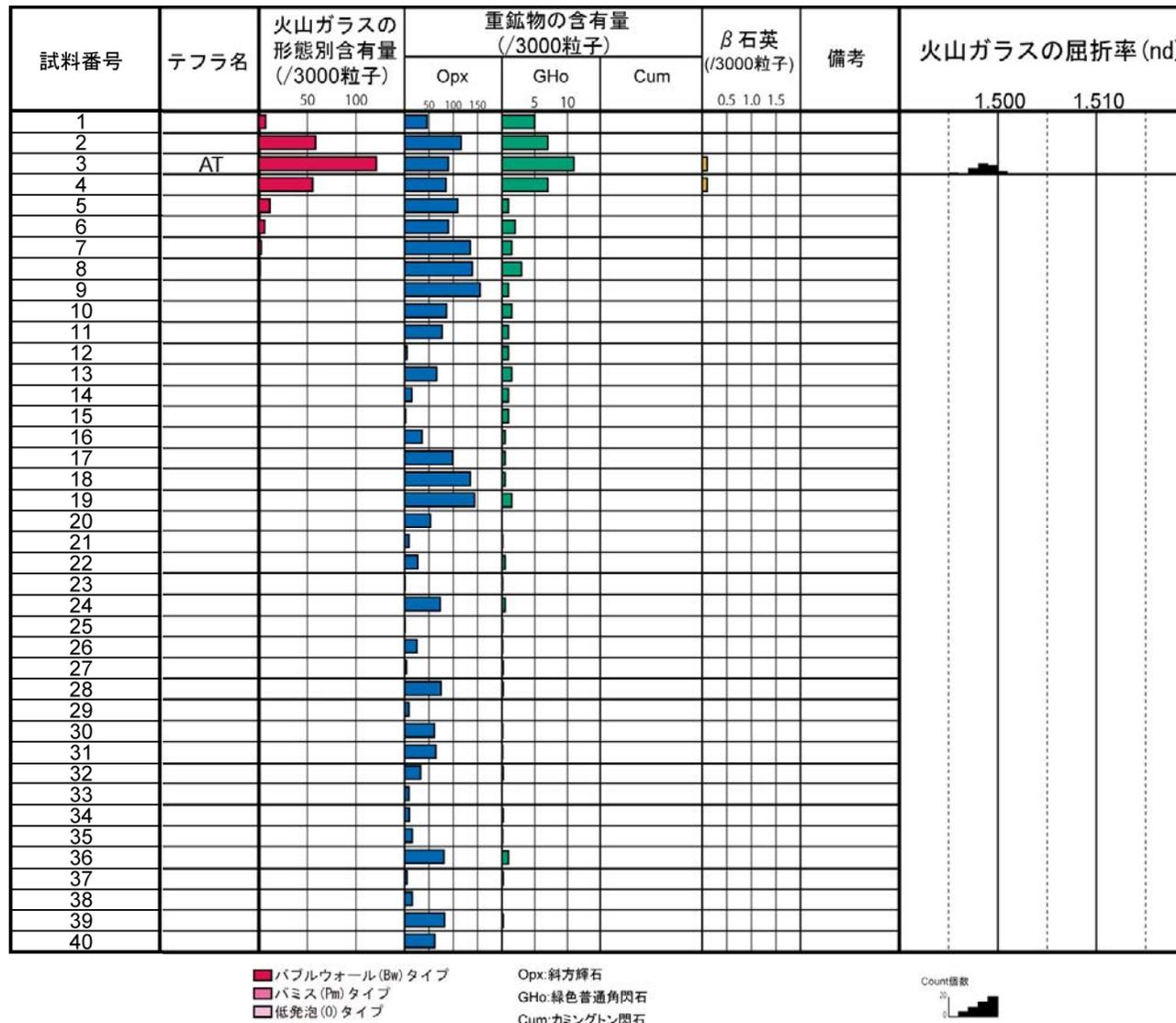
法面中央から東側の法尻付近に分布する。基質は、青灰～オリーブ灰色を呈し、強風化によりねじり鎌で削れる程度の硬さである。礫は、最大径 80cm 以上の安山岩垂角～垂円礫で、礫径 20cm 程度のものが多い。



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)

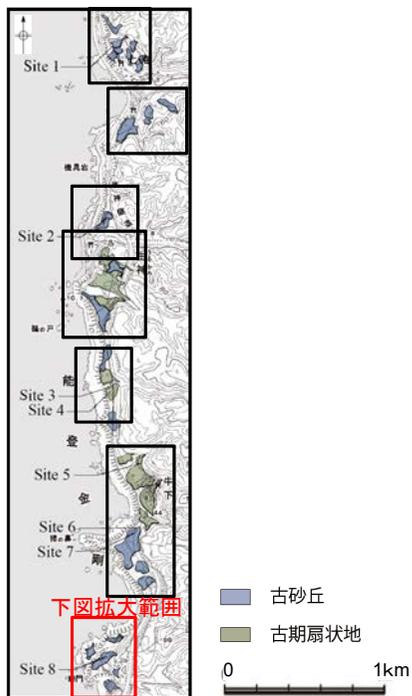
- 古砂丘
- ボーリング位置
- 露頭、ピット位置

巖門 Site 9(火山灰分析結果)



火山灰分析結果

巖門 G-01 (露頭写真・スケッチ)



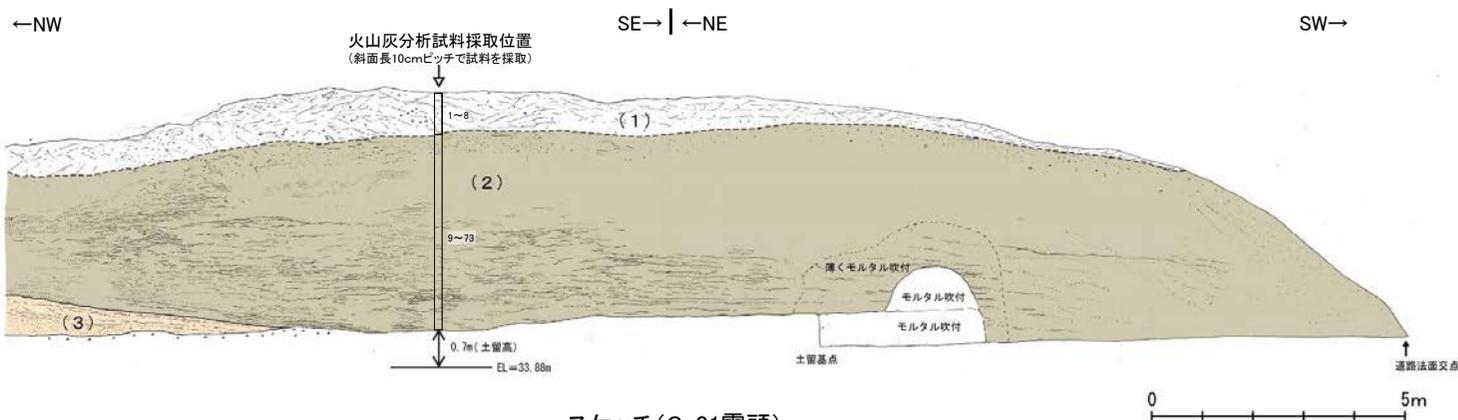
地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



露頭写真(G-01露頭 NE面)

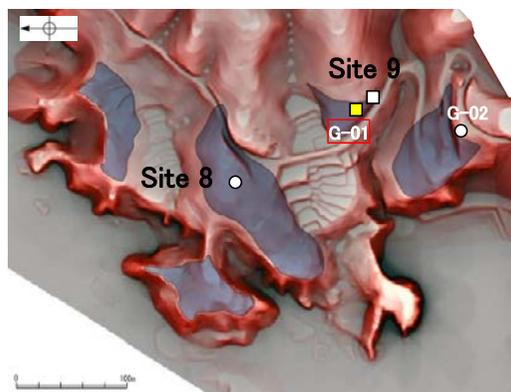


露頭写真(G-01露頭 SE面)

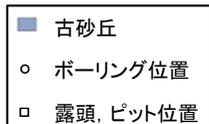


スケッチ(G-01露頭)

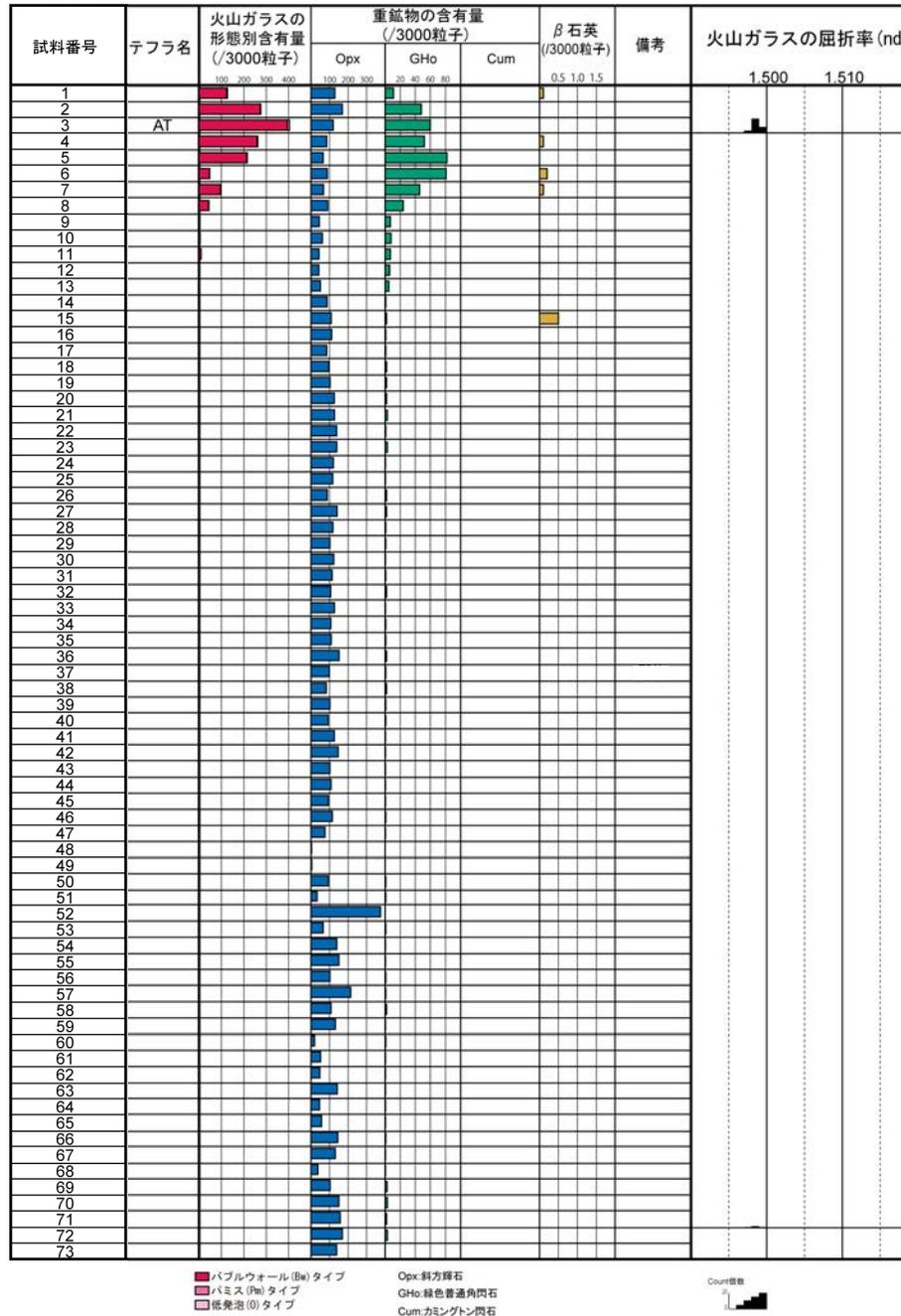
- (1) 表土および土壌
褐灰色を呈する腐植混じりシルト(表土), および明褐色~一部赤褐色を呈するシルト(土壌)。
- (2) 砂層
明黄褐色を呈する淘汰の良い中粒~細粒砂からなる。法面上部では、無層理であるが、法面下部では、ラミナが発達する。概ね、ねじり鎌で容易に削れる程度の締まり具合であるが、部分的にコンクリーションが見られ、固結状を示す。砂層の最上部は、礫径50mm程度の赤褐色を呈する安山岩垂円礫を10%程度含む。
- (3) シルト質砂~砂質シルト層
上位より褐色のシルト混じり砂層、青灰色の砂質シルト層、黄褐色のシルト質砂層からなる。いずれもねじり鎌で容易に削れる程度の硬さ・締まり具合である。部分的に礫径40mm以下の垂円礫を含む。



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)

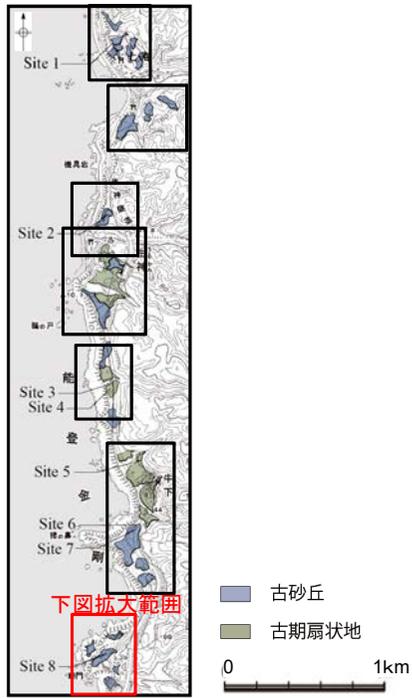


巖門 G-01 (火山灰分析結果)

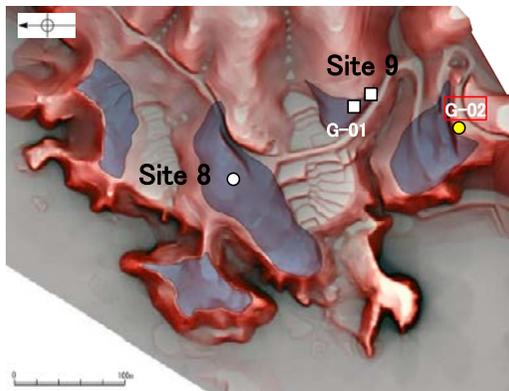


火山灰分析結果

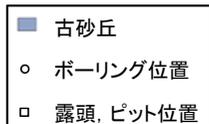
巖門 G-02(コア写真・柱状図)



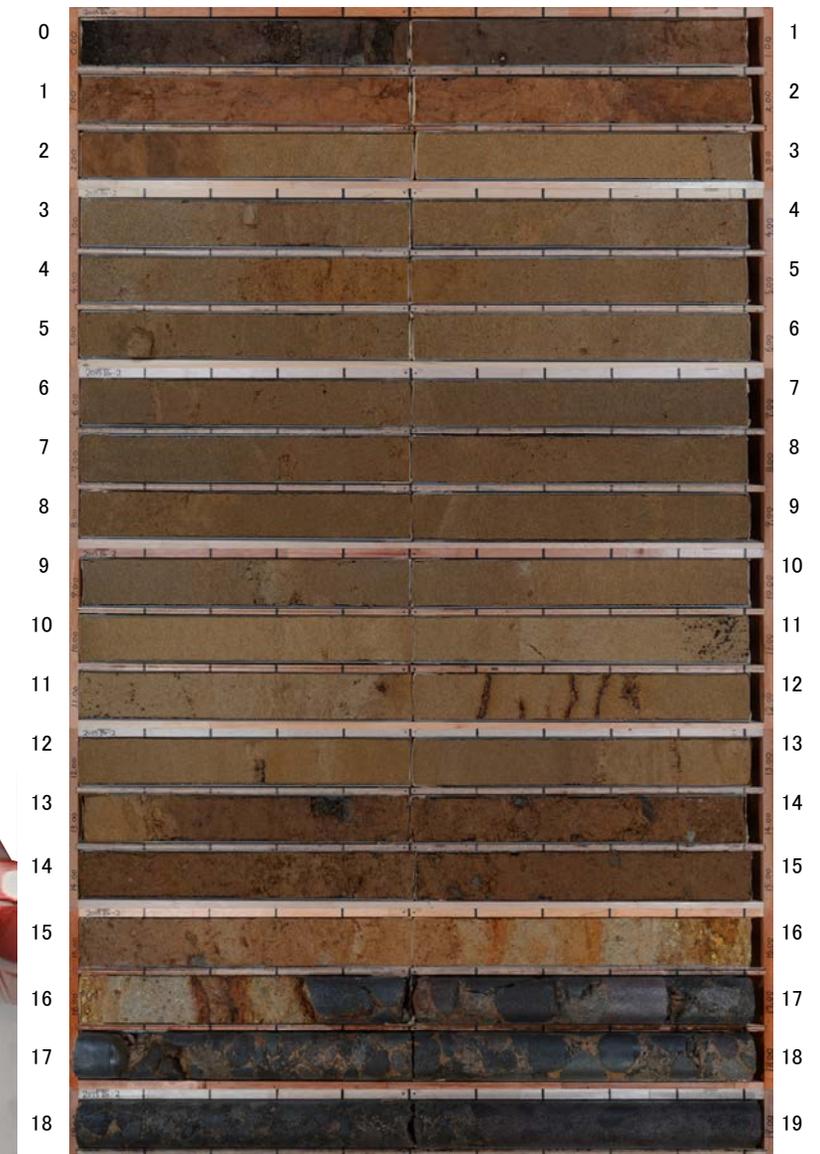
地形面区分図(服部ほか, 2014を編集)



地形面区分図(服部ほか(2014)を編集)
(基図は1961年の空中写真から作成)



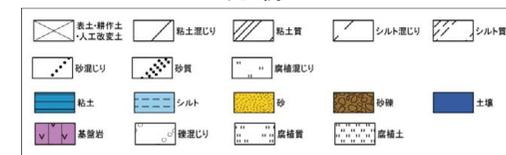
G-02(孔口標高50.29m, 掘進長19m, 鉛直)



コア写真(深度0~19m)

GL-	標高	深度	火山灰	柱状図	コア観察結果
0.00m	50.26m	0.03m			0.00~0.03m 腐植土層
1.00m	49.41m	0.88m	GL-0.88~1.0 AT		0.03~0.88m 細~中粒砂混じりシルト層 細~中粒砂が全体に混じる。径3~6cmの歪角~歪円礫を少量含む。
2.00m	48.64m	1.65m	GL-1.65~1.7 K-Tz		0.88~1.65m シルト層 部分的に細粒砂が混じるほか、腐植物を含む。
3.00m	48.07m	2.22m			1.65~2.22m シルト片混じり中粒砂層
4.00m	46.92m	3.37m			2.22~3.37m 細~中粒砂層 淘汰の良い中粒砂を主体とする。 2.94m付近 木炭を含む。 3.25m付近 砂質ノジュールを含む。
5.00m					3.37~4.90m 礫混じり細~中粒砂層 3.37~4.90m 径0.2~0.6cmの礫をわずかに含み、淘汰の悪い中粒砂を主体とする。 4.35m付近 長径3cm×縦1cmのノジュールを含む。
6.00m					4.90~10.65m 径0.5~3.0cmの円礫を含む礫混じり細~中粒砂層
7.00m					6.12m付近 細粒砂を挟在する。ほぼ水平。
8.00m					9.65m付近 径3.0cmのノジュールを含む。
9.00m					下位層との境界はほぼ水平。
10.00m					10.65~12.78m 細~中粒砂層 細~中粒砂からなり、上位層では比較的少ないマンガン斑が顕著に認められる。
11.00m	39.64m	10.65m			11.60m, 11.74m, 11.78m, 11.83mでは、層状のノジュールを含み、周囲をマンガン斑で囲まれる。
12.00m					12.27m 顕著なマンガン斑が認められる。
13.00m					12.78~13.15m シルト混じり細~中粒砂層
14.00m	37.51m 37.14m	12.78m 13.15m			13.15~15.20m 礫混じりシルト~細粒砂 上部5cmは淘汰の悪いシルト混じり細粒砂よりなり、漸移的にシルト基質に変わる。 礫は最大径6cm, 平均0.5cmの歪円~歪角礫, 礫率は5~10%程度で、礫種は安山岩, 泥岩, 砂岩, シルト塊など多岐にわたる。 13.40m付近 径6cmの安山岩の礫。
15.00m					15.20~15.78m 礫混じり細~中粒砂層 礫は径0.5cm以下が多い, 礫率5%程度。
16.00m	35.09m 34.51m	15.20m 15.78m			15.78~16.38m 礫混じり砂質シルト~礫混じり中粒砂層 礫混じり砂質シルトと礫混じり中粒砂が互層する。礫率は0.3~1.5cm程度のものが多く, 礫率は上部で5%以下, 下部で20%程度である。
17.00m	33.91m	16.38m			16.38~18.58m 砂礫層 基質はシルトよりなる砂礫, 礫は径1~10cmで, 16.38~17.10m周辺は礫径が平均7cm程度, 17.10m以深では平均径3.0~4.0cmである。礫は歪角~歪円礫, 礫種は安山岩で礫率は70~80%である。 17.70m 円礫が多くなる。 18.00m周辺 基質はシルト混じりの細粒砂, 円礫は扁平なものが多くなる。
18.00m					18.58~19.00m 凝灰角礫岩 基質は凝灰質である。礫は角~歪角礫で礫径は2~5cm, 礫率は25%程度。礫種は安山岩よりなる。
19.00m	31.71m	18.58m			

凡例 柱状図



巖門 G-02 (火山灰分析結果)

試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)		角閃石の屈折率 (n2)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510	1.680	1.690
Br-2-01											
Br-2-02											
Br-2-03											
Br-2-04											
Br-2-05											
Br-2-06											
Br-2-07											
Br-2-08											
Br-2-09											
Br-2-10											
Br-2-11	AT										
Br-2-12											
Br-2-13											
Br-2-14											
Br-2-15											
Br-2-16											
Br-2-17											
Br-2-18											
Br-2-19	K-Iz										
Br-2-20											
Br-2-21											
Br-2-22											
Br-2-23											
Br-2-24											
Br-2-25											
Br-2-26											
Br-2-27											
Br-2-28											
Br-2-29											
Br-2-30											
Br-2-31											
Br-2-32											
Br-2-33											
Br-2-34											
Br-2-35											
Br-2-36											
Br-2-37											
Br-2-38											
Br-2-39											
Br-2-40											
Br-2-41											
Br-2-42											
Br-2-43											
Br-2-44											
Br-2-45											
Br-2-46											
Br-2-47											
Br-2-48											
Br-2-49											
Br-2-50											
Br-2-51											
Br-2-52											
Br-2-53											
Br-2-54											
Br-2-55											
Br-2-56											
Br-2-57											
Br-2-58											
Br-2-59											
Br-2-60											
Br-2-61											
Br-2-62											
Br-2-63											
Br-2-64											
Br-2-65											
Br-2-66											
Br-2-67											
Br-2-68											
Br-2-69											
Br-2-70											
Br-2-71											
Br-2-72											
Br-2-73											
Br-2-74											
Br-2-75											
Br-2-76											
Br-2-77											
Br-2-78											
Br-2-79											
Br-2-80											
Br-2-81											
Br-2-82											
Br-2-83											
Br-2-84											
Br-2-85											
Br-2-86											
Br-2-87											
Br-2-88											
Br-2-89											
Br-2-90											
Br-2-91											
Br-2-92											
Br-2-93											
Br-2-94											
Br-2-95											
Br-2-96											
Br-2-97											
Br-2-98											
Br-2-99											
Br-2-100											

試料番号	テフラ名	火山ガラスの形態別含有量 (/3000粒子)	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)	備考	火山ガラスの屈折率 (nd)		角閃石の屈折率 (n2)	
			Opx	GHo	Cum			1.500	1.510	1.680	1.690
Br-2-101											
Br-2-102											
Br-2-103											
Br-2-104											
Br-2-105											
Br-2-106											
Br-2-107											
Br-2-108											
Br-2-109											
Br-2-110											
Br-2-111											
Br-2-112											
Br-2-113											
Br-2-114											
Br-2-115											
Br-2-116											
Br-2-117											
Br-2-118											
Br-2-119											
Br-2-120											
Br-2-121											
Br-2-122											
Br-2-123											
Br-2-124											
Br-2-125											
Br-2-126											
Br-2-127											
Br-2-128											
Br-2-129											
Br-2-130											
Br-2-131											
Br-2-132											
Br-2-133											
Br-2-134											
Br-2-135											
Br-2-136											
Br-2-137											
Br-2-138											
Br-2-139											
Br-2-140											
Br-2-141											
Br-2-142											
Br-2-143											
Br-2-144											
Br-2-145											
Br-2-146											
Br-2-147											
Br-2-148											
Br-2-149											
Br-2-150											
Br-2-151											
Br-2-152											
Br-2-153											
Br-2-154											
Br-2-155											
Br-2-156											
Br-2-157											
Br-2-158											
Br-2-159											
Br-2-160											
Br-2-161											
Br-2-162											
Br-2-163											
Br-2-164											
Br-2-165											
Br-2-166											
Br-2-167											
Br-2-168											
Br-2-169											
Br-2-170											
Br-2-171											

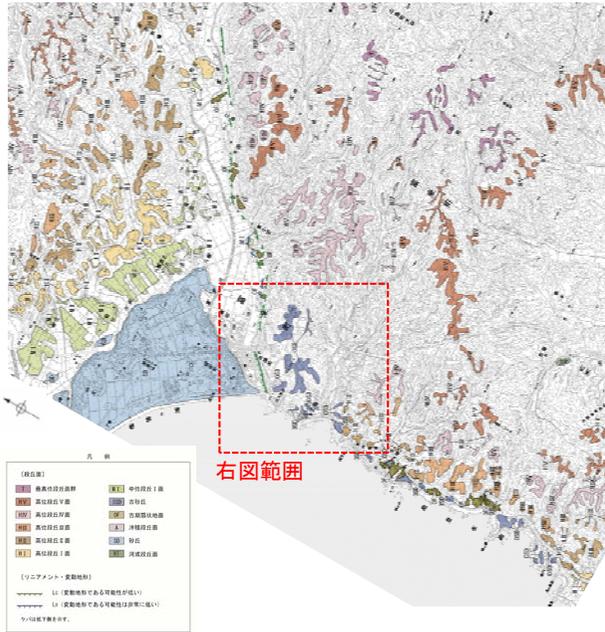
■ バブルフォール (Ba) タイプ Opx: 斜方輝石
■ ナイス (Na) タイプ GHo: 緑色普通角閃石
■ 黒染油 (O) タイプ Cum: カルシウム閃石



(4) 富来川南岸断層南方の高位段丘面調査

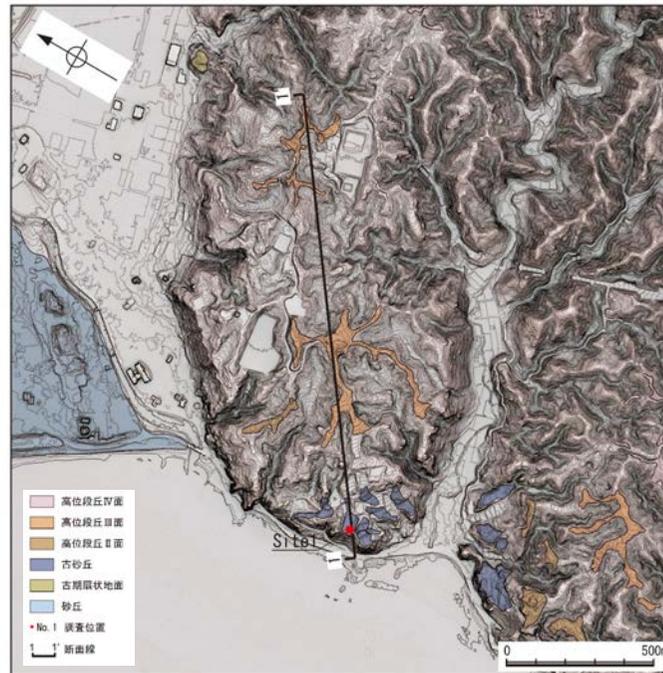
富来川南岸断層南方の高位段丘面調査結果

- 高位段丘面については、太田・平川(1979)の段丘面高度の分布図において、富来川南岸断層の位置を挟んで約30mの高度差が示されている。
- 太田・平川(1979)の高位段丘面のうち、断層南方に分布する標高約100m以下の地形面について、当社では設置変更許可申請(平成26年8月)において高位段丘Ⅱ面、Ⅲ面と区分しており、これらの形成年代と旧汀線高度の検討を行った。なお、高位段丘面は上位ほど開析が著しいため、高位段丘Ⅳ面より上位の面については、調査対象から除いた。
- これらの地形面は丘陵頂部に分布するものの開析を受け分布範囲が狭く、段丘面区分の確実性に欠ける。また、これらの地形面において地質調査を行った結果、表層に厚さ5~30mの風成砂層が分布することを確認した。さらに、砂層の下位の基盤岩の上面高度は、地形に基づく段丘面区分と対応していない。
- 以上を踏まえると、これらの地形面は古砂丘面と判断され、断層南方の地形面を用いた高位段丘面の形成年代と旧汀線高度の推定は困難である。
- なお、これに伴い地形面区分を下図の通り見直している。



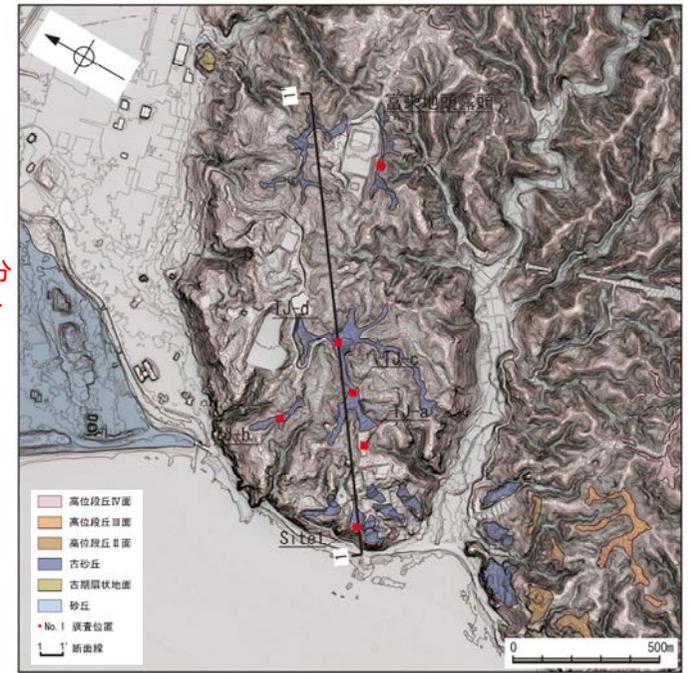
右図範囲

調査位置図

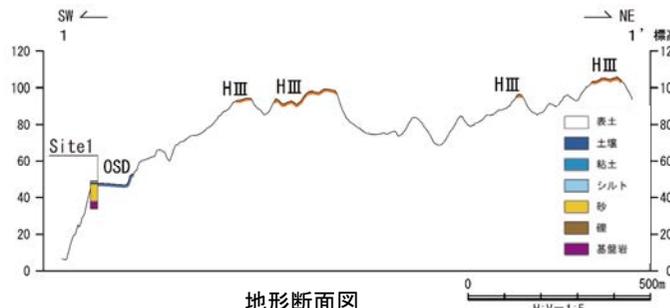


地形区分図
(設置変更許可時)

地形区分
を見直し

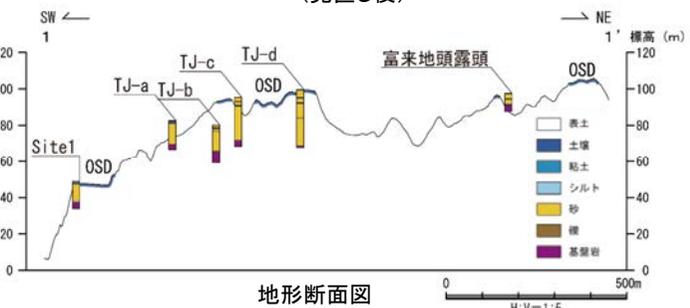


地形区分図
(見直し後)



地形断面図
(設置変更許可申請時)

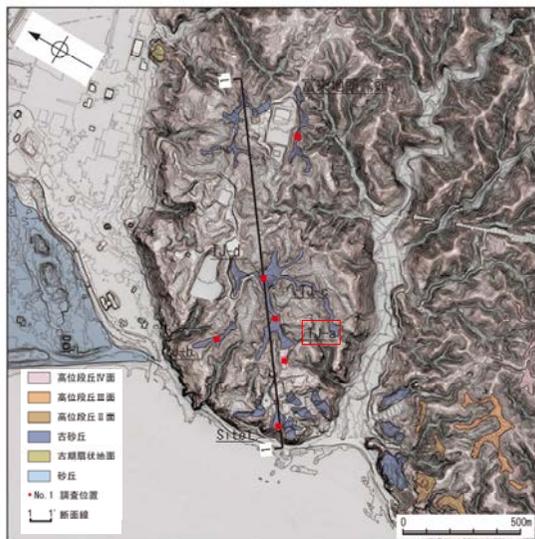
地形区分
を見直し



地形断面図
(見直し後)

ボーリング調査 TJ-a孔

○断層南方の標高約80mの地形面におけるボーリング調査(TJ-a孔)の結果、表層に約11mの砂層があり、これは全体として均質で淘汰が良いこと、貝化石や生痕化石が認められないことから、風成砂層と考えられる。



地形区分図

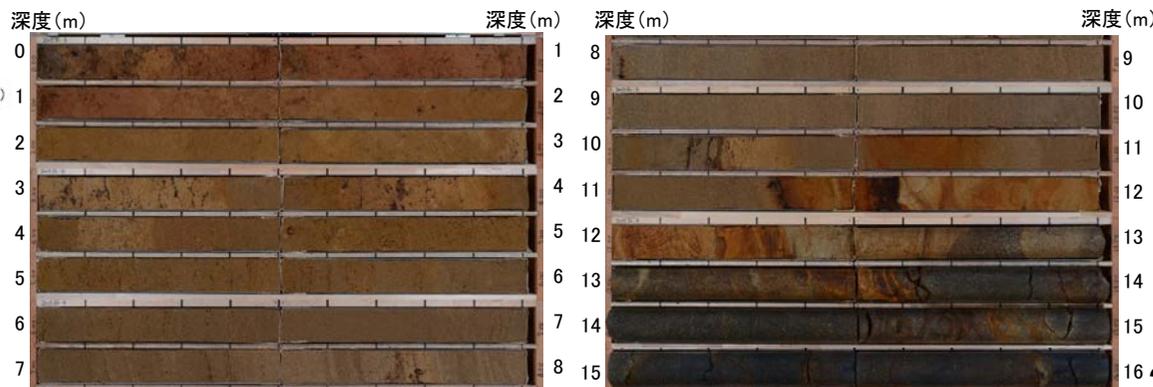
(EL82.62m)

TJ-a孔 (孔口標高82.62m, 掘進長16.0m, 鉛直)

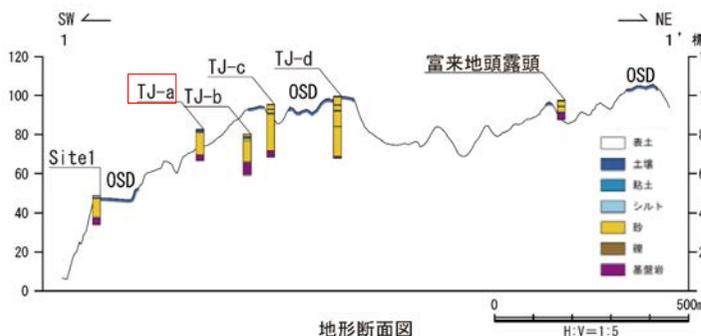
GL	標高	深度	火山灰 (¹⁴ C年代(yBP))	柱状図	コア観察結果
0.00m	82.57m	0.05m			0.00~0.05m 表土 シルト混じり層~中粒砂からなり植物根を多く含む表土。
	82.35m	0.27m			0.05~0.27m シルト質砂~砂質シルト層 0.05~0.20mはシルト質細~中粒砂からなるが、0.20~0.27mは砂質シルトに漸移する。径0.2~1cm程度の斑状にマンガン斑が認められる。
1.00m	82.12m	0.50m			0.27~0.50m 砂質シルト層(褐色土層) 全体に細粒砂が混じる。径0.2~0.5cmの斑状、および植物根に沿う形状のマンガン斑が見られる。斑紋なし。
	81.69m	0.96m			0.50~0.96m シルト質細~中粒砂層 褐色を呈する部分を主体とし、黄褐色を呈する部分を不規則な形状で含む。マンガン斑が少量認められる。下位層との境界は凹凸あり。ほぼ水平。
2.00m	81.01m	1.61m			0.96~1.20m 砂質粘土層(明褐色土層) 全体に細粒砂が少量混じる。主に縦方向に延びるマンガン斑が全体に認められる。
3.00m					0.96~1.20m 砂質粘土層(明褐色土層) 全体に細粒砂が混じる。マンガン斑が少量見られる。下位層との境界は漸移的。
4.00m					1.20~1.61m 砂質粘土層 全体に細~中粒砂が混じる。植物根を全体に含む。一部では植物根に沿う形状のマンガン斑が見られる。
5.00m	78.29m	4.33m			1.61~4.33m 細~中粒砂・シルト混じり中粒砂互層 細~中粒砂とシルト混じり中粒砂が互層状に繰り返す。 全体に斑状のマンガン斑(径0.5~5mm程度)が認められるほか、ノジュール状に固結した部分が認められる。 3.92~4.07m 無層理、塊状でマンガン斑およびノジュールに乏しい。 4.23~4.33m 塊状、無層理でシルト混じり粗粒砂を含む。
6.00m	76.96m	5.66m			4.33~5.66m 中粒砂層 4.33~4.50mおよび4.27~5.66m ノジュール状に固結した部分が少量認められる。 4.50~5.27m ノジュール状に固結した部分が多く認められる。 5.19mには細~中粒砂の薄層(厚5mm)が傾斜10°で存在する。
7.00m	76.82m	5.80m			5.66~5.80m 細~粗粒砂層 上方細粒化が認められる。
8.00m					5.80~9.79m 中粒砂層 5.80~6.46m ノジュール状に固結した部分が認められる。 6.46~6.81m 塊状、無層理。 6.81~7.57m 傾斜10°程度の不明瞭な平行層理が認められる。 7.57~8.10m 傾斜10°程度の平行層理が認められる。 8.10~9.79m ほぼ水平~傾斜5°程度の不明瞭な平行層理が認められる。 下位層との境界は漸移的。
9.00m					9.79~11.35m 細~中粒砂層 細~中粒砂を主体とし、シルト混じりの部分および細~粗粒砂を挟む。
10.00m	72.83m	9.79m			10.03~10.10m ほぼ水平の酸化帯(幅0.2~3cm)が認められる。 10.15~10.20m の細脈状にマンガン斑が認められる。 10.20~10.36m 上方細粒化の傾向が認められる。10.20~10.28m間では、傾斜10°程度の不明瞭な平行層理が認められる。 10.36~11.00m 塊状、10.51~10.75m間では、酸化により赤味を帯びる。 11.00~11.24m 細~粗粒砂からなり、上方細粒化の傾向が認められる。下位との境界は凹凸あり。
11.00m	71.27m	11.35m			11.35~12.31m シルト混じり細~中粒砂・細~中粒砂互層 細~中粒砂を主体とし、シルト分を混じる部分と砂からなる部分が互層する。 斑状~細脈状のマンガン斑が認められるほか、全体が酸化により褐色を帯びる。 下位層との境界は凹凸あり。
12.00m	70.31m	12.31m			12.31~12.96m 塊状シルト砂層 基質は中~粗粒砂からなり、上部ほど細粒である。礫は径2~4mm程度の垂角礫を主体とし、径160mmの礫も1つ含む。礫種は安山岩。
13.00m	69.66m	12.96m			12.96~16.00m 安山岩(均質) 12.96~13.63m 全体に風化を受けており、爪で傷が付く程度の軟質。 傾斜20°~50°程度の割れ目が6~20cm間隔で分布し、一部割れ目には幅2~15mm程度の細粒物(半固結)が充填する。 13.63~14.50m 傾斜に風化によるわずかに褐色を帯びる状、硬質であり、ハンマーの打撃でせやせやした音を発する。 14.50~16.00m 3~15cm程度の間隔で傾斜20°~50°の割れ目が分布し、割れ目を中心に風化により褐色を帯びる。 割れ目の一部には幅2~10mm程度の細粒物(半固結)が充填する。 14.50~15.04m ほぼ全体が褐色を帯びる。 15.04~16.00m 割れ目沿い1~3cm程度が褐色を帯びる。



柱状図



コア写真

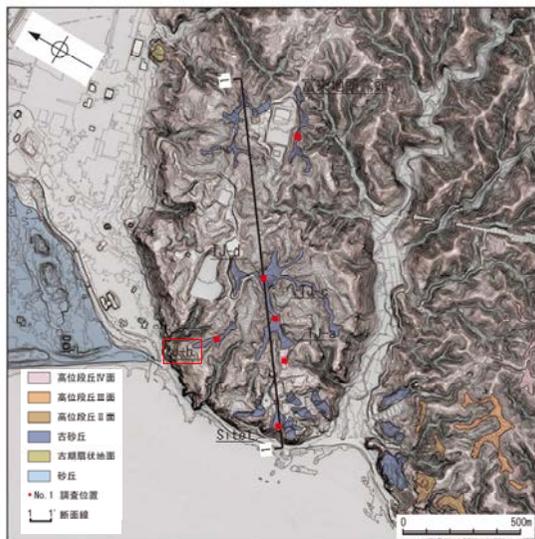


地形断面図

ボーリング調査 TJ-b孔

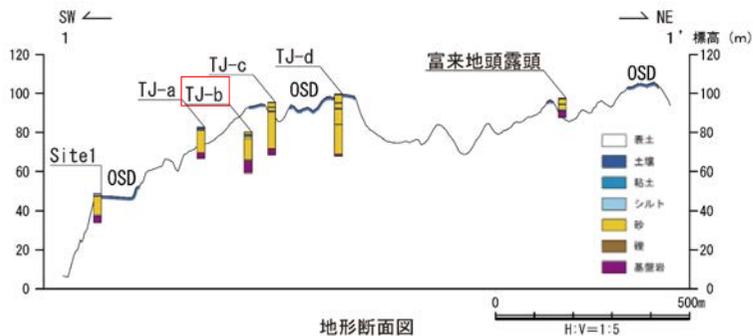
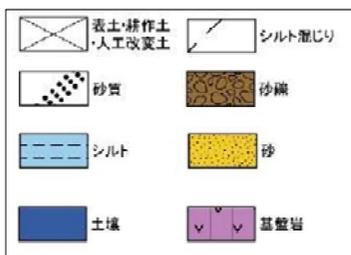
○断層南方の標高約80mの地形面におけるボーリング調査(TJ-b孔)の結果、表層に約14mの砂層があり、これは全体として均質で淘汰が良いこと、貝化石や生痕化石が認められないこと、砂層中に赤みを帯びた土壌を含み、その上下で砂層の層相に大きな変化がないことから、風成砂層と考えられる。

(EL.80.18m) TJ-b孔 (孔口標高80.18m, 掘進長21.0m, 鉛直)

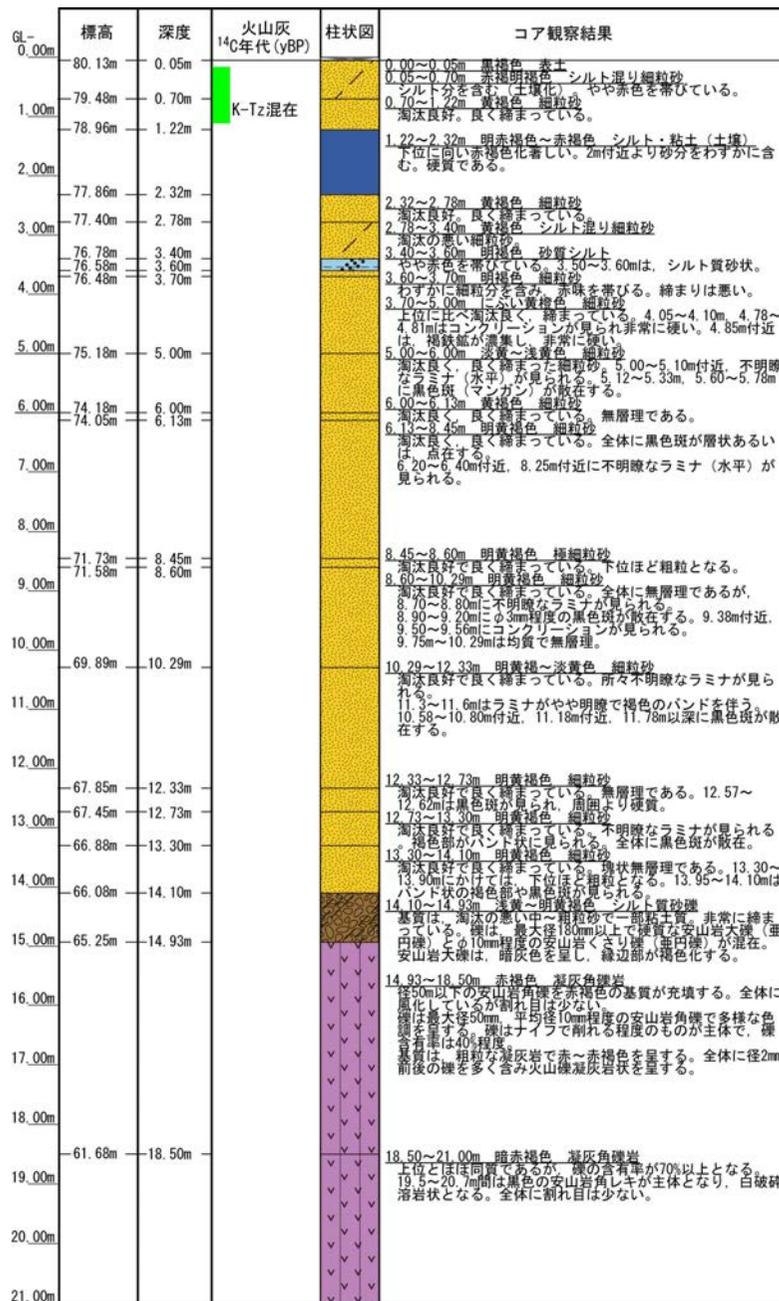


地形区分図

柱状図凡例



地形断面図



柱状図



コア写真

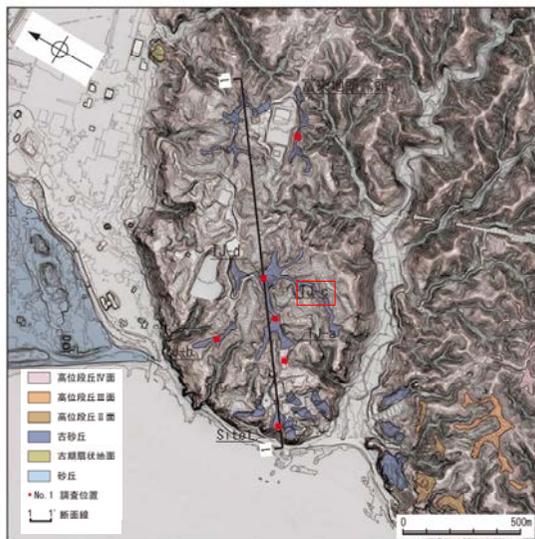
テフラの年代(町田・新井, 2011)

K-Tz: 9.5万年前

ボーリング調査 TJ-c孔

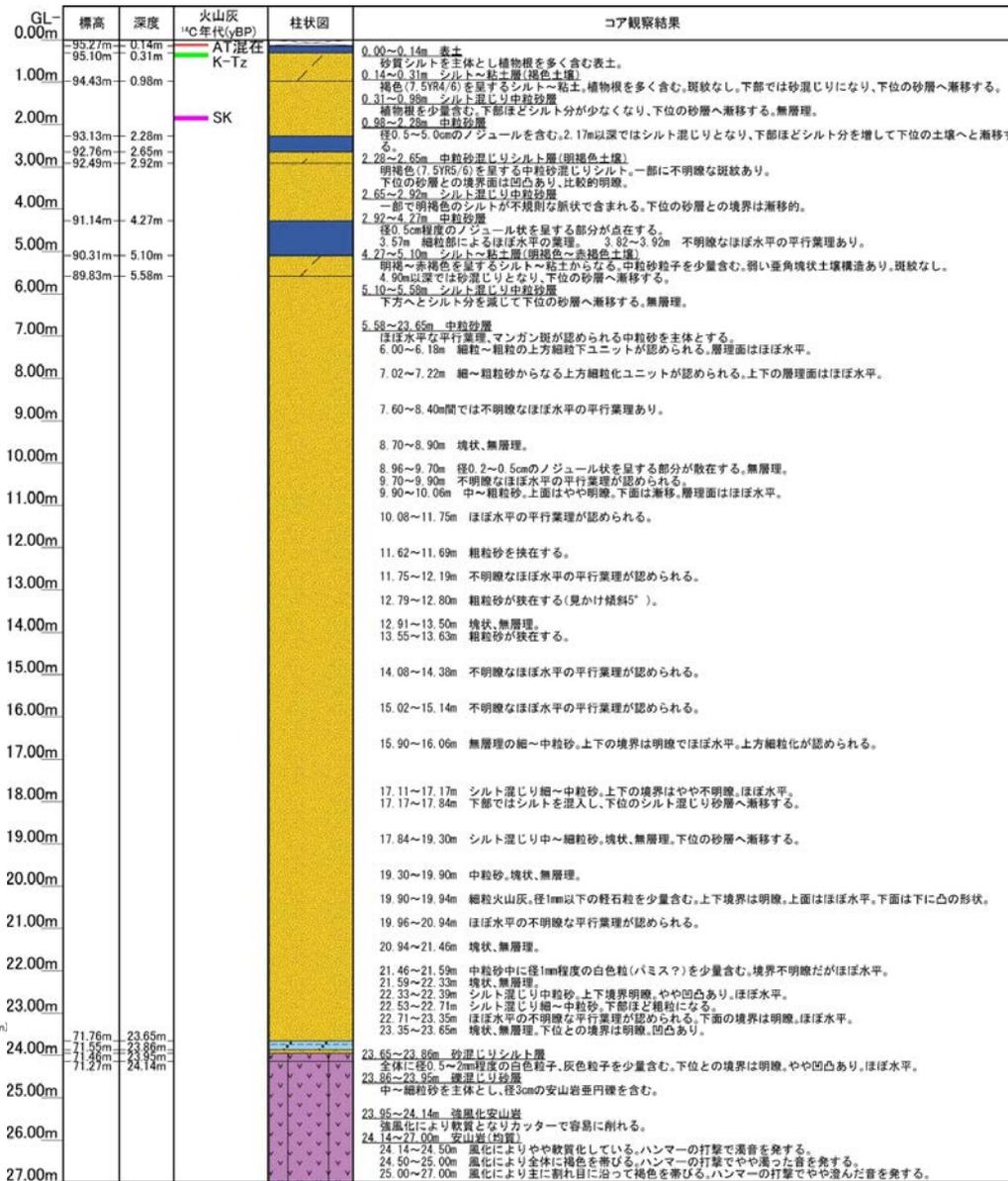
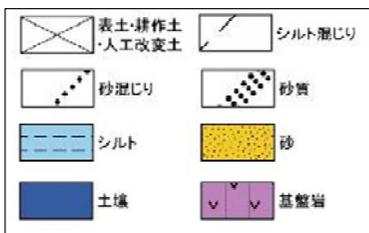
○断層南方の標高約100mの地形面におけるボーリング調査(TJ-c孔)の結果、表層に約24mの砂層があり、これは全体として均質で淘汰が良いこと、貝化石や生痕化石が認められないこと、砂層中に赤みを帯びた土壌を含み、その上下で砂層の層相に大きな変化がないことから、風成砂層と考えられる。

(EL95.41m) TJ-c孔(孔口標高95.41m, 掘進長27.0m, 鉛直)

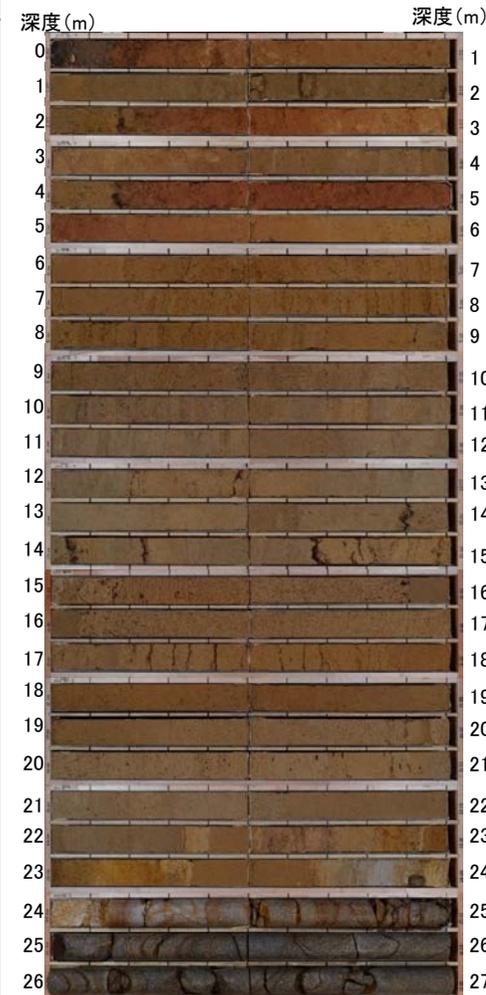


地形区分図

柱状図凡例



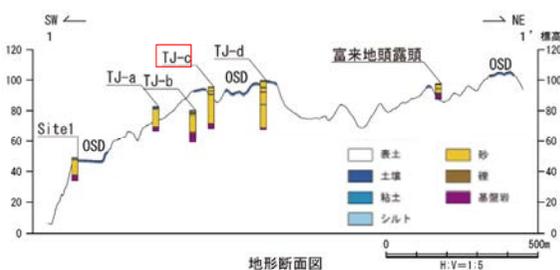
柱状図



コア写真

テフラ的年代(町田・新井, 2011)

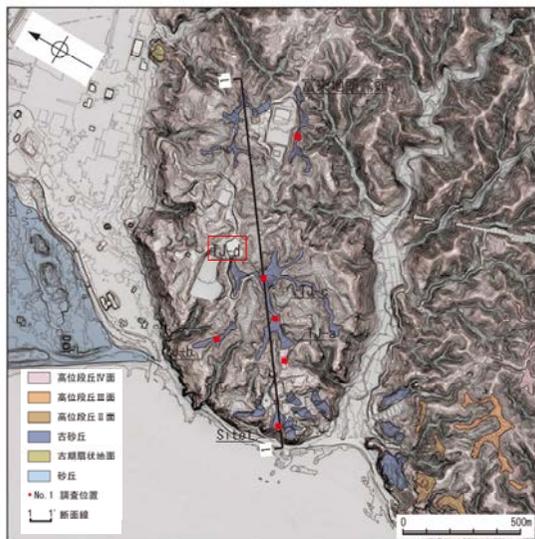
AT: 2.8万~3万年前
K-Tz: 9.5万年前
SK: 10.5万年前



地形断面図

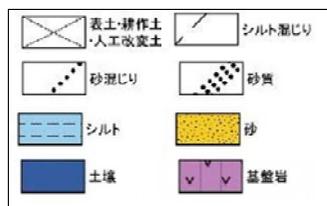
ボーリング調査 TJ-d孔

○断層南方の標高約100mの地形面におけるボーリング調査(TJ-d孔)の結果、表層に約30mの砂層があり、これは全体として均質で淘汰が良いこと、貝化石や生痕化石が認められないこと、砂層中に赤みを帯びた土壌を含み、その上下で砂層の層相に大きな変化がないことから、風成砂層と考えられる。



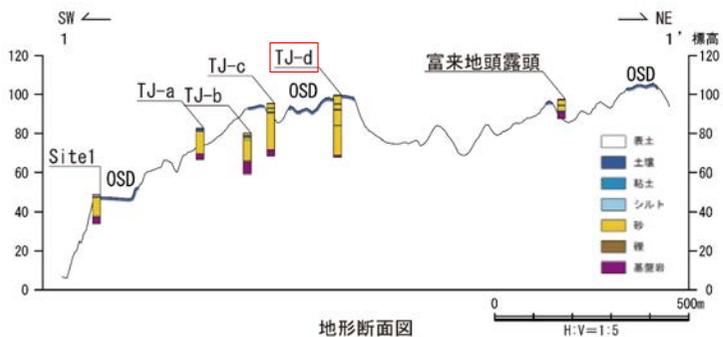
地形区分図

柱状図凡例



テフラの年代(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前
Aso-4: 8.5万~9万年前
K-Tz: 9.5万年前

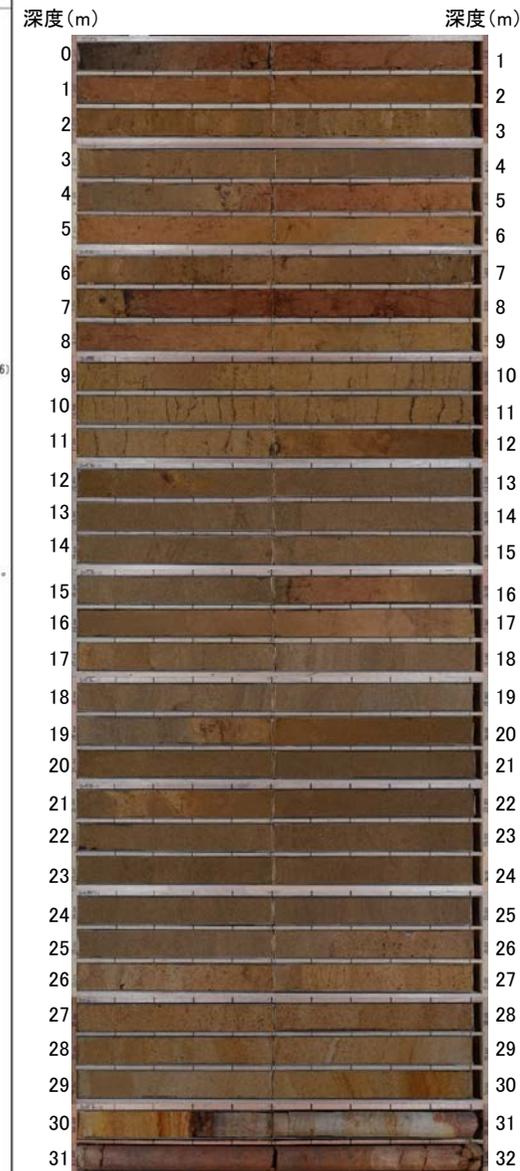


地形断面図

TJ-d孔(孔口標高99.73m, 掘進長32.0m, 鉛直)



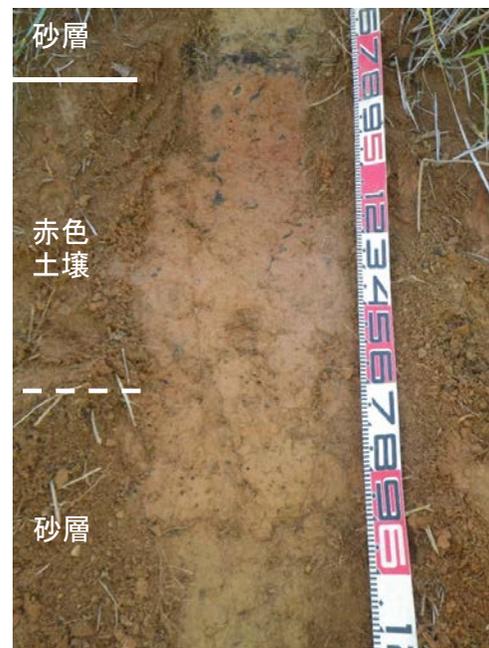
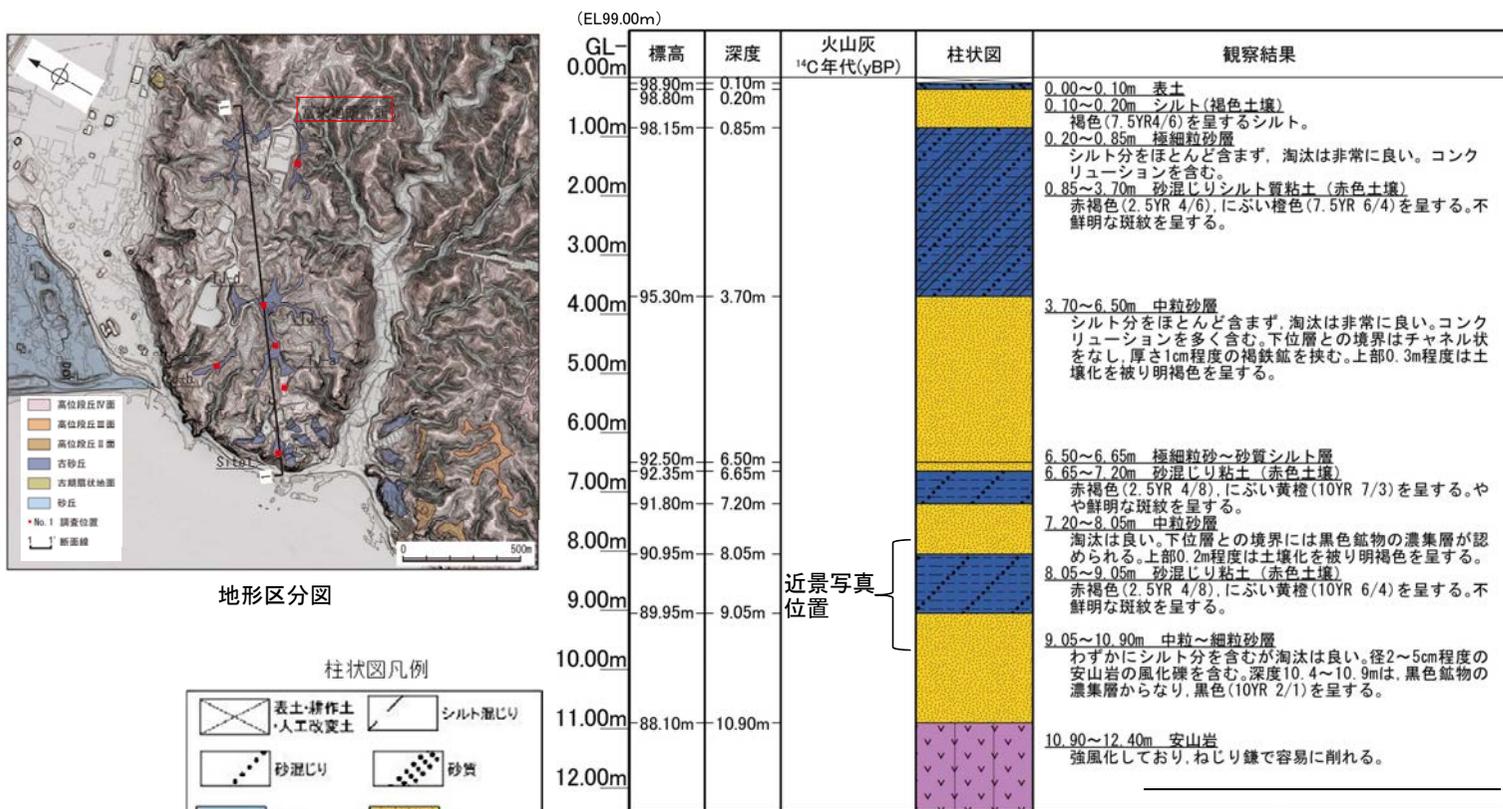
柱状図



コア写真

露頭調査 富来地頭露頭

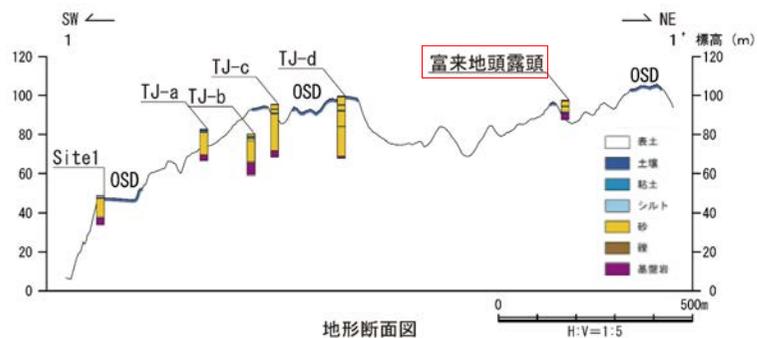
○断層南方の標高約100mの地形面に隣接する地点での表土はぎ調査(富来地頭露頭)の結果、表層に約10mの砂層があり、これは全体として均質で淘汰が良いこと、貝化石や生痕化石が認められないこと、砂層中に赤みを帯びた土壌を含むことから、風成砂層と考えられる。



近景写真
(位置は柱状図参照)



露頭写真(遠景)

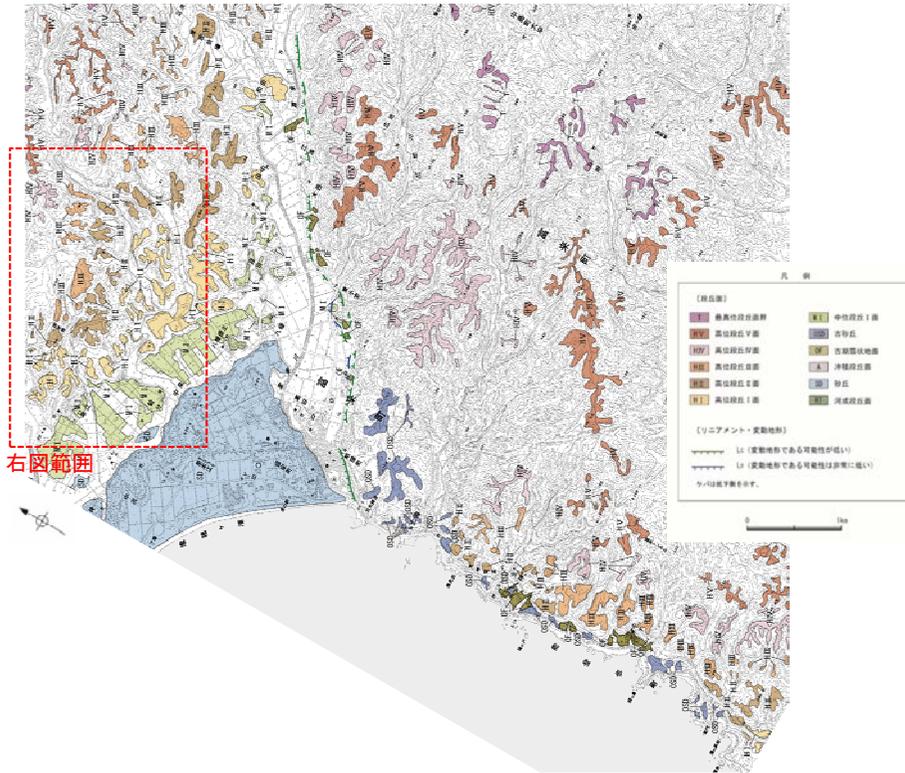


地形断面図

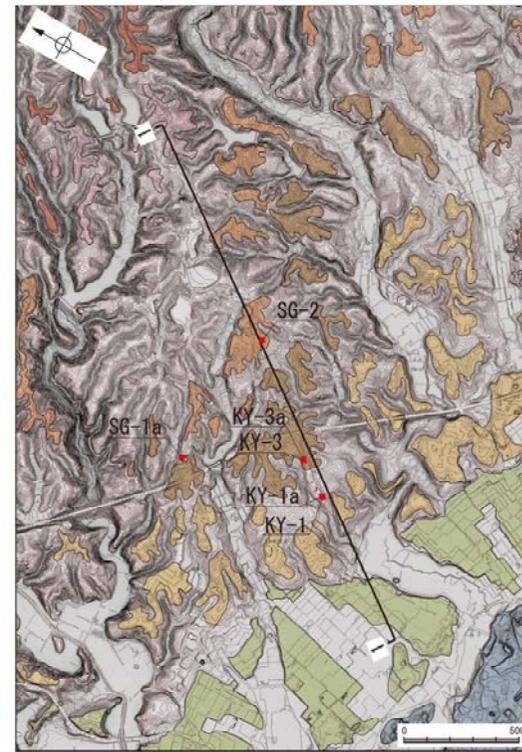
(5) 富来川南岸断層北方の高位段丘面調査

富来川南岸断層北方の高位段丘面調査結果

- 断層北方の高位段丘面についても、断層南方の地形面と同様に、地形面の形成年代と旧汀線高度に関する検討を行った。
- 地形調査の結果、本エリアの高位段丘面は、断層南方の高位段丘面と比べて分布の連続性がよい。
- これらの地形面について地質調査を行った結果、海成堆積物の分布を確認し、旧汀線高度は高位段丘Ⅰ面が約40m、高位段丘Ⅱ面が約60m、高位段丘Ⅲ面が約70m以上と推定された。



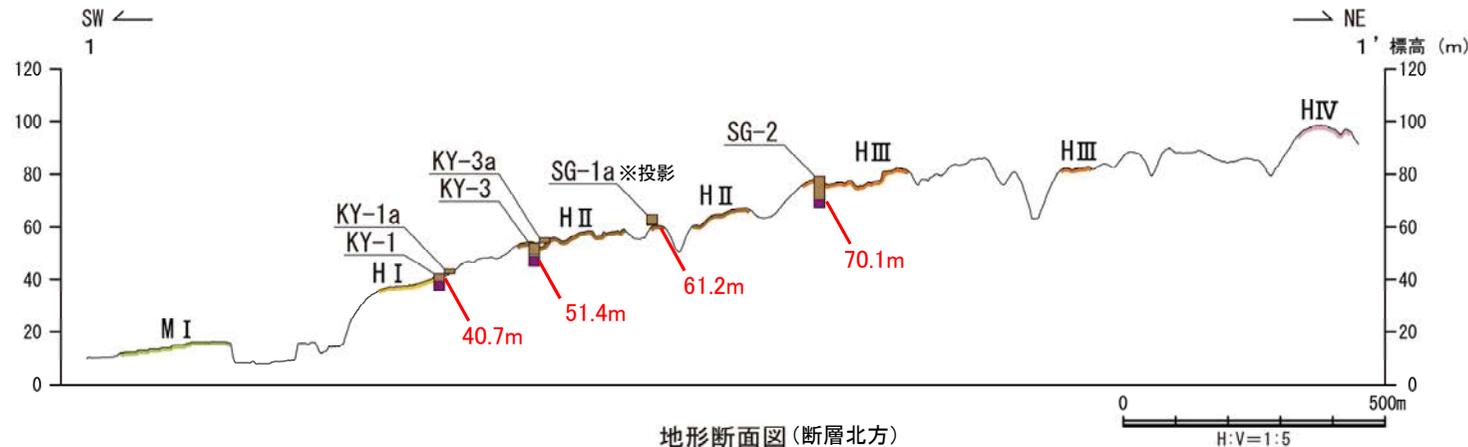
調査位置図



調査位置図(詳細)

〔調査位置図〕

- 高位段丘Ⅴ面
 - 高位段丘Ⅳ面
 - 高位段丘Ⅲ面
 - 高位段丘Ⅱ面
 - 高位段丘Ⅰ面
 - 中位段丘Ⅰ面
 - 砂丘
 - No. 1 調査位置
- 1 1' 断面線



地形断面図(断層北方)

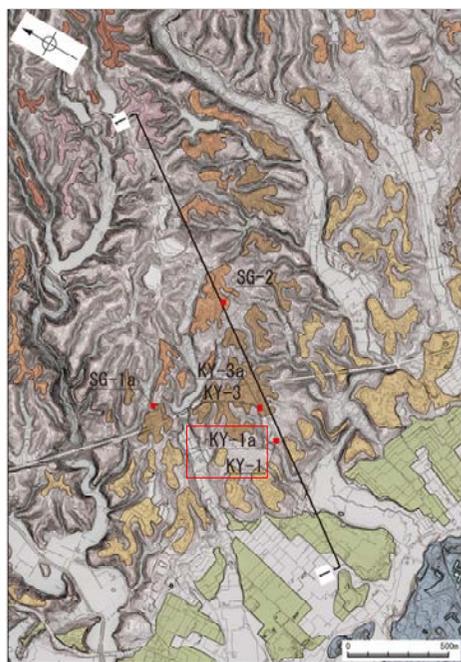
凡例

- 〔地形断面図〕
- 表土
 - 被覆層
 - 海成堆積物
 - 基盤岩

70.0m 基盤岩、海成堆積物の上面標高

ボーリング調査KY-1孔, 露頭調査KY-1a

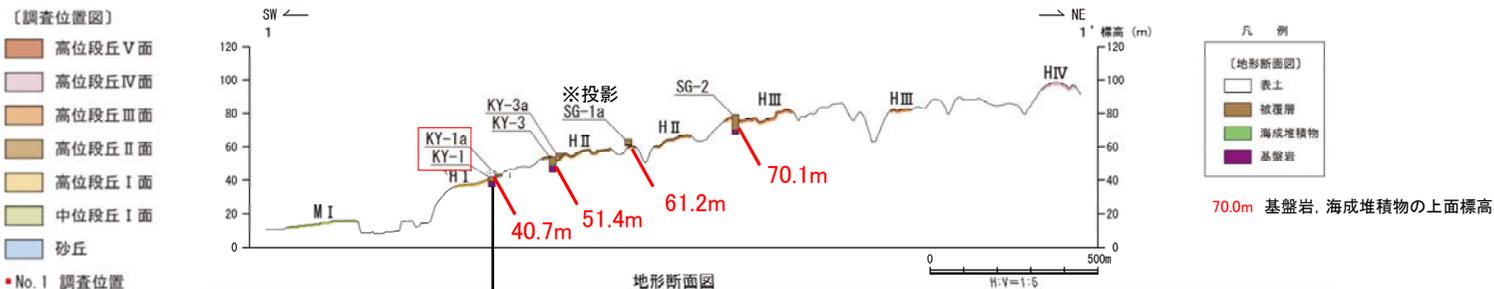
○高位段丘 I 面に隣接する地点におけるボーリング調査 (KY-1 孔), 露頭調査 (KY-1a) の結果, 基盤岩の上面標高の上面標高は40.7mであり, 本地点はH I 面の段丘内縁に近接することから, これが旧汀線高度に相当する。



調査位置図

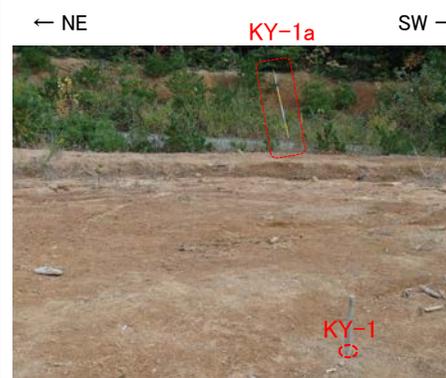
テフラの年代(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前
K-Tz: 9.5万年前

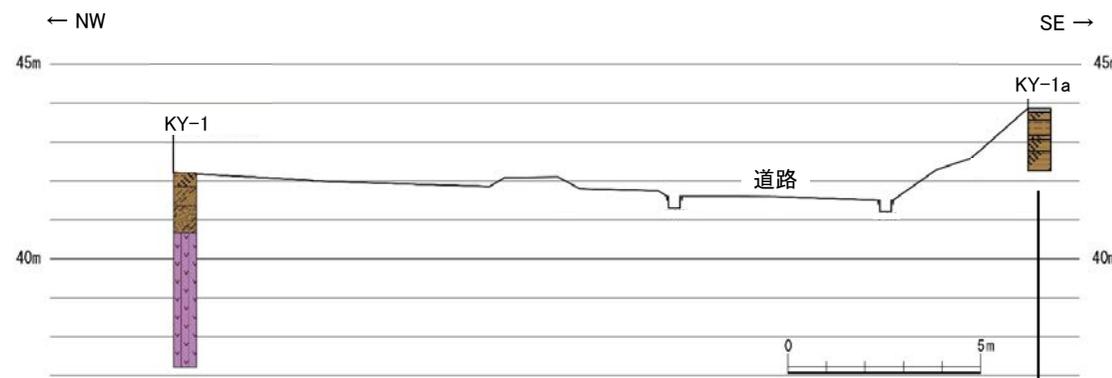


地形断面図

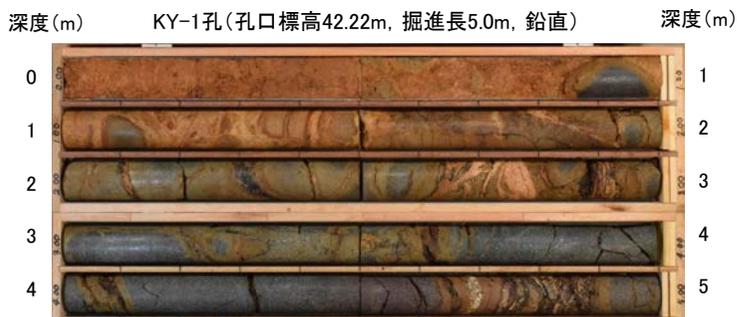
KY-1 孔に加え, 付近の露頭調査 (KY-1a) によりデータを補完した。



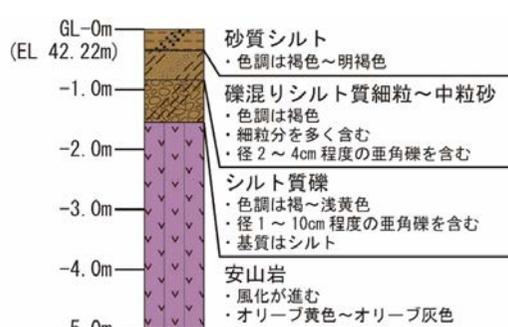
調査地点周辺状況写真



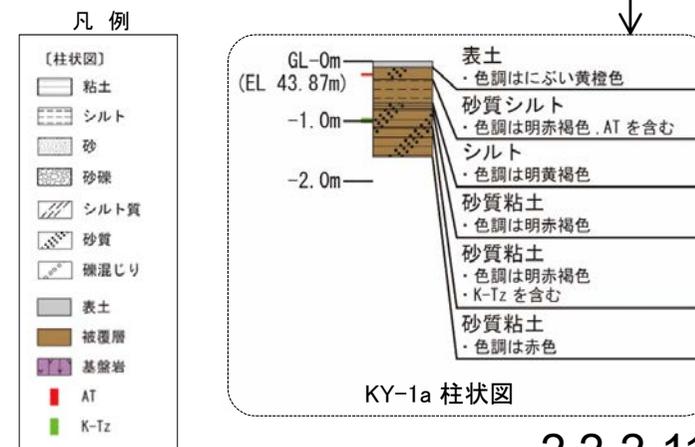
調査地点周辺の地形断面図



KY-1 孔 コア写真



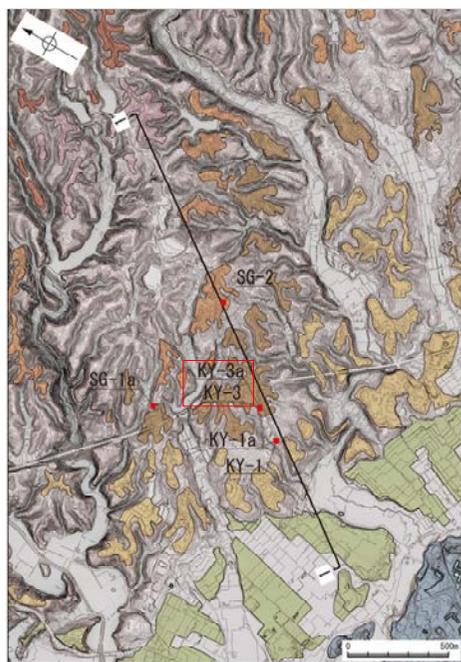
KY-1 孔 柱状図



KY-1a 柱状図

ボーリング調査KY-3孔, 露頭調査KY-3a

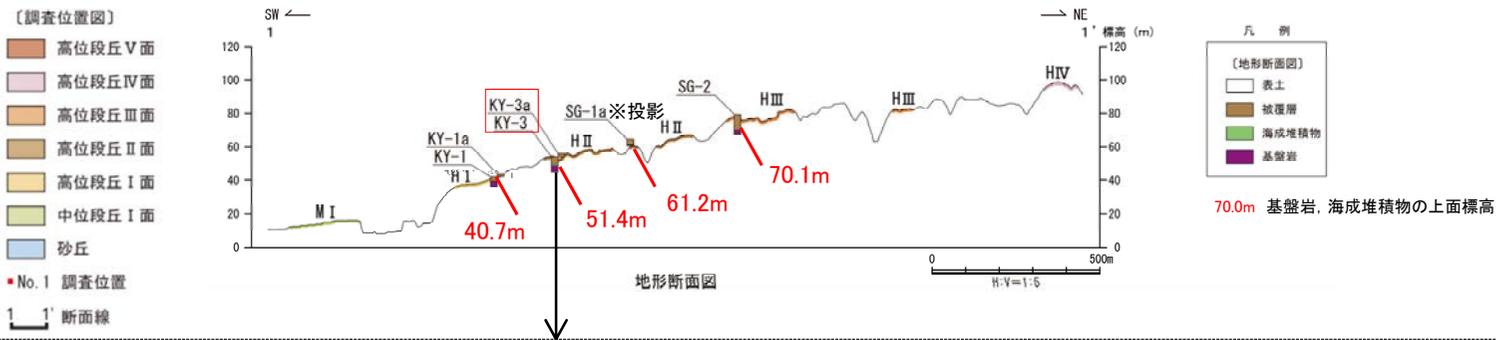
○高位段丘Ⅱ面の前縁付近におけるボーリング調査(KY-3孔), 露頭調査(KY-3a)の結果, 基盤岩直上にシルト質礫層が認められ, これは海成堆積物と考えられる。この上面標高は51.4mであることから, 高位段丘Ⅱ面の旧汀線高度はこれ以上と考えられる。



調査位置図

テフラの年代(町田・新井, 2011)

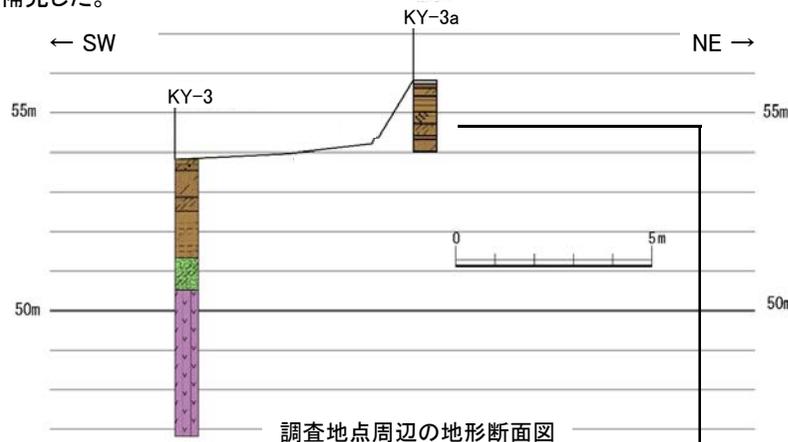
AT: 2.8万~3万年前
K-Tz: 9.5万年前
SK: 10.5万年前



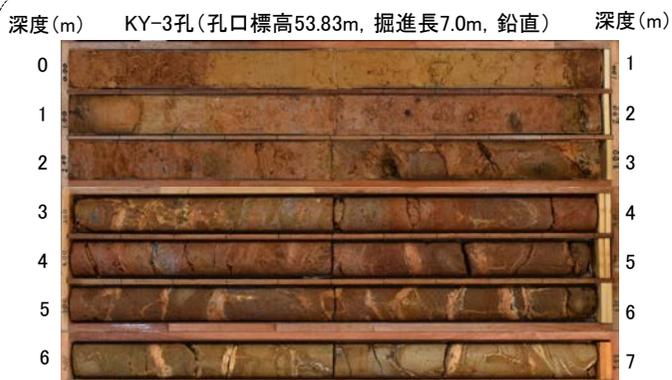
KY-3孔に加え, 付近の露頭調査(KY-3a)によりデータを補完した。



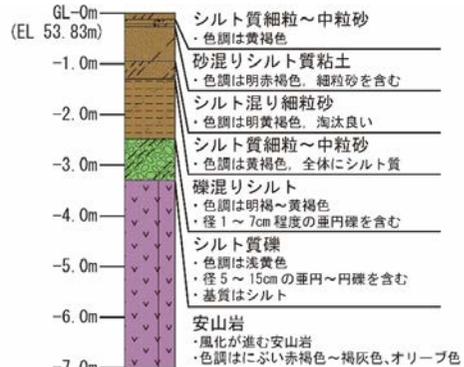
調査地点周辺状況写真



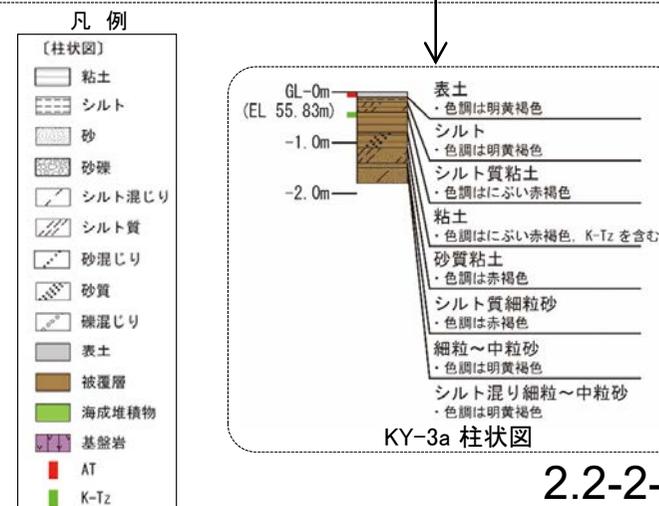
調査地点周辺の地形断面図



KY-3孔 コア写真



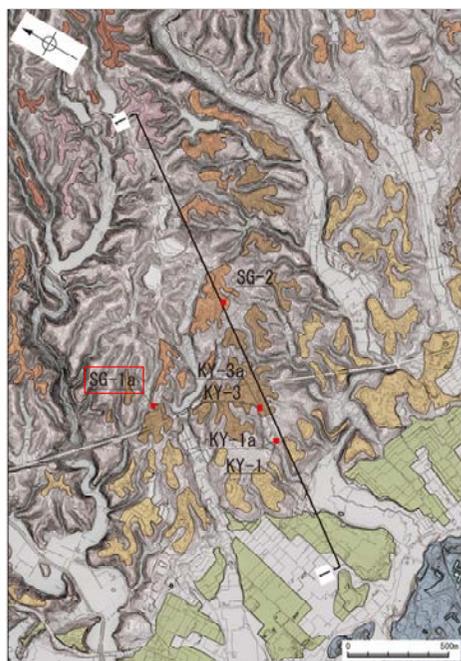
KY-3孔 柱状図



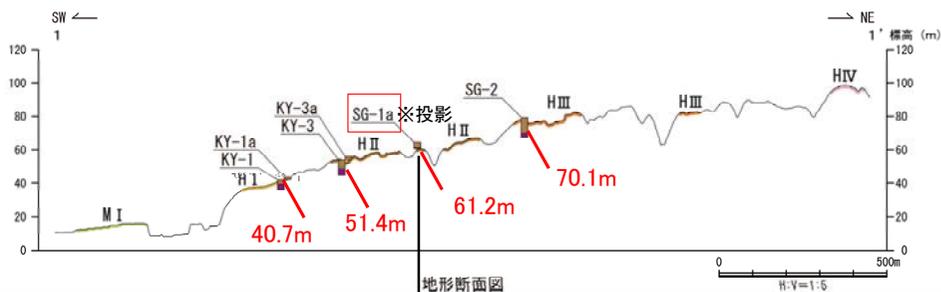
KY-3a 柱状図

露頭調査SG-1a

○高位段丘Ⅱ面の段丘面内縁付近における露頭調査(SG-1a)の結果、基盤岩の上面標高は61.2mである。本地点は段丘面内縁付近に位置することから、この上面標高が旧汀線に相当すると考えられる。



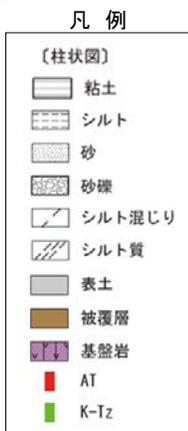
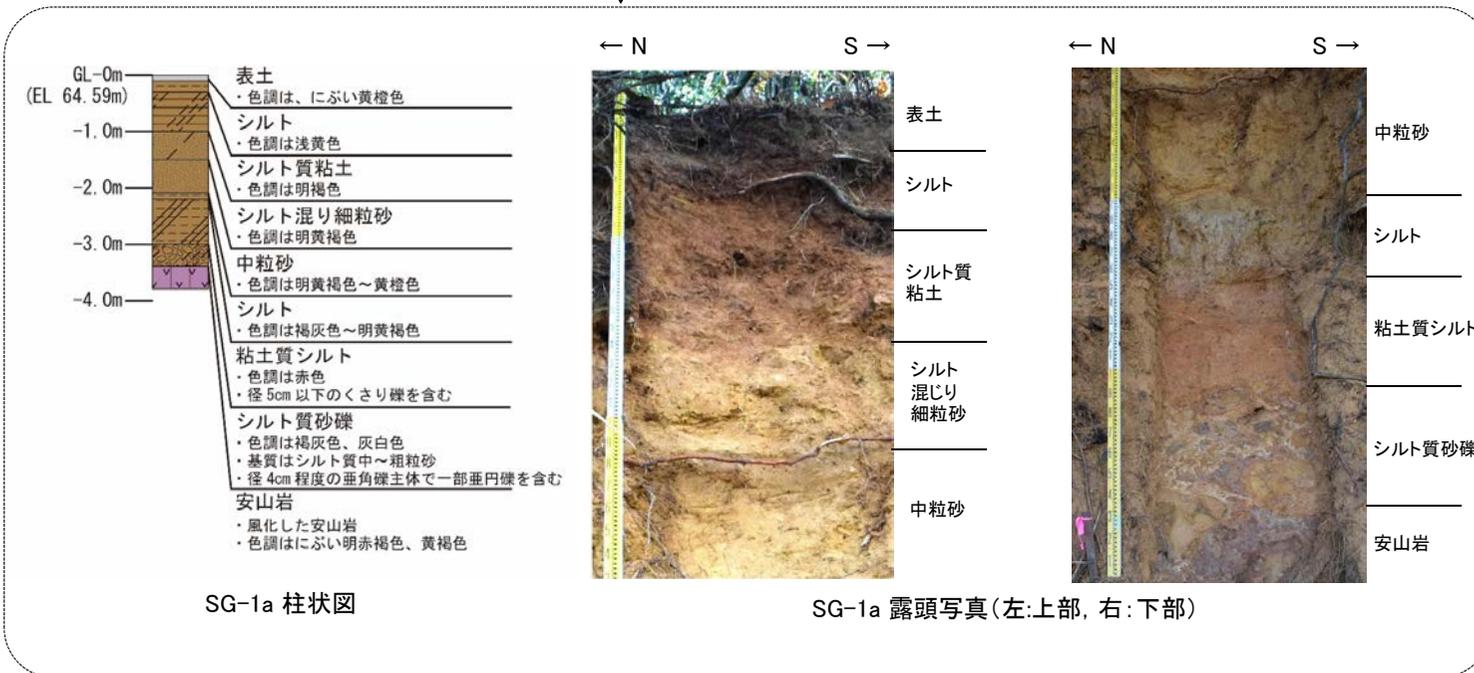
調査位置図



地形断面図



70.0m 基盤岩、海成堆積物の上面標高



テフラの年代(町田・新井, 2011)

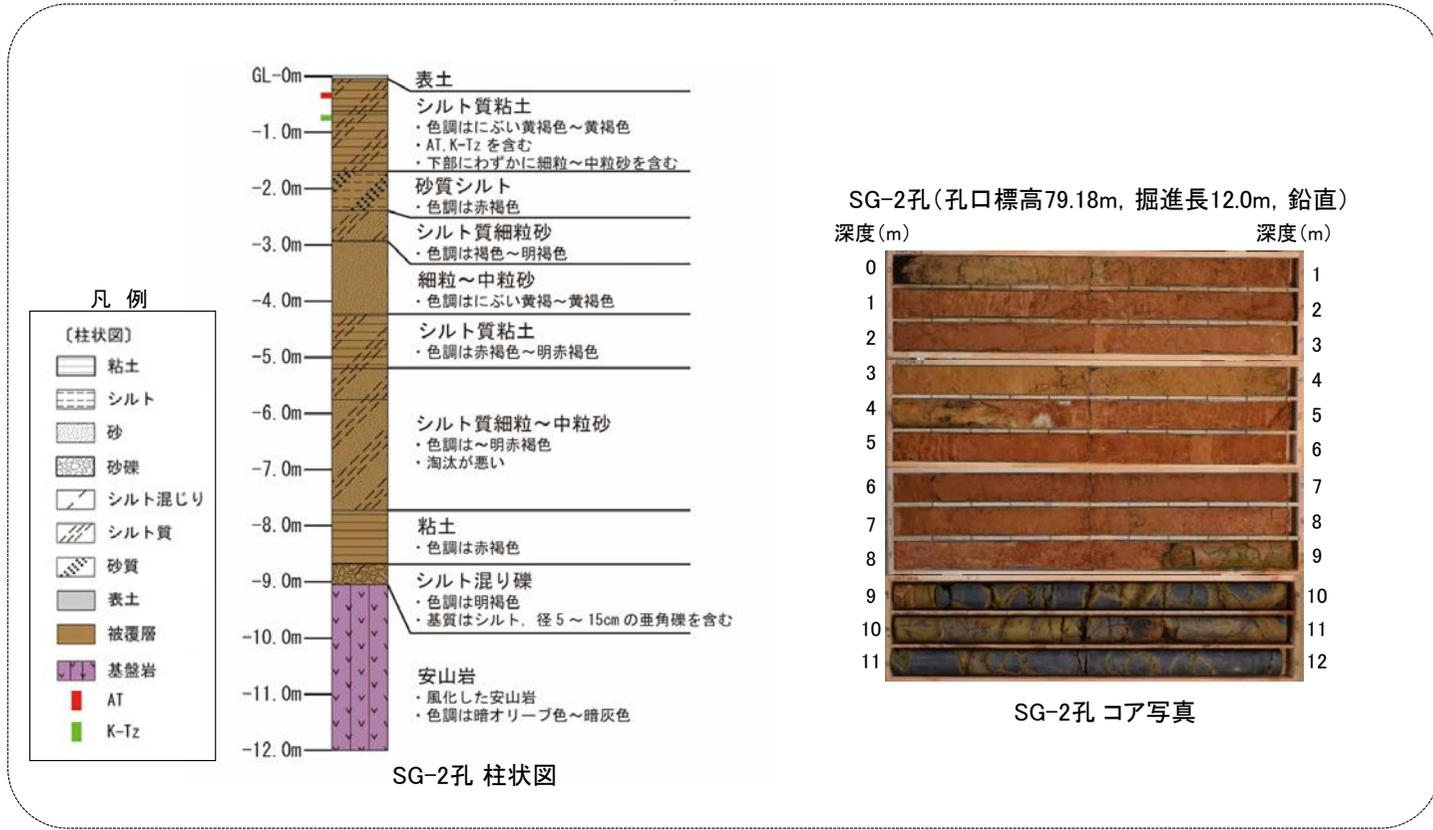
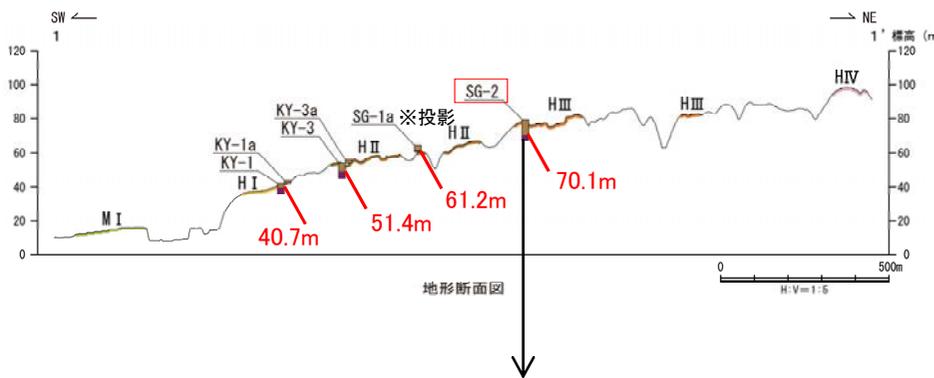
AT: 2.8万～3万年前
K-Tz: 9.5万年前

ボーリング調査SG-2孔

○高位段丘Ⅲ面におけるボーリング調査(SG-2孔)の結果, 基盤岩の上面標高は70.1mである。本地点は段丘面前縁付近に位置することから, 旧汀線高度は70.1mより高いと考えられる。



調査位置図



テフラの年代(町田・新井, 2011)

AT: 2.8万~3万年前
K-Tz: 9.5万年前

余白

参考文献

- 青木かおり・町田洋(2006):日本に分布する第四紀後期広域テフラの主元素組成—K₂O—TiO₂図によるテフラの識別, 地質調査研究報告, 57, 239-258.
- 古澤明・中村千怜(2009):石英に含まれるガラス包有物の主成分分析によるK-Tzの識別, 地質学雑誌, 115, 10, 544-547.
- 服部貴志・浜田昌明・高山陶子・小野田敏・坂下学・山口弘幸・平松良浩(2014):古砂丘・古期扇状地に関する空中写真を活用したDEM解析による地形特性の検討, 地形, 35, 4.
- 池田安隆・今泉俊文・東郷正美・平川一臣・宮内崇裕・佐藤比呂志(2002):第四紀逆断層アトラス, 東京大学出版会.
- 井上卓彦・尾崎正紀・岡村行信(2010):能登半島北部域20万分の1海陸シームレス地質図及び断面図, 海陸シームレス地質情報集, 「能登半島北部沿岸域」, 数値地質図S-1, 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 上嶋正人・木川栄一・駒澤正夫(2002):能登半島東方・重力異常図・磁気異常図説明書, no.59(CD), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 上嶋正人・石原文実・木川栄一・駒澤正夫(2007):能登半島西方重力異常図・磁気異常図説明書, no.61(CD), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 小池一之・町田洋(編)(2001):日本の海成段丘アトラス, 東京大学出版会.
- 町田洋・新井房夫(2011):新編火山灰アトラス[日本列島とその周辺](第2刷), 東京大学出版会.
- 長橋良隆・佐藤孝子・竹下欣宏・田原敬治・公文富士夫(2007):長野県, 高野層ポーリングコア(TKN-2004)に挟在する広域テフラ層の層序と編年, 第四紀研究, 46-4, 305-325.
- 日本地質学会編(2006):日本地方地質誌4 中部地方, 朝倉書店.
- 野原幸嗣・野口猛雄・穴田文浩・浜田昌明・小野田敏・沼田洋一・山野芳樹・鈴木雄介・佐藤比呂志(2007):航空レーザ計測による2007年能登半島地震の地殻変動, 地震研究所彙報, 82, 321-331.
- 岡村行信(2002):20万分の1能登半島東方海底地質図及び同説明書, 海洋地質図, no.59(CD), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 岡村行信(2007):20万分の1能登半島西方海底地質図及び同説明書, 海洋地質図, no.61(CD), 産業技術総合研究所地質調査総合センター.
- 太田陽子・国土地理院地理調査部(1997):「能登半島」1:100,000, 地殻変動土地条件図, 国土地理院技術資料, D.1-No.347.
- 斎藤文紀(1988):沿岸域の地形や堆積物と波浪作用限界水深の関係, 月刊 地球, 10, 7, 458-466.
- 杉戸信彦・堤 浩之(2010):1:25,000 都市圏活断層図, 邑知潟断層帯とその周辺「邑知潟」「邑知潟西南部」解説書, 国土地理院技術資料, D・1—No.561,国土地理院.